

G1.Sniper M3

ユーザーズマニュアル

改版 1002

12MJ-G1SNPM3-1002R

Declaration of Conformity

Ver. 1.0 (2009-06-01)

G.B.T. Technology Trading GmbH
Bülowkoppel 16, 22047 Hamburg, Germany

(description of the apparatus, system, installation to which it refers)

G1.Sniper M3
Motherboard

is in conformity with
(reference to the specification under which conformity is declared)

In accordance with the EMC Directive 2004/10/EU

EN 55011

Limits and methods of measurement of radio disturbance characteristics of industrial, scientific, and medical (ISM) high frequency equipment

EN 55013

Limits and methods of measurement of radio disturbance characteristics of broadcast receivers and associated equipment

EN 55014-1

Limits and methods of measurement of radio disturbance characteristics of household electrical appliances, portable tools and similar electrical apparatus

EN 55015

Limits and methods of measurement of radio disturbance characteristics of fluorescent lamps and luminaires

EN 55020

Limits and methods of measurement of radio disturbance characteristics of broadcast receivers and associated equipment

EN 55022

Limits and methods of measurement of radio disturbance characteristics of information technology equipment

DIN VDE 0855

Cabled distribution systems; Equipment for receiving and/or distributing sound and television signals part 10 part 12

EN 60065

Safety requirements for mains-operated electric and related apparatus for household and similar electrical appliances

EN 60335

Safety requirements for uninterruptible power systems (UPS) electrical appliances



(IEC conformity marking)

The manufacturer also declares the conformity of above mentioned product with the actual required safety standards in accordance with the EU Directive 2006/95/EC

EN 60950

Safety for information technology equipment including electrical business equipment

EN 60911

General and safety requirements for uninterruptible power systems (UPS)

Manufacturer/importer

Signature: Tenny Huang

(Stamp)

Date: Mar. 15, 2012

Name : Tenny Huang

DECLARATION OF CONFORMITY

Per FCC Part 2 Section 2.1077(a)



Responsible Party Name: G.B.T. INC. (U.S.A.)

Address: 17358 Railroad Street

City of Industry, CA 91748

Phone/Fax No: (626) 854-9338/(626) 854-9326

hereby declares that the product

Product Name: Motherboard

Model Number: G1.Sniper M3

Conforms to the following specifications:

FCC Part 15, Subpart B, Section 15.107(a) and Section 15.109

(a), Class B Digital Device

Supplementary Information:

This device complies with part 15 of the FCC Rules. Operation is subject to the following two conditions: (1) This device may not cause harmful and (2) this device must accept any inference received, including that may cause undesired operation.

Representative Person's Name: ERIC LU

Signature: ERIC LU

Date: Mar. 15, 2012

著作権

© 2012 GIGA-BYTE TECHNOLOGY CO., LTD. 版權所有。

本マニュアルに記載された商標は、それぞれの所有者に対して法的に登録されたものです。

免責条項

このマニュアルの情報は著作権法で保護されており、GIGABYTE に帰属します。このマニュアルの仕様と内容は、GIGABYTE により事前の通知なしに変更されることがあります。本マニュアルのいかなる部分も、GIGABYTE の書面による事前の承諾を受けることなしには、いかなる手段によっても複製、コピー、翻訳、送信または出版することは禁じられています。

ドキュメンテーションの分類

本製品を最大限に活用できるように、GIGABYTE では次のタイプのドキュメンテーションを用意しています：

- 製品を素早くセットアップできるように、製品に付属するクイックインストールガイドをお読みください。
- 詳細な製品情報については、ユーザーズマニュアルをよくお読みください。

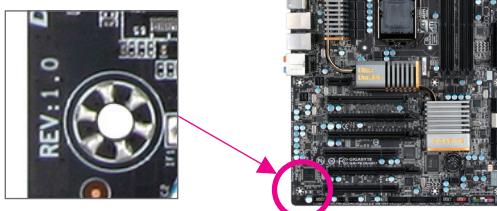
製品関連の情報は、以下の Web サイトを確認してください：

<http://www.gigabyte.com>

マザーボードリビジョンの確認

マザーボードのリビジョン番号は「REV: X.X.」のように表示されます。例えば、「REV: 1.0」はマザーボードのリビジョンが 1.0 であることを意味します。マザーボード BIOS、ドライバを更新する前に、または技術情報を探しの際は、マザーボードのリビジョンをチェックしてください。

例：



目次

ボックスの内容.....	6
G1.Sniper M3 マザーボードのレイアウト.....	7
G1.Sniper M3 マザーボードブロック図.....	8
第 1 章 ハードウェアの取り付け	9
1-1 取り付け手順.....	9
1-2 製品の仕様	10
1-3 CPU および CPU クーラーの取り付け	13
1-3-1 CPU を取り付ける	13
1-3-2 CPU クーラーを取り付ける.....	15
1-4 メモリの取り付け	16
1-4-1 デュアルチャネルのメモリ設定.....	16
1-4-2 メモリの取り付け.....	17
1-5 拡張カードを取り付ける.....	18
1-6 AMD CrossFireX™/NVIDIA SLI構成のセットアップ	19
1-7 背面パネルのコネクタ	20
1-8 内部コネクタ	23
第 2 章 BIOS セットアップ	31
2-1 起動画面.....	32
2-2 メインメニュー	33
2-3 M.I.T.	35
2-4 System (システム).....	45
2-5 BIOS Features (BIOS の機能)	46
2-6 Peripherals (周辺機器).....	48
2-7 Power Management (電力管理).....	51
2-8 Save & Exit (保存して終了)	53
第 3 章 ドライバのインストール.....	55
3-1 Installing Chipset Drivers (チップセットドライバのインストール).....	55
3-2 Application Software (アプリケーションソフトウェア)	56
3-3 Technical Manuals (技術マニュアル)	56

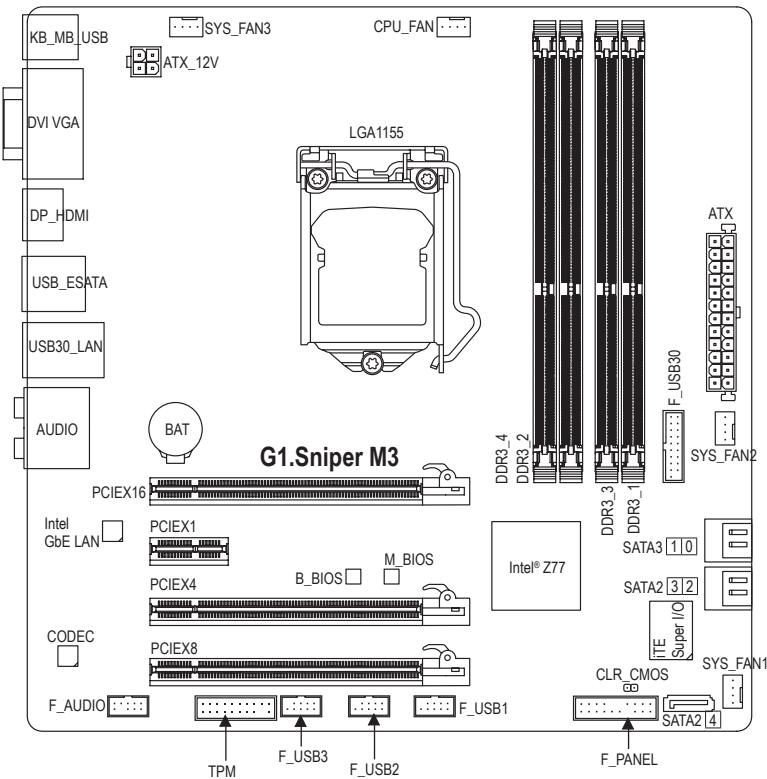
3-4	Contact (連絡先)	57
3-5	System (システム).....	57
3-6	Download Center (ダウンロードセンター).....	58
3-7	New Program (新プログラム).....	58
第4章 固有の機能		59
4-1	Xpress Recovery2.....	59
4-2	BIOS 更新ユーティリティ	62
4-2-1	Q-Flash ユーティリティで BIOS を更新する.....	62
4-2-2	@BIOS ユーティリティで BIOS を更新する.....	65
4-3	EasyTune 6	66
4-4	Q-Share.....	67
4-5	eXtreme Hard Drive (X.H.D)	68
4-6	Auto Green	69
4-7	Intel Rapid Start Technology	70
4-8	Intel Smart Connect Technology	72
4-9	Intel Smart Response.....	74
第5章 付録		77
5-1	SATA / ハードドライブの設定	77
5-1-1	SATA コントローラを構成する.....	77
5-1-2	SATA RAID/AHCI ライバとオペレーティングシステムのインストール	85
5-2	オーディオ入力および出力を設定	88
5-2-1	2/5.1-チャンネルオーディオの設定	88
5-2-2	Creative Software Suite	88
5-2-3	S/PDIF アウトを構成する	92
5-2-4	オーディオ録音を設定する	93
5-2-5	Sound Recorderを使用する	95
5-3	トラブルシューティング	96
5-3-1	良くある質問	96
5-3-2	トラブルシューティング手順.....	97
5-4	規制声明	99

ボックスの内容

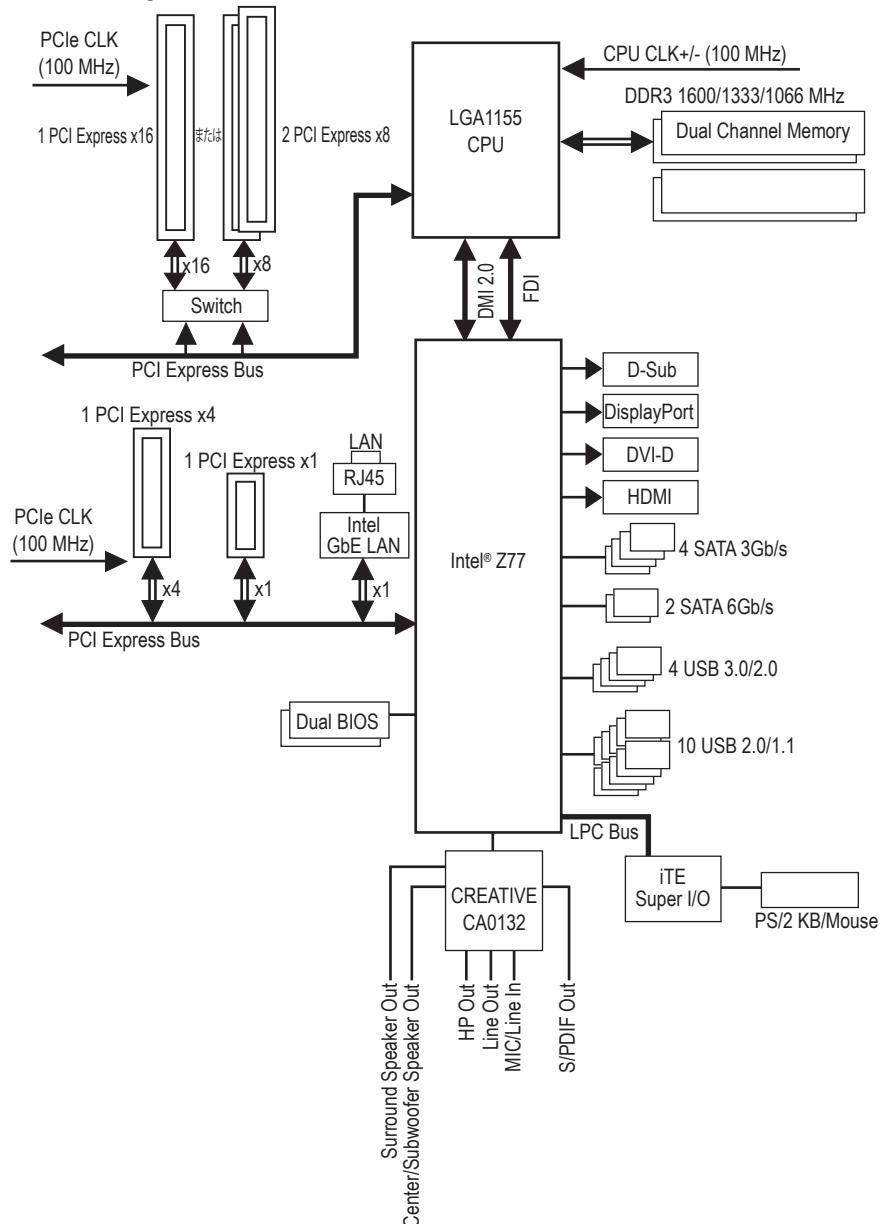
- G1.Sniper M3マザーボード
- マザーボードドライバディスク
- ユーザーズマニュアル
- クイックインストールガイド
- SATA 6Gb/sケーブル (x6)
- I/O シールド
- 2方向SLIブリッジコネクタ

上記のボックスの内容は参考専用であり、実際のアイテムはお求めになった製品パッケージにより異なります。ボックスの内容は、事前の通知なしに変更することがあります。

G1.Sniper M3 マザーボードのレイアウト



G1.Sniper M3 マザーボードブロック図



製品の情報/制限の詳細は、"1-2 製品の仕様" を参照してください。

第1章 ハードウェアの取り付け

1-1 取り付け手順

マザーボードには、静電放電(ESD)の結果、損傷する可能性のある精巧な電子回路やコンポーネントが数多く含まれています。取り付ける前に、ユーザーズマニュアルをよくお読みになり、以下の手順に従ってください。

- 取り付け前に、シャーシがマザーボードに適していることを確認してください。
- 取り付ける前に、マザーボードの S/N (シリアル番号) ステッカーまたはディーラーが提供する保証ステッカーを取り外したり、はがしたりしないでください。これらの不要ステッカーは保証の確認に必要です。
- マザーボードまたはその他のハードウェアコンポーネントを取り付けたり取り外したりする前に、常にコンセントからコードを抜いて AC 電力を切ってください。
- ハードウェアコンポーネントをマザーボードの内部コネクタに接続しているとき、しっかりと安全に接続されていることを確認してください。
- マザーボードを扱う際には、金属リード線やコネクタには触れないでください。
- マザーボード、CPU またはメモリなどの電子コンポーネントを扱うとき、静電放電(ESD)リストラップを着用することをお勧めします。ESD リストラップをお持ちでない場合、手を乾いた状態に保ち、まず金属物体に触れて静電気を取り除いてください。
- マザーボードを取り付ける前に、ハードウェアコンポーネントを静電防止パッドの上に置くか、静電遮断コンテナの中に入れてください。
- マザーボードから電源装置のケーブルを抜く前に、電源装置がオフになっていることを確認してください。
- パワーをオンにする前に、電源装置の電圧が地域の電源基準に従っていることを確認してください。
- 製品を使用する前に、ハードウェアコンポーネントのすべてのケーブルと電源コネクタが接続されていることを確認してください。
- マザーボードの損傷を防ぐために、ネジがマザーボードの回路やそのコンポーネントに触れないようにしてください。
- マザーボードの上またはコンピュータのケース内部に、ネジや金属コンポーネントが残っていないことを確認してください。
- コンピュータシステムは、平らでない面の上に置かないでください。
- コンピュータシステムを高温環境で設置しないでください。
- 取り付け中にコンピュータのパワーをオンになると、システムコンポーネントが損傷するだけでなく、ケガにつながる恐れがあります。
- 取り付けの手順について不明確な場合や、製品の使用に関して疑問がある場合は、正規のコンピュータ技術者にお問い合わせください。

1-2 製品の仕様

 CPU	<ul style="list-style-type: none"> LGA1155/パッケージのIntel® Core™ i7プロセッサ/ Intel® Core™ i5プロセッサ/Intel® Core™ i3プロセッサ/ Intel® Pentium® プロセッサ/Intel® Celeron® プロセッサのサポート (最新の CPU サポートリストについては、GIGABYTE の Web サイトに アクセスしてください。) L3 キャッシュは CPU で異なります
 チップセット	<ul style="list-style-type: none"> Intel® Z77 Express チップセット
 メモリ	<ul style="list-style-type: none"> 最大 32 GB のシステムメモリをサポートする 1.5V DDR3 DIMM ソケット (x4) <ul style="list-style-type: none"> * Windows 32ビットオペレーティングシステムの制限により、4 GB以上の物理メモリが取り付けられているとき、表示される実際のメモリサイズは4 GBより少くなります。 デュアルチャネルメモリアーキテクチャ DDR3 1600/1333/1066 MHz メモリモジュールのサポート 非 ECC メモリモジュールのサポート XMP (エクストリームメモリプロファイル) メモリモジュールのサポート <p>(サポートされる最新のメモリ速度とメモリモジュールについては、GIGABYTEのWebサイトにアクセスしてください。)</p>
 オンボードグラフィックス	<ul style="list-style-type: none"> チップセット: - D-Subポート (x1) - DVI-Dポート (x1), 1920x1200の最大解像度をサポートします <ul style="list-style-type: none"> * DVI-Dポートは、アダプタによるD-Sub接続をサポートしていません - HDMIポート (x1), 1920x1200の最大解像度をサポートします - DisplayPortポート (x1), 2560x1600の最大解像度をサポートします
 オーディオ	<ul style="list-style-type: none"> Creative CA0132チップ Sound Blaster Recon3Diのサポート ハイディフィニションオーディオ 2/5.1 チャンネル S/PDIFアウトのサポート
 LAN	<ul style="list-style-type: none"> Intel GbE LAN チップ (10/100/1000 Mbit)
 拡張スロット	<ul style="list-style-type: none"> PCI Express x16スロット、x16 (PCIEX16)で動作 (x1) <ul style="list-style-type: none"> * 最適のパフォーマンスを出すために、PCI Expressグラフィックスカードを1つしか取り付けない場合、PCIE16スロットに必ず取り付けてください。 PCI Express x16スロット、x8 (PCIEX8) で動作 (x1) (PCIEX16およびPCIEX8スロットはPCI Express 3.0規格に準拠しています。) <ul style="list-style-type: none"> * PCIE8スロットは、PCIE16スロットとバンド幅を共有します。 PCIE8スロットが装着されているとき、PCIE16スロットは最大x8モードで作動します。 * PCI Express 3.0をサポートするには、Intel 22nm (Ivy Bridge) CPUをインストールする必要があります。 PCI Express x16スロット、x4 (PCIE4)で動作 (x1) PCI Express x1スロット (x1) (PCIE4/PCIE1スロットはPCI Express 2.0 規格に準拠しています。)
 マルチグラフィックス	<ul style="list-style-type: none"> 2方向AMD CrossFireX™/NVIDIA SLIテクノロジーのサポート (PCIE16 と PCIE8) <ul style="list-style-type: none"> * AMD CrossFireX™/NVIDIA SLI が有効になっているとき、PCIE16スロットは最大8倍モードで作動します。

 ストレージイン	<ul style="list-style-type: none"> ◆ チップセット: - 最大 2つの SATA 6Gb/s デバイスをサポートする 2x SATA 6Gb/s コネクタ (SATA3 0/1) - 最大 3つの SATA 3Gb/s デバイスをサポートする 3x SATA 3Gb/s コネクタ (SATA2 2~4) - 最大1つの SATA 3Gb/s デバイスをサポートする背面パネルの1x eSATA 3Gb/s コネクタ - SATA RAID 0, RAID 1, RAID 5、および RAID 10 のサポート <ul style="list-style-type: none"> * RAIDセットがSATA 6Gb/sとSATA 3Gb/sチャンネルにまたがって構築されるとき、RAIDセットのシステムパフォーマンスは接続されているデバイスによって変わります。
 USB	<ul style="list-style-type: none"> ◆ チップセット: - 最大4のUSB 3.0/2.0ポート(背面パネルに2つのポート、内部USB ヘッダーを通して2ポートが使用可能) - 最大10のUSB 2.0/1.1ポート(背面パネルに4つのポート、内部 USBヘッダーを通して6ポートが使用可能)
 内部コネクタ	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 24 ピン ATX メイン電源コネクタ (x1) ◆ 4 ピン ATX 12V 電源コネクタ (x1) ◆ SATA 6Gb/s コネクタ (x2) ◆ SATA 3Gb/s コネクタ (x3) ◆ CPU ファンヘッダ (x1) ◆ システムファンヘッダ (x3) ◆ 前面パネルヘッダ (x1) ◆ 前面パネルオーディオヘッダ (x1) ◆ USB 3.0/2.0 ヘッダ (x1) ◆ USB 2.0/1.1 ヘッダ (x3) ◆ CMOSをジャンパーでクリアする (x1) ◆ 信頼プラットフォームモジュール(TPM)ヘッダー (x1)
 背面パネルのコネクタ	<ul style="list-style-type: none"> ◆ PS/2 キーボード/マウスピート (x1) ◆ D-Subポート (x1) ◆ DVI-Dポート (x1) ◆ HDMIポート (x1) ◆ DisplayPort (x1) ◆ eSATA 3Gb/s コネクタ (x1) ◆ USB 3.0/2.0 ポート (x2) ◆ USB 2.0/1.1 ポート (x4) ◆ RJ-45ポート (x1) ◆ 光学 S/PDIF アウトコネクタ (x1) ◆ オーディオジャック (x5) (センター/サブウーファスピーカーアウト、リアスピーカーアウト、ラインイン/マイクイン、ラインアウト、ヘッドфон)

 I/Oコントローラ	◆ iTE I/O コントローラチップ
 ハードウェア モニタ	<ul style="list-style-type: none"> ◆ システム電圧の検出 ◆ CPU/システム温度検出 ◆ CPU/システムファン速度検出 ◆ CPU過熱警告 ◆ CPU/システムファンの異常警告 ◆ CPU/システムファン速度制御 <p>* CPU/システムファン速度コントロール機能がサポートされているかどうかは、取り付けたCPU/システムクーラーによって異なります。</p>
 BIOS	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 64 Mbit フラッシュ (x2) ◆ 正規ライセンス版AMI EFI BIOSを搭載 ◆ DualBIOS™ のサポート ◆ PnP 1.0a、DMI 2.0、SM BIOS 2.6、ACPI 2.0a
 固有の機能	<ul style="list-style-type: none"> ◆ @BIOSのサポート ◆ Q-Flashのサポート ◆ Xpress Installのサポート ◆ Xpress Recovery2のサポート ◆ EasyTuneのサポート <p>* EasyTuneで利用可能な機能は、マザーボードモデルによって異なります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ eXtreme Hard Drive (X.H.D)のサポート ◆ Auto Greenのサポート ◆ ON/OFF Chargeのサポート ◆ Q-Sshareのサポート ◆ 3D Powerのサポート ◆ EZ Setupのサポート
 バンドルされたソフトウェア	<ul style="list-style-type: none"> ◆ Norton インターネットセキュリティ (OEM バージョン) ◆ Intel® Rapid Start Technology ◆ Intel® Smart Connect Technology ◆ Intel® Smart Response Technology ◆ LucidLogix Virtu MVP <p>* モニターケーブルが背面/パネルにある統合グラフィックポートに接続されていることを確認して下さい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ cFosSpeed
 オペレーティングシステム	<ul style="list-style-type: none"> ◆ Microsoft® Windows 7のサポート
 フォームファクタ	<ul style="list-style-type: none"> ◆ Micro ATX フォームファクタ、24.4cm x 24.4cm

* GIGABYTEは、事前の通知なしに製品仕様と製品関連の情報を変更する場合があります。

1-3 CPU および CPU クーラーの取り付け

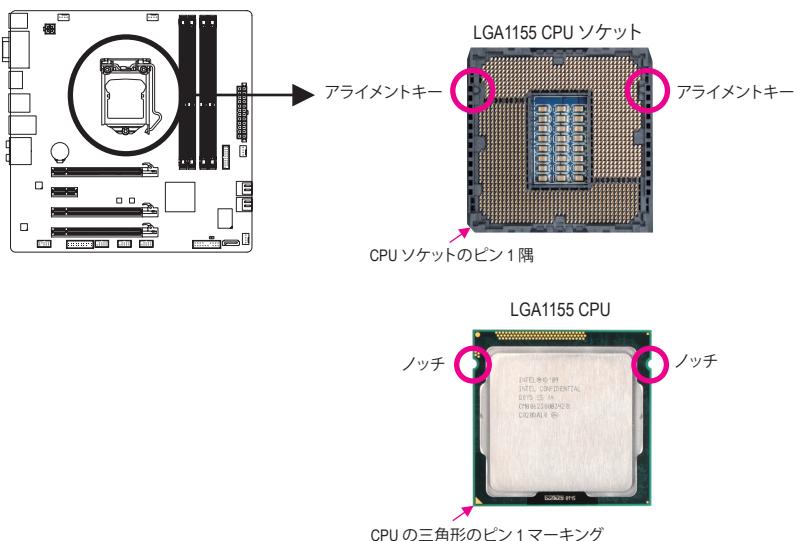


CPUを取り付ける前に次のガイドラインをお読みください:

- マザーボードがCPUをサポートしていることを確認してください。
(最新のCPUサポートリストについては、GIGABYTEのWebサイトにアクセスしてください。)
- ハードウェアが損傷する原因となるため、CPUを取り付ける前に必ずコンピュータのパワーをオフにし、コンセントから電源コードを抜いてください。
- CPUのピン1を探します。CPUは間違った方向には差し込むことができません。
(または、CPUの両側のノッチとCPUソケットのアライメントキーを確認します。)
- CPUの表面に熱伝導グリスを均等に薄く塗ります。
- CPUクーラーを取り付けない場合は、コンピュータのパワーをオンにしないでください。CPUが損傷する原因となります。
- CPUの仕様に従って、CPUのホスト周波数を設定してください。ハードウェアの仕様を超えたシステムバスの周波数設定は周辺機器の標準要件を満たしていないため、お勧めできません。標準仕様を超えて周波数を設定したい場合は、CPU、グラフィックスカード、メモリ、ハードドライブなどのハードウェア仕様に従ってください。

1-3-1 CPUを取り付ける

- A. マザーボードCPUソケットのアライメントキーおよびCPUのノッチを確認します。

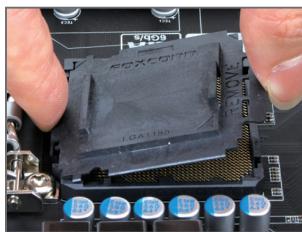


B. 以下のステップに従って、CPUをマザーボードのCPUソケットに正しく取り付けてください。

⚠️ CPUを取り付ける前に、CPUの損傷を防ぐためにコンピュータのパワーをオフにし、コンセントから電源コードを抜いてください。



ステップ1:
CPUソケットレバーハンドルをそっと押しながら、指でソケットから外します。CPUソケットレバーを完全に持ち上げると、金属製ロードプレートも持ち上がります。



ステップ2:
図のように、CPUソケットカバーを取り外します。ソケットカバー背面を人差し指で押し下げ、親指でソケットカバーの先端（「REMOVE」マークの隣り）を持ち上げて取り外します。（ソケットの接点に触れないでください。CPUソケットを保護するため、CPUを搭載していないときは常に保護ソケットカバーを着けてください。）



ステップ3:
CPUを親指と人差し指で抑えます。CPUピン1のマーキング(三角形)をCPUソケットのピン1隅に合わせ(または、CPUノッチをソケットアライメントキーに合わせ)、CPUを所定の位置にそっと差し込みます。



ステップ4:
CPUが適切に挿入されたら、一方の手を使ってソケットレバーを押さえもう一方の手でロードプレートを交換します。ロードプレートを交換しているとき、ロードプレートのフロントエンドが肩付きねじの下にあることを確認します。



ステップ5:
CPUソケットレバーを押してロックされた位置に戻します。



注:
レバーの根元ベース部分ではなく、ハンドルでCPUソケットレバーを支えます。

1-3-2 CPU クーラーを取り付ける

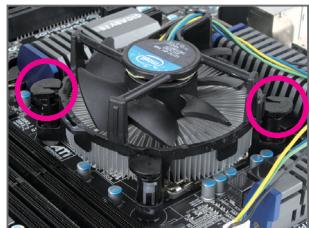
以下のステップに従って、CPU クーラーをマザーボードに正しく取り付けてください。(以下の手順は、サンプルのクーラーとして Intel® ボックスクーラーを使用しています。)



ステップ 1:
取り付けた CPU の表面に熱伝導グリスを均等に薄く塗ります。



ステップ 2:
クーラーを取り付ける前に、オスプッシュピンの矢印記号  の方向に注意してください。(矢印の方向に沿ってプッシュピンを回すとクーラーが取り外され、逆の方向に回すと取り付けられます。)



ステップ 3:
クーラーを CPU の上に配置し、マザーボードのピン穴を通して 4 つのプッシュピンを揃えます。プッシュピンを、対角方向に押し下げてください。



ステップ 4:
それぞれのプッシュピンを押し下げる時、「クリック音」が聞こえます。オスとメスのプッシュピンがしっかりと結合していることを確認してください。
(クーラーを取り付ける方法については、CPU クーラーの取り付けマニュアルを参照してください。)



ステップ 5:
取り付け後、マザーボードの背面をチェックします。プッシュピンを上の図のように差し込むと、取り付けは完了です。



ステップ 6:
最後に、CPU クーラーの電源コネクタをマザーボードの CPU ファンヘッダ (CPU_FAN) に取り付けてください。



CPU クーラーと CPU の間の熱伝導グリス/テープは CPU にしっかりと接着されているため、CPU クーラーを取り外すときは、細心の注意を払ってください。CPU クーラーを不適切に取り外すと、CPU が損傷する恐れがあります。

1-4 メモリの取り付け



メモリを取り付ける前に次のガイドラインをお読みください:

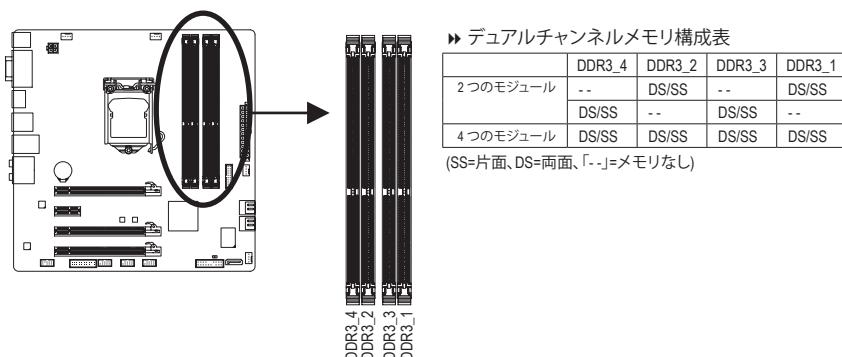
- マザーボードがメモリをサポートしていることを確認してください。同じ容量、ブランド、速度、およびチップのメモリをご使用になることをお勧めします。
(サポートされる最新のメモリ速度とメモリモジュールについては、GIGABYTEのWebサイトにアクセスしてください。)
- ハードウェアが損傷する原因となるため、メモリを取り付ける前に必ずコンピュータのパワーをオフにし、コンセントから電源コードを抜いてください。
- メモリモジュールは取り付け位置を間違えぬようにノッチが設けられています。メモリモジュールは、一方向にしか挿入できません。メモリを挿入できない場合は、方向を変えてください。

1-4-1 デュアルチャンネルのメモリ設定

このマザーボードには4つのDDR3メモリソケットが装備されており、デュアルチャンネルテクノロジをサポートします。メモリを取り付けた後、BIOSはメモリの仕様と容量を自動的に検出します。デュアルチャンネルモードは、元のメモリバンド幅を2倍に拡げます。

4つのDDR3メモリソケットが2つのチャンネルに分けられ、各チャンネルには次のように2つのメモリソケットがあります:

- チャンネルA: DDR3_2, DDR3_4
- チャンネルB: DDR3_1, DDR3_3

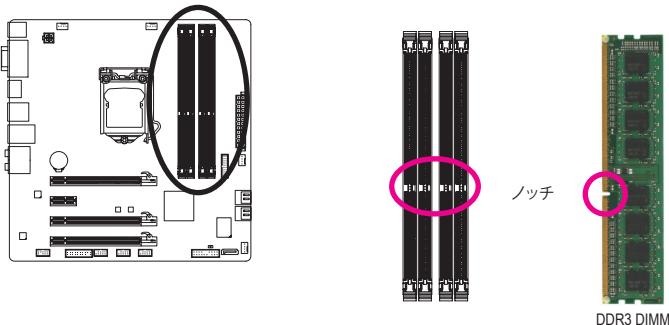


CPU制限により、デュアルチャンネルモードでメモリを取り付ける前に次のガイドラインをお読みください。

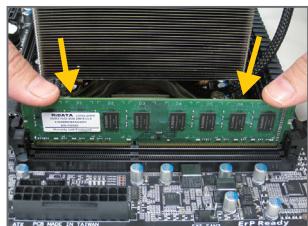
- DDR3メモリモジュールが1つしか取り付けられていない場合、デュアルチャンネルモードは有効になりません。
- 2つまたは4つのモジュールでデュアルチャンネルモードを有効にしているとき、同じ容量、ブランド、速度、チップのメモリを使用するようお勧めします。最適のパフォーマンスを発揮するために、2つのメモリモジュールでデュアルチャンネルモードを有効にしているときは、DDR3_1とDDR3_2ソケットにそれらのモジュールを取り付けることをお勧めします。

1-4-2 メモリの取り付け

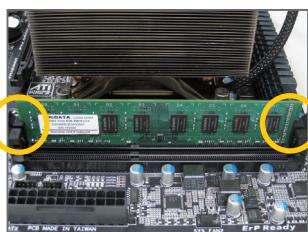
! メモリモジュールを取り付ける前に、メモリモジュールの損傷を防ぐためにコンピュータのパワーをオフにし、コンセントから電源コードを抜いてください。DDR3 と DDR2 DIMM は、互換性がありません。このマザーボードにDDR3 DIMM を取り付けていることを確認してください。



DDR3 メモリモジュールにはノッチが付いているため、一方向にしかフィットしません。以下のステップに従って、メモリソケットにメモリモジュールを正しく取り付けてください。



ステップ 1:
メモリモジュールの方向に注意します。メモリソケットの両端の保持クリップを広げ、ソケットにメモリモジュールを取り付けます。左の図に示すように、指をメモリの上に置き、メモリを押し下げ、メモリソケットに垂直に差し込みます。

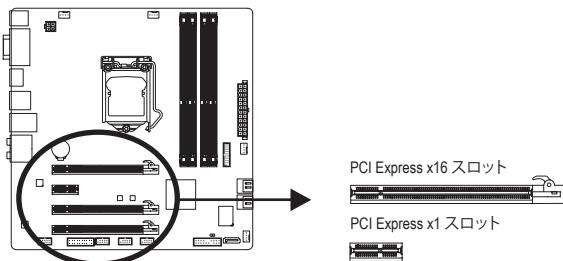


ステップ 2:
メモリモジュールがしっかりと差し込まれると、ソケットの両端のチップはカチッと音を立てて所定の位置に収まります。

1-5 拡張カードを取り付ける



- 拡張カードを取り付ける前に次のガイドラインをお読みください:
- マザーボードが拡張カードをサポートしていることを確認してください。拡張カードに付属するマニュアルをよくお読みください。
 - ハードウェアが損傷する原因となるため、拡張カードを取り付ける前に必ずコンピュータのパワーをオフにし、コンセントから電源コードを抜いてください。



以下のステップに従って、拡張カードを拡張スロットに正しく取り付けてください。

- カードをサポートする拡張スロットを探します。シャーシ背面パネルから、金属製スロットカバーを取り外します。
- カードをスロットに合わせ、スロットに完全にはまりこむまでカードを押し下げます。
- カードの金属接点がスロットに完全に挿入されていることを確認します。
- カードの金属ブラケットをねじでシャーシ背面パネルに固定します。
- 拡張カードをすべて取り付けたら、シャーシカバーを元に戻します。
- コンピュータの電源をオンにします。必要に応じて、BIOSセットアップに移動し拡張カードに必要なBIOS変更を行います。
- 拡張カードに付属するドライバをオペレーティングシステムにインストールします。

例えば: PCI Expressグラフィックスカードの取り付けと取り外し:



- グラフィックスカードを取り付ける:
カードの上端がPCI Expressスロットに完全に挿入されるまで、そっと押し下げます。
カードがスロットにしっかりと装着され、ロックされていないことを確認します。



- カードを取り外す:
PCI Expressスロットの端のラッチを押してカードのロックを解除し、スロットから真っ直ぐ上に引っ張ります。

1-6 AMD CrossFireX™/NVIDIA SLI構成のセットアップ

A. システム要件:

- Windows 7 オペレーティングシステム
- CrossFireX/SLI対応のマザーボード(PCI Express x16スロットを2本を搭載し、正しいドライバがインストールされた環境)
- 同じブランドの2枚のCrossFireX/SLI対応グラフィックスカードおよびGPUと正しいドライバがインストールされた環境
- CrossFireX^(注)/SLI ブリッジコネクタ
- 十分な電力のある電源装置を推奨します(電源要件については、グラフィックスカードのマニュアルを参照してください)

B. グラフィックスカードを接続する

ステップ 1:

「1-5 拡張カードを取り付ける」のステップに従って、PCIEX16 と PCIEX8 スロットにCrossFireX/SLI グラフィックスカードを取り付けます。

ステップ 2:

カードの上部にある CrossFireX/SLI 金縫コネクタに CrossFireX^(注)/SLI ブリッジコネクタを挿入します。

ステップ 3:

ディスプレイカードを PCIEX16 スロットのグラフィックスカードに差し込みます。

C. グラフィックスカードドライバを構成する

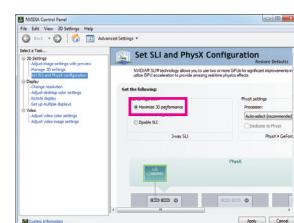
C-1. CrossFireX 機能を有効にする

オペレーティングシステムにグラフィックスカードドライバを取り付けた後、Catalyst Control Center に移動します。Performance|AMD CrossFireX™ Configurations を閲覧し、Enable CrossFireX™ を有効にするチェックボックスが選択されていることを確認します。Apply をクリックします。



C-2. SLI機能を有効にする

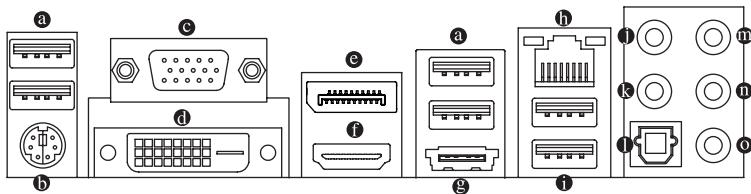
オペレーティングシステムにグラフィックスカードドライバを取り付けた後、NVIDIA Control Panel パネルに移動します。SLI and PhysX Configuration 画面を閲覧し、Maximize 3D performance が選択されていることを確認します。



(注) ブリッジコネクタはグラフィックスカードによって必要となる場合もあれば、必要ない場合もあります。

 CrossFireX/SLI技術を有効にするための手順とドライバ画面は、グラフィックスカードとドライババージョンによって異なることがあります。CrossFireX/SLI技術を有効にする方法について、詳細はグラフィックスカードに付属のマニュアルを参照してください。

1-7 背面パネルのコネクタ



a) USB 2.0/1.1 ポート

USB ポートは USB 2.0/1.1 仕様をサポートし、USB キーボード/マウス、USB プリンタ、USB フラッシュドライブなどの USB デバイスの場合、このポートを使用してください。

b) PS/2キーボード/マウスポート

このポートを使用して、PS/2マウスまたはキーボードに接続します。

c) D-Sub ポート

D-Sub ポートは 15 ピン D-Sub コネクタをサポートします。D-Sub 接続をサポートするモニタをこのポートに接続してください。

d) DVI-D ポート(注)

DVI-D ポートは DVI-D 仕様に準拠しており、1920x1200 の最大解像度をサポートします。(サポートされる実際の解像度は使用されるモニタによって異なります。) DVI-D 接続をサポートするモニタをこのポートに接続してください。

e) DisplayPort

DisplayPort は新世代インターフェイス技術の一つで、高品質なデジタル映像とオーディオを提供し、双方向オーディオ伝送をサポートします。DisplayPort は、DPCP と HDCP の両方のコンテンツ保護メカニズムをサポートできます。DisplayPort に対応するオーディオ/ビデオデバイスをこのポートに接続します。DisplayPort 技術は 2560x1600 の最大解像度をサポートしますが、サポートされる実際の解像度は使用されるモニタによって異なります。



DisplayPort デバイスをインストールした後、サウンド再生用のデフォルトデバイスが DisplayPort デバイスになっていることを確認してください。(項目名は、オペレーティングシステムによって異なります。たとえば、Windows 7 の場合、スタート > コントロールパネル > ハードウェアとサウンド > サウンド > 再生を順にポイントして、デフォルトの再生デバイスとして DisplayPort デバイスを設定します。設定ダイアログボックスの前のページの HDMI 設定情報を参照してください。)

(注) DVI-D ポートは、変換アダプタによる D-Sub 接続をサポートしていません。



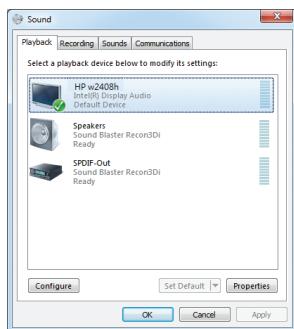
- 背面パネルコネクタに接続されたケーブルを取り外しているとき、まずデバイスからケーブルを取り外し、次にマザーボードからケーブルを取り外します。
- ケーブルを取り外しているとき、コネクタから真っ直ぐに引き抜いてください。ケーブルコネクタ内部でショートする原因となるので、横に振り動かさないでください。

① HDMI ポート

HDMI (High-Definition Multimedia Interface) は、非圧縮音声/動画信号の伝送が可能な全デジタルオーディオ/ビデオインターフェイスです。HDMIポートはHDCPに対応し、ドルビーTrueHDおよびDTS HDマスター・オーディオ形式をサポートしています。最大192KHz/24ビットの8チャンネルLPCMオーディオ出力もサポートします。このポートを使用して、HDMIをサポートするモニタに接続します。サポートする最大解像度は1920 x 1200ですが、サポートする実際の解像度は使用するモニターに依存します。



HDMI機器を設置後、必ずデフォルトの音声再生機器をHDMIに設定してください。
(項目名は、オペレーティングシステムによって異なります。以下のスクリーンショットはWindows 7のものです。)



Windows 7で、スタート>コントロールパネル>ハードウェアおよびサウンド>サウンド>再生を選択し、Intel(R) Display Audioをデフォルト再生デバイスに設定します。

オンボードグラフィックスに対してデュアルディスプレイ構成:

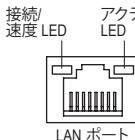
このマザーボードには、4つのビデオ出力ポートが装備されています:D-Sub、DVI-D、HDMI、とDisplayPort。デュアルモニタ設定はオペレーティングシステム環境でのみサポートされ、BIOSセットアップまたはPOSTプロセスの間はサポートされません。

② eSATA 3Gb/s ポート

eSATA 3Gb/sポートはSATA 3Gb/s標準に準拠し、SATA 1.5Gb/s標準と互換性があります。ポートを使用して外部SATAデバイスを接続します。Intel Z77チップセットはRAID機能に対応しています。RAIDアレイの構成の説明については、第5章「SATA/ハードドライブを構成する」を参照してください。

③ RJ-45 LAN ポート

Gigabit イーサネット LAN ポートは、最大 1 Gbps のデータ転送速度のインターネット接続を提供します。以下は、LAN ポート LED の状態を説明しています。



接続/速度 LED アクティビティ LED:

状態	説明
オレンジ	1 Gbps のデータ転送速度
緑	100 Mbps のデータ転送速度
オフ	10 Mbps のデータ転送速度

アクティビティ LED:

状態	説明
点滅	データの送受信中です
オン	データを送受信していません

④ USB 3.0/2.0 ポート

USB 3.0 ポートは USB 3.0 仕様をサポートし、USB 2.0/1.1 仕様と互換性があります。USB キーボード/マウス、USB プリンタ、USB フラッシュドライブなどの USB デバイスの場合、このポートを使用してください。

● **ライン入力/マイクインジャック(ピンク)**

ラインイン/マイクインジャック。光ドライブ、ウォークマン、マイクなどのデバイスのラインインに対して、このオーディオジャックを使用します。

● **ライン出力(薄緑色)**

デフォルトライン出力ジャック。この音声ジャックは、2chスピーカーに使用します。このジャックは、5.1音声機器構成の際のフロントスピーカー接続に使用できます。

● **光学S/PDIFアウトコネクタ**

このコネクタにより、デジタル光学オーディオをサポートする外部オーディオシステムでデジタルオーディオアウトを利用できます。この機能を使用する前に、オーディオシステムに光学デジタルオーディオインコネクタが装備されていることを確認してください。

● **センター/サラウンドスピーカーアウトジャック(オレンジ)**

このオーディオジャックを使って、5.1チャンネルオーディオ構成のセンター/サブウーファスピーカーを接続します。

● **リアスピーカーアウトジャック(黒)**

このジャックは、5.1音声機器構成の際のフロントスピーカー接続に使用できます。

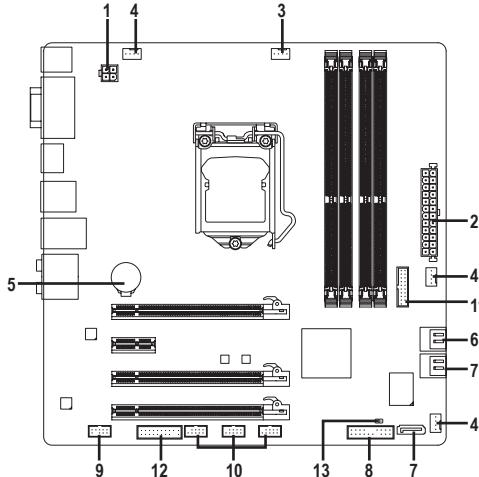
● **ヘッドホンジャック(黒がかった緑色)**

ヘッドホンを接続するにはこのオーディオジャックを使用します。ヘッドホンジャックには、内蔵のアンプがあります。より良い音質のため、ヘッドホンをこのジャックに接続することをお奨めします。



第5章「2/5.1チャンネルオーディオの設定」の、2/5.1チャンネルオーディオ設定の設定に関する指示を参照してください。

1-8 内部コネクタ



1)	ATX_12V	8)	F_PANEL
2)	ATX	9)	F_AUDIO
3)	CPU_FAN	10)	F_USB1/F_USB2/F_USB3
4)	SYS_FAN1/2/3	11)	F_USB30
5)	BAT	12)	TPM
6)	SATA3 0/1	13)	CLR_CMOS
7)	SATA2 2/3/4		



外部デバイスを接続する前に、以下のガイドラインをお読みください:

- まず、デバイスが接続するコネクタに準拠していることを確認します。
- デバイスを取り付ける前に、デバイスとコンピュータのパワーがオフになっていることを確認します。デバイスが損傷しないように、コンセントから電源コードを抜きます。
- デバイスをインストールした後、コンピュータのパワーをオンにする前に、デバイスのケーブルがマザーボードのコネクタにしっかりと接続されていることを確認します。

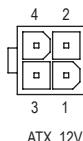
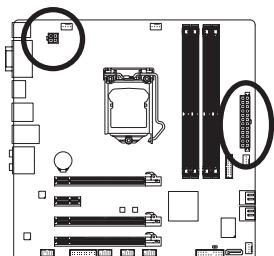
1/2) ATX_12V/ATX (2x2 12V 電源コネクタと 2x12 メインの電源コネクタ)

電源コネクタを使用すると、電源装置はマザーボードのすべてのコンポーネントに安定した電力を供給することができます。電源コネクタを接続する前に、まず電源装置のパワーがオフになっていること、すべてのデバイスが正しく取り付けられていることを確認してください。電源コネクタは、正しい向きでしか取り付けができないように設計されています。電源装置のケーブルを正しい方向で電源コネクタに接続します。

12V 電源コネクタは、主に CPU に電力を供給します。12V 電源コネクタが接続されていない場合、コンピュータは起動しません。

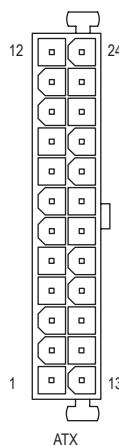


拡張要件を満たすために、高い消費電力に耐えられる電源装置をご使用になることをお勧めします(500W以上)。必要な電力を供給できない電源装置をご使用になると、システムが不安定になったり起動できない場合があります。



ATX_12V:

ピン番号	定義
1	GND
2	GND
3	+12V
4	+12V

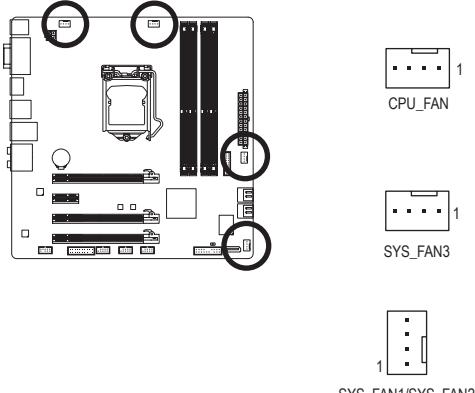


ATX:

ピン番号	定義	ピン番号	定義
1	3.3V	13	3.3V
2	3.3V	14	-12V
3	GND	15	GND
4	+5V	16	PS_ON (スロットオンオフ)
5	GND	17	GND
6	+5V	18	GND
7	GND	19	GND
8	電源良好	20	-5V
9	5VSB (スタンバ+5V)	21	+5V
10	+12V	22	+5V
11	+12V (2x12 ピン ATX 専用)	23	+5V (2x12 ピン ATX 専用)
12	3.3V (2x12 ピン ATX 専用)	24	GND (2x12 ピン ATX 専用)

3/4) CPU_FAN/SYS_FAN1/SYS_FAN2/SYS_FAN3(ファンヘッダ)

このマザーボードのファンヘッダはすべて4ピンで、ファン速度コントロールをサポートします。ほとんどのファンヘッダは、誤挿入防止設計が施されています。ファンケーブルを接続するとき、正しい方向に接続してください(黒いコネクタワイヤはアース線です)。速度コントロール機能を有効にするには、ファン速度コントロール設計のファンを使用する必要があります。最適の放熱を実現するために、シャーシ内部にシステムファンを取り付けることをお勧めします。



CPU_FAN:

ピン番号	定義
1	GND
2	+12V / 速度制御
3	検知
4	速度制御

SYS_FAN3:

ピン番号	定義
1	GND
2	+12V
3	検知
4	速度制御

SYS_FAN1/2:

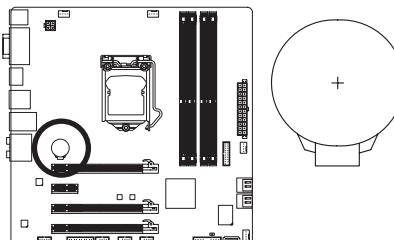
ピン番号	定義
1	GND
2	+12V / 速度制御
3	検知
4	確保



- CPUとシステムを過熱から保護するために、ファンケーブルをファンヘッダに接続していることを確認してください。過熱はCPUブリッジが損傷したり、システムがハングアップする原因となります。
- これらのファンヘッダは設定ジャンパブロックではありません。ヘッダにジャンパキャップをかぶせないでください。

5) BAT(バッテリ)

バッテリは、コンピュータがオフになっているとき CMOS の値 (BIOS 設定、日付、および時刻情報など) を維持するために、電力を提供します。バッテリの電圧が低レベルまで下がったら、バッテリを交換してください。そうしないと、CMOS 値が正確に表示されなかつたり、失われる可能性があります。



バッテリを取り外すと、CMOS 値を消去できます:

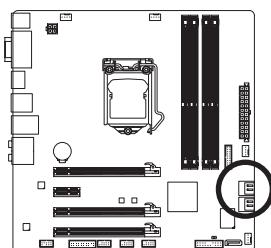
1. コンピュータのパワーをオフにし、電源コードを抜きます。
2. バッテリホルダからバッテリをそっと取り外し、1分待ちます。
(または、ドライバーのような金属物体を使用してバッテリホルダの正および負の端子に触れ、5秒間ショートさせます。)
3. バッテリを交換します。
4. 電源コードを差しこみ、コンピュータを再起動します。



- バッテリを交換する前に、常にコンピュータのパワーをオフにしてから電源コードを抜いてください。
- バッテリを同等のバッテリと交換します。バッテリを正しくないモデルと交換すると、爆発する恐れがあります。
- バッテリを自分自身で交換できない場合、またはバッテリのモデルがはつきり分からぬ場合、購入店または最寄りの代理店にお問い合わせください。
- バッテリを取り付けるとき、バッテリのプラス側(+)とマイナス側(-)の方向に注意してください(プラス側を上に向ける必要があります)。
- 使用済みのバッテリは、地域の環境規制に従って処理してください。

6) SATA3 0/1 (SATA 6Gb/sコネクタ、Intel Z77 チップセット制御)

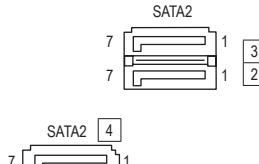
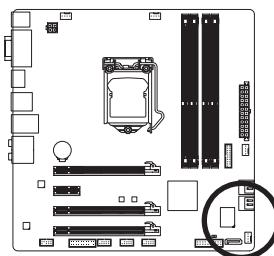
SATA コネクタはSATA 6Gb/s 標準に準拠し、SATA 3Gb/s および SATA 1.5Gb/s 標準との互換性を有しています。それぞれの SATA コネクタは、単一の SATA デバイスをサポートします。「SATA3 0」と「SATA3 1」コネクタはRAID 0、および RAID 1をサポートします。RAID 5とRAID 10は、「SATA2 2/3/4」コネクタeSATA^(注)とで2つのコネクタに実装できます。RAIDアレイの構成の説明については、第5章「SATA/ハードドライブを構成する」を参照してください。



ピン番号	定義
1	GND
2	TXP
3	TXN
4	GND
5	RXN
6	RXP
7	GND

7) SATA2 2/3/4 (SATA 3Gb/sコネクタ、Intel Z77 チップセット制御)

SATA コネクタはSATA 3Gb/s 標準に準拠し、SATA 1.5Gb/s 標準との互換性を有しています。それぞれの SATA コネクタは、単一の SATA デバイスをサポートします。Intel Z77チップセットは、RAID 0、RAID 1、RAID 5、およびRAID 10 をサポートします。RAIDアレイの構成の説明については、第5章「SATA/ハードドライブを構成する」を参照してください。



ピン番号	定義
1	GND
2	TXP
3	TXN
4	GND
5	RXN
6	RXP
7	GND

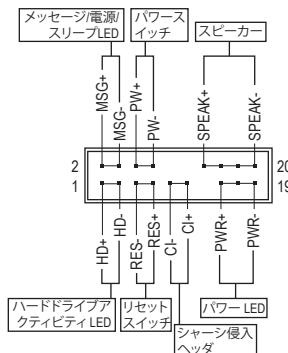
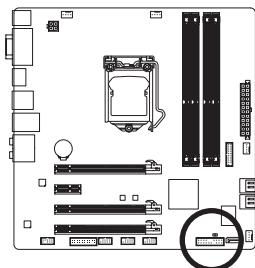


- RAID 0 または RAID 1 設定は、少なくとも 2 台のハードドライブを必要とします。
- RAID 5 設定は、少なくとも 3 台のハードドライブを必要とします。(ハードドライブの総数は偶数に設定する必要があります)。
- RAID 10構成には、ハードドライブが4台必要となります。

(注) RAIDセットをSATA 6Gb/sとSATA 3Gb/sチャンネルにまたがって構築すると、RAIDセットのシステムパフォーマンスは接続されているデバイスによって変わることがあります。

8) F_PANEL (前面パネルヘッダ)

電源スイッチを接続し、以下のピン割り当てに従ってシャーシのスイッチ、スピーカー、シャーシ侵入スイッチ/センサーおよびシステムステータスインジケータをこのヘッダにセットします。ケーブルを接続する前に、正と負のピンに注意してください。



- MSG/PWR (メッセージ/電源/スリープLED、黄/紫):

システム ステータス	LED
S0	オン
S3/S4/S5	オフ

シャーシ前面パネルの電源ステータスインジケータに接続します。システムの操作中LEDがオンになります。システムがS3/S4/S5状態または電源がオフになると、LEDがオフになります。

- PW (パワースイッチ、赤):

シャーシ前面パネルのパワースイッチに接続します。パワースイッチを使用してシステムのパワーをオフにする方法を設定できます(詳細については、第2章、「BIOSセットアップ」、「電力管理」、を参照してください)。

- SPEAK (スピーカー、オレンジ):

シャーシ前面パネルのスピーカーに接続します。システムは、ビープコードを鳴らすことでシステムの起動ステータスを報告します。システム起動時に問題が検出されない場合、短いビープ音が1度鳴ります。

- HD (ハードドライブアクティビティ LED、青):

シャーシ前面パネルのハードドライブアクティビティ LED に接続します。ハードドライブがデータの読み書きを行っているとき、LED はオンになります。

- RES (リセットスイッチ、緑):

シャーシ前面パネルのリセットスイッチに接続します。コンピュータがフリーズし通常の再起動を実行できない場合、リセットスイッチを押してコンピュータを再起動します。

- CI (シャーシ侵入ヘッダ、グレー):

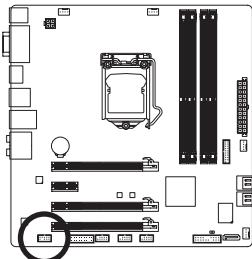
シャーシカバーが取り外されている場合、シャーシの検出可能なシャーシ侵入スイッチ/センサーに接続します。この機能は、シャーシ侵入スイッチ/センサーを搭載したシャーシを必要とします。



前面パネルのデザインは、シャーシによって異なります。前面パネルモジュールは、パワースイッチ、リセットスイッチ、電源 LED、ハードドライブアクティビティ LED、スピーカーなどで構成されています。シャーシ前面パネルモジュールをこのヘッダに接続しているとき、ワイヤ割り当てとピン割り当てが正しく一致していることを確認してください。

9) F_AUDIO (前面パネルオーディオヘッダ)

フロントパネルオーディオヘッダは、Intel High Definition audio (HD)をサポートします。シャーシ前面パネルのオーディオモジュールをこのヘッダに接続することができます。モジュールコネクタのワイヤ割り当てが、マザーボードヘッダのピン割り当てに一致していることを確認してください。モジュールコネクタとマザーボードヘッダ間の接続が間違っていると、デバイスは作動せず損傷することすらあります。



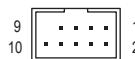
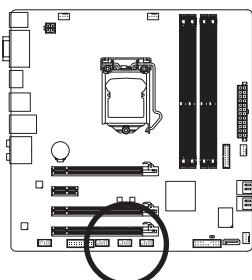
ピン番号	定義
1	MIC2_L
2	GND
3	MIC2_R
4	-ACZ_DET
5	LINE2_R
6	GND
7	FAUDIO_JD
8	ピンなし
9	LINE2_L
10	GND



シャーシの中には、前面パネルのオーディオモジュールを組み込んで、單一プラグの代わりに各ワイヤのコネクタを分離しているものもあります。ワイヤ割り当てが異なっている前面パネルのオーディオモジュールの接続方法の詳細については、シャシメーカーにお問い合わせください。

10) F_USB1/F_USB2/F_USB3 (USB 2.0/1.1 ヘッダ)

ヘッダは USB 2.0/1.1仕様に準拠しています。各 USB ヘッダは、オプションの USB プラケットを介して 2 つの USB ポートを提供できます。オプションの USB プラケットを購入する場合は、販売代理店にお問い合わせください。



ピン番号	定義
1	電源 (5V)
2	電源 (5V)
3	USB DX-
4	USB DY-
5	USB DX+
6	USB DY+
7	GND
8	GND
9	ピンなし
10	NC



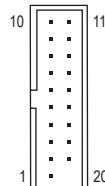
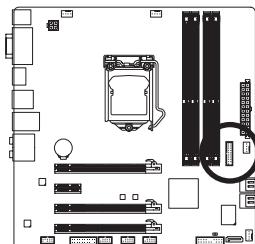
システムがS4/S5モードになっているとき、F_USB1ヘッダに経路指定されたUSBポートのみがON/OFF Charge機能をサポートできます。



- IEEE 1394 ブラケット (2x5 ピン) ケーブルを USB 2.0/1.1ヘッダに差し込まないでください。
- USB ブラケットを取り付ける前に、USB ブラケットが損傷しないように、コンピュータの電源をオフにしてからコンセントから電源コードを抜いてください。

11) F_USB30 (USB 3.0/2.0 ヘッダ)

ヘッダはUSB 3.0/2.0仕様に準拠し、2つのUSBポートが装備されています。2 USB 3.0/2.0ポートを装備するオプションの3.5"フロントパネルのご購入については、最寄りの販売店にお問い合わせください。



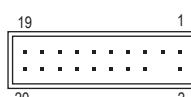
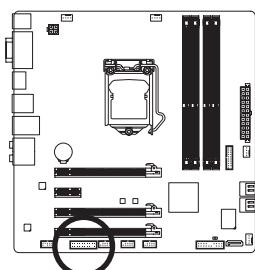
ピン番号	定義	ピン番号	定義
1	VBUS	11	D2+
2	SSRX1-	12	D2-
3	SSRX1+	13	GND
4	GND	14	SSTX2+
5	SSTX1-	15	SSTX2-
6	SSTX1+	16	GND
7	GND	17	SSRX2+
8	D1-	18	SSRX2-
9	D1+	19	VBUS
10	NC	20	ピンなし



USB前面パネルを取り付ける前に、USB前面パネルが損傷しないように、コンピュータの電源をオフにしてからコンセントから電源コードを抜いてください。

12) TPM (TPMモジュール用ヘッダー)

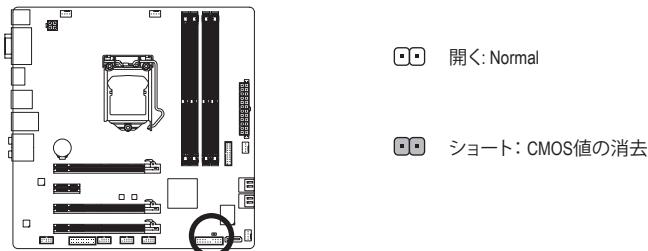
TPM (TPMモジュール) をこのヘッダーに接続できます。



ピン番号	定義	ピン番号	定義
1	LCLK	11	LAD0
2	GND	12	GND
3	LFRAME	13	NC
4	ピンなし	14	ID
5	LRESET	15	SB3V
6	NC	16	SERIRQ
7	LAD3	17	GND
8	LAD2	18	NC
9	VCC3	19	NC
10	LAD1	20	SUSCLK

13) CLR_CMOS (CMOSをジャンパでクリアする)

このジャンパを使用して、CMOS値をクリアしたり(日付情報とBIOS設定)、CMOS値を出荷時設定にリセットします。CMOS値を消去するには、ドライバーのような金属製物体を使用して2つのピンに数秒間触れます。



- CMOS値を消去する前に、常にコンピュータのパワーをオフにし、コンセントから電源コードを抜いてください。
- システムが再起動した後、BIOS セットアップに移動して工場出荷時の設定をロードするか (Load Optimized Defaults 選択) BIOS 設定を手動で設定します (BIOS 設定については、第 2 章「BIOS セットアップ」を参照してください)。

第2章 BIOS セットアップ

BIOS (Basic Input and Output System) は、マザーボード上の CMOS にあるシステムのハードウェアのパラメータを記録します。主な機能には、システム起動、システムパラメータの保存、およびオペレーティングシステムの読み込みなどを行うパワー オンセルフ テスト (POST) の実行などがあります。BIOS には、ユーザーが基本システム構成設定の変更または特定のシステム機能の有効化を可能にする BIOS セットアップ プログラムが含まれています。

電源をオフにすると、CMOS の設定値を維持するためマザーボードのバッテリが CMOS に必要な電力を供給します。

BIOS セットアップ プログラムにアクセスするには、電源オン時の POST 中に <Delete> キーを押します。

BIOS をアップグレードするには、GIGABYTE Q-Flash または @BIOS ユーティリティのいずれかを使用します。

- Q-Flash により、ユーザーはオペレーティング システムに入ることなく BIOS のアップグレードまたはバックアップを素早く簡単に行えます。
- @BIOS は、インターネットから BIOS の最新バージョンを検索しダウンロードするとともに BIOS を更新する Windows ベースのユーティリティです。

Q-Flash および @BIOS ユーティリティの使用に関する使用説明については、第4章、「BIOS 更新ユーティリティ」を参照してください。



- BIOS フラッシュは潜在的に危険を伴うため、BIOS の現在のバージョンを使用しているときに問題が発生していない場合、BIOS をフラッシュしないことをお勧めします。BIOS のフラッシュは注意して行ってください。BIOS の不適切なフラッシュは、システムの誤動作の原因となります。
- システムの不安定またはその他の予期しない結果を防ぐために、初期設定を変更しないことをお勧めします(必要な場合を除く)。誤った BIOS 設定しますと、システムは起動できません。そのようなことが発生した場合は、CMOS 値を既定値にリセットしてみてください。
(CMOS 値をクリアする方法については、本章の「ロード最適化デフォルト」セクションまたは第1章の「バッテリクリア CMOS ジャンパ」の「はじめに」を参照してください。)

2-1 起動画面

コンピュータが起動するとき、次の起動ロゴ画面が表示されます。



機能キー：

: BIOS SETUP\Q-FLASH

<Delete>キーを押してBIOSセットアップに入り、BIOSセットアップでQ-Flashユーティリティにアクセスします。

<F9>: SYSTEM INFORMATION

<F9>キーを押すとシステム情報が表示されます。

<F12>: BOOT MENU

起動メニューにより、BIOS セットアップに入ることなく第 1 起動デバイスを設定できます。起動メニューで、上矢印キー <↑> または下矢印キー <↓> を用いて第 1 起動デバイスを選択し、次に <Enter> キーを押して確定します。システムは、直ちにそのデバイスから起動します。

注: 起動メニューの設定は 1 回のみ有効です。システム再起動後も、デバイスの起動順序は BIOS セットアップの設定がベースとなります。

<END>: Q-FLASH

<END>キーを押すと、先に BIOS セットアップに入る必要なく直接 Q-Flash Utility にアクセスします。

2-2 メインメニュー

A. 3D BIOS 画面(既定値)

GIGABYTE 専用に設計された 3D BIOS 画面では、マウスを使用してマザーボードの画像を移動したり、高速設定のためクリックして各エリアの機能メニューに入ることができます。例えば、マウスの矢印を CPU とメモリソケット上を通過させ、**System Tuning** メニューに入って CPU またはメモリの周波数、メモリのタイミング、および電圧設定を構成するなどです。詳細な設定項目については、画面最下部の機能メニューアイコンをクリックするかまたは <F1> を押して BIOS セットアッププログラムのメインメニューに切り替えます。(マウスが接続されていない場合、3D BIOS 画面は BIOS セットアッププログラムのメインメニューに自動的に切り替わります。)



B. BIOS セットアッププログラムのメインメニュー

BIOS セットアッププログラムのメインメニューで、矢印キーを押して項目間を移動し、<Enter> を押して確定するかまたはサブメニューに入ります。または、お使いのマウスで希望する項目を選択することができます。

(サンプル BIOS バージョン: D13)

3D BIOS 画面に切り替える

設定項目

現在の設定

機能キー

セットアップメニュー
Q-Flashに入る既定の言語を選択する

ヘルプ

Copyright (C) 2011 American Megatrends, Inc.

- 33 -

BIOS セットアップ

BIOS セットアッププログラムの機能キー

<↔><→>	選択バーを移動させてセットアップメニューを選択します。
<↑><↓>	選択バーを移動させてメニュー上の設定項目を選択します。
<Enter>	コマンドを実行するかまたはメニューに入ります。
<+>/<Page Up>	数値を上昇させるかまたは変更を行います。
<->/<Page Down>	数値を下降させるかまたは変更を行います。
<F1>	3D BIOS 画面に切り替えます
<F5>	現在のメニュー用に前の BIOS 設定を復元します。
<F7>	現在のメニュー用に最適化された BIOS の初期設定を読み込みます。
<F8>	Q-Flash Utility にアクセスします。
<F9>	システム情報を表示します。
<F10>	すべての変更を保存し、BIOS セットアップ プログラムを終了します。
<F12>	現在の画面を画像としてキャプチャし、USB ドライブに保存します。
<Esc>	メインメニュー: BIOS セットアッププログラムを終了します。 サブメニュー: 現在のサブメニューを終了します。

BIOS セットアップメニュー

■ M.I.T.

このメニューを使用して、CPU、メモリなどのクロック、周波数、および電圧を設定します。
またはシステム/CPUの温度、電圧、およびファンの速度をチェックします。

■ System (システム)

このメニューを使用して、BIOS が使用する既定の言語、システムの時間と日付を設定します。また、このメニューは SATA ポートに接続されたデバイスの情報も表示します。

■ BIOS Features (BIOS の機能)

このメニューを使用して、デバイスの起動順序、CPU で使用可能なアドバンスト機能、およびプライマリディスプレイアダプタを設定します。

■ Peripherals (周辺機器)

このメニューを使用して、SATA、USB、統合オーディオ、統合LANなどの周辺機器をすべて設定します。

■ Power Management (電力管理)

このメニューを使用して、すべての省電力機能を設定します。

■ Save & Exit (保存して終了)

BIOS セットアップ プログラムで行われたすべての変更を CMOS に保存して BIOS セットアップを終了します。性能が最適なシステム運用のため、現在の BIOS 設定をプロファイルまたは負荷が最適化された初期設定に保存できます。



- システムが安定しないときは、Load Optimized Defaults アイテムを選択してシステムをその既定値に設定します。
- 本章で説明された BIOS セットアップメニューは参考で、BIOS のバージョンにより異なります。

2-3 M.I.T.



システムがオーバークロック過電圧設定で安定して作動しているかどうかは、システム全体の設定によって異なります。オーバークロック過電圧を間違って設定して動作させるとCPU、チップセット、またはメモリが損傷し、これらのコンポーネントの耐久年数が短くなる原因となります。このページは上級ユーザー向けであり、システムの不安定や予期せぬ結果を招く場合があるため、既定値設定を変更しないことをお勧めします。(誤ったBIOSを設定しますと、システムは起動できません。そのような場合は、CMOS値を消去して既定値にリセットしてみてください。)



本セクションでは、BIOSバージョン、CPUベースクロック、CPU周波数、メモリ周波数、合計メモリサイズ、CPU温度、Vcore、およびメモリ電圧に関する情報を記載します。

▶ M.I.T. Current Status (M.I.T 現在のステータス)

このセクションには、CPU/メモリ周波数/パラメータに関する情報が載っています。

▶ Advanced Frequency Settings (詳細な周波数設定)



⌚ CPU/PCIe Base Clock

CPUベースクロックとPCIe/バス周波数を0.01 MHz刻みで手動で設定します。(既定値: Auto)
重要: CPU仕様に従ってCPU周波数を設定することを強くお勧めします。

⌚ Processor Graphics Clock

オンボードグラフィックスクロックを設定できます。調整可能な範囲は 400 MHz～3200 MHz の間です。(既定値: Auto)

⌚ CPU Clock Ratio

取り付けたCPUのクロック比を変更します。調整可能範囲は、取り付けるCPUによって異なります。

⌚ CPU Frequency

現在作動しているCPU周波数を表示します。

▶ Advanced CPU Core Features (アドバンスト CPU コア機能)



⌚ CPU Clock Ratio, CPU Frequency

上の2つの項目下の設定は Advanced Frequency Settings メニューの同じ項目下に同期します。

⌚ Intel(R) Turbo Boost Technology (注)

Intel CPU Turbo Boost テクノロジーを有効にするかどうかを決定します。Auto では、BIOS がこの設定を自動的に設定します。(既定値: Auto)

⌚ Turbo Ratio (1コアアクティブ ~ 4コアアクティブ) (注)

さまざまな数のアクティブなコアに対して、CPU Turbo比を設定できます。Auto では、CPU 仕様に従って CPU Turbo 比を設定します。(既定値: Auto)

⌚ Turbo Power Limit (Watts)

CPU Turboモードの電力制限を設定できます。CPUの消費電力がこれらの指定された電力制限を超えると、CPUは電力を削減するためにコア周波数を自動的に低下します。Auto では、CPU 仕様に従って電力制限を設定します。(既定値: Auto)

⌚ Core Current Limit (Amps)

CPU Turboモードの電流制限を設定できます。CPUの電流がこれらの指定された電流制限を超えると、CPUは電流を削減するためにコア周波数を自動的に低下します。Auto では、CPU 仕様に従って電流制限を設定します。(既定値: Auto)

⌚ CPU Core Enabled (注)

すべてのCPUコアを有効にするかどうかを決定できます。Auto では、BIOS がこの設定を自動的に設定します。(既定値: Auto)

⌚ Hyper-Threading Technology (注)

この機能をサポートする Intel CPU 使用時にマルチスレッディングテクノロジーを有効にするかどうかを決定できます。この機能は、マルチプロセッサ モードをサポートするオペレーティングシステムでのみ動作します。Auto では、BIOS がこの設定を自動的に設定します。(既定値: Auto)

(注) この機能をサポートするCPUを取り付けている場合のみ、この項目が表示されます。Intel CPUの固有機能の詳細については、IntelのWebサイトにアクセスしてください。

- ☞ **CPU Enhanced Halt (C1E)** (注1)
システム一時停止状態時のCPU省電力機能である、Intel CPU 拡張停止 (C1E) 機能の有効/無効を切り替えます。有効になっているとき、CPUコア周波数と電圧はシステムの停止状態の間削減され、消費電力を抑えます。**Auto** では、BIOS がこの設定を自動的に設定します。(既定値: Auto)
- ☞ **C3/C6 State Support** (注1)
システムが停止状態になっているとき、CPU が C3/C6 E モードに入るかどうかを決定します。有効になっているとき、CPUコア周波数と電圧はシステムの停止状態の間削減され、消費電力を抑えます。C3/C6 状態は、C1 より省電力状態がはるかに強化されています。**Auto** では、BIOS がこの設定を自動的に設定します。(既定値: Auto)
- ☞ **CPU Thermal Monitor** (注1)
CPU 過熱保護機能である Intel CPU 热モニター機能の有効/無効を切り替えます。有効になっているとき、CPU が過熱すると、CPUコア周波数と電圧が下がります。**Auto** では、BIOS がこの設定を自動的に設定します。(既定値: Auto)
- ☞ **CPU EIST Function** (注1)
エンハンスト Intel SpeedStep テクノロジー (EIST) の有効/無効を切り替えます。CPU負荷によっては、Intel EIST技術はCPU電圧とコア周波数をダイナミックかつ効率的に下げ、平均の消費電力と熱発生量を低下させます。**Auto** では、BIOS がこの設定を自動的に設定します。(既定値: Auto)
- ☞ **Bi-Directional PROCHOT** (注1)
 - » Auto BIOSでこの設定を自動的に構成します。(既定値)
 - » Enabled CPUまたはチップセットが過熱を検出すると、PROCHOT信号はより低いCPUパフォーマンスを示して熱発生量を減少します。
 - » Disabled CPU は、過熱が発生しているかどうかを検出して PROCHOT 信号のみを出します。
- ☞ **Extreme Memory Profile (X.M.P.)** (注2)
BIOSがXMPメモリモジュールのSPDデータを読み取り、可能であれば、メモリパフォーマンス強化します。
 - » Disabled この機能を無効にします。(既定値)
 - » Profile1 プロファイル1 設定を使用します。
 - » Profile2 (注2) プロファイル2 設定を使用します。
- ☞ **System Memory Multiplier (SPD)**
システムメモリマルチプライヤの設定が可能になります。**Auto** は、メモリの SPD データに従ってメモリマルチプライヤを設定します。(既定値: Auto)
- ☞ **Memory Frequency (MHz)**
最初のメモリ周波数値は使用されるメモリの通常の動作周波数で、2番目は **System Memory Multiplier** 設定に従って自動的に調整されるメモリ周波数です。

(注1) この機能をサポートするCPUを取り付けている場合のみ、この項目が表示されます。Intel CPU の固有機能の詳細については、Intel の Web サイトにアクセスしてください。

(注2) この機能をサポートするCPUとメモリモジュールを取り付けているときのみ、この項目が表示されます。

▶ Advanced Memory Settings (メモリの詳細設定)



⌚ Extreme Memory Profile (X.M.P.) (注), System Memory Multiplier (SPD), Memory Frequency (Mhz)

上の3つの項目下の設定は Advanced Frequency Settings メニューの同じ項目下に同期します。

⌚ Performance Enhance

システムは、異なる3つのパフォーマンス レベルで動作できるようになります。

▶ Normal システムを基本のパフォーマンスレベルで動作させます。

▶ Turbo システムを良好なパフォーマンスレベルで動作させます。(既定値)

▶ Extreme システムを最高のパフォーマンスレベルで動作させます。

⌚ DRAM Timing Selectable

Quick と Expert では、Channel Interleaving、Rank Interleaving、および以下のメモリのタイミング設定を構成できます。オプション: Auto (既定値)、Quick、Expert。

⌚ Profile DDR Voltage

非 XMP メモリモジュールを使用しているとき、または Extreme Memory Profile (X.M.P.) が Disabled に設定されているとき、この項目は 1.50V として表示されます。Extreme Memory Profile (X.M.P.) が Profile 1 または Profile 2 に設定されているとき、この項目は XMP メモリの SPD データに基づく値を表示します。

⌚ Profile VTT Voltage

ここに表示される値は、使用されるCPUによって異なります。

⌚ Channel Interleaving

メモリチャネルのインターリービングの有効/無効を切り替えます。Enabled 化すると、システムはメモリのさまざまなチャネルに同時にアクセスしてメモリパフォーマンスと安定性の向上を図ります。Auto では、BIOS がこの設定を自動的に設定します。(既定値: Auto)

⌚ Rank Interleaving

メモリランクのインターリービングの有効/無効を切り替えます。Enabled にすると、システムはメモリのさまざまなランクに同時にアクセスしてメモリパフォーマンスと安定性の向上を図ります。Auto では、BIOS がこの設定を自動的に設定します。(既定値: Auto)

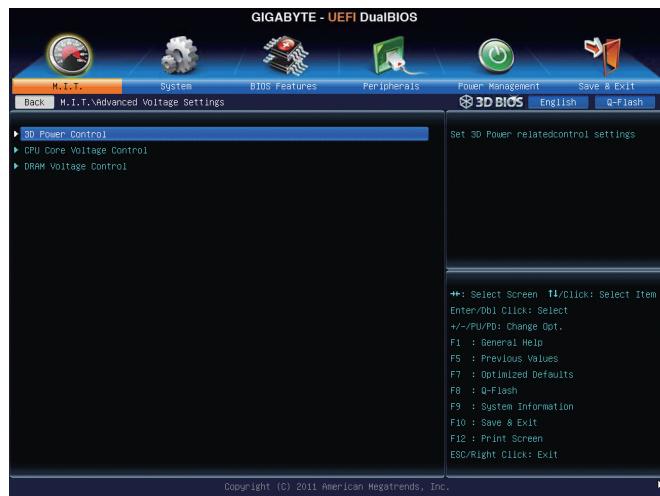
(注) この機能をサポートするCPUとメモリモジュールを取り付けているときのみ、この項目が表示されます。

▶ Channel A/B Timing Settings (チャンネル A/Bのタイミング設定)



このサブメニューでは、メモリの各チャンネルのメモリタイミング設定を行います。タイミング設定の各画面は、**DRAM Timing Selectable** が **Quick** または **Expert** の場合のみ設定可能です。注: メモリのタイミングを変更後、システムが不安定になったり起動できなくなることがあります。その場合、最適化された初期設定を読み込むかまたは CMOS 値を消去することでリセットしてみてください。

▶ Advanced Voltage Settings (高度な電圧設定)



▶ 3D Power Control (3D 電力制御)



⌚ PWM Phase Control

CPU の負荷によって PWM フェーズを自動的に変更できるようになります。省電力レベル（低い方から高い方へ）：eXtreme Perf（極度のパフォーマンス）、High Perf（高パフォーマンス）、Perf（パフォーマンス）、Balanced（バランス）、Mid PWR（標準電力）、および Lite PWR（低電力）。Auto では、BIOSがこの設定を自動的に設定します。（既定値：Auto）

⌚ Vcore Voltage Response

プリセットレベルを使用してVcoreを変更するための応答タイマを構成できます。

- ▶ Auto BIOSにこの設定を自動的に設定させます。（既定値）
- ▶ Standard~Fast Vcore 変更に対する異なるレベルの応答時間を表すStandard（標準）、Fast（高速）、すから選択します。

⌚ Vcore Loadline Calibration ($m\Omega$)

Vcoreのロードライン キャリブレーションのレベルを設定できます。レベルは次のとおりです（高い方から低い方へ）：Extreme（エクストリーム）、Turbo（ターボ）、High（高）、Medium（中）、Low（低）、または Standard（標準）。より高いレベルを選択すると、高負荷状態でのBIOSの設定内容とVcoreがより一致します。Auto は、BIOSにこの設定を自動的に設定させ、Intelの仕様に従って電圧を設定します。（既定値：Auto）

⌚ GFX Voltage Loadline Calibration

GFX電圧のロードライン キャリブレーションのレベルを設定できます。レベルは次のとおりです（高い方から低い方へ）：Extreme（エクストリーム）、Turbo（ターボ）、High（高）、Medium（中）、Low（低）、または Standard（標準）。より高いレベルを選択すると、高負荷状態でのBIOSの設定内容とGFX電圧がより一致します。Auto は、BIOSにこの設定を自動的に設定させ、Intelの仕様に従って電圧を設定します。（既定値：Auto）

⌚ Vcore Protection

過電圧保護のために、Vcore に電圧限度を設定できます。調整可能な範囲は 150.0mV ~ 300.0mV の間です。Auto では、BIOS がこの設定を自動的に設定します。(既定値: Auto)

⌚ Vcore Current Protection

Vcoreの過電流保護レベルを設定できます。

- ▶ Auto BIOS にこの設定を自動的に設定させます。(既定値)
- ▶ Standard~Extreme Standard (標準)、Low (低)、Medium (中)、High (高)、Turbo (ターボ)、または Extreme (エクストリーム) を選択します。これらはVcoreの異なる過電流保護レベルを表しています。

⌚ GFX Current Protection

GFX 電圧の過電流保護レベルを設定できます。

- ▶ Auto BIOS にこの設定を自動的に設定させます。(既定値)
- ▶ Standard~Extreme Standard (標準)、Low (低)、Medium (中)、High (高)、Turbo (ターボ)、または Extreme (エクストリーム) を選択します。これらはGFX電圧の異なる過電流保護レベルを表しています。

⌚ Vcore PWM Thermal Protection

Vcore 領域に PWM 熱保護のしきい値を設定できます。調整可能な範囲は 130.0°C と 135.0°C の間です。Auto では BIOS にこの設定を自動で設定させます。(既定値: Auto)

▶ CPU Core Voltage Control (CPU コア電圧制御)

このセクションでは、CPU 電圧制御オプションについて記載します。

▶ DRAM Voltage Control (DRAM 電圧制御)

このセクションでは、メモリ電圧制御オプションについて記載します。

▶ PC Health Status (PC の健康状態)



☞ Reset Case Open Status

- » **Disabled** 以前のシャーシ侵入状態の記録を保持または消去します。(既定値)
- » **Enabled** 以前のシャーシ侵入状態の記録を消去します。次回起動時、Case Open フィールドに「No」と表示されます。

☞ Case Open

マザーボードの CI header にアタッチされたシャーシ侵入検出デバイスの検出状態を表示します。システムシャーシのカバーが外れている場合、このフィールドが「Yes」になります。そうでない場合は「No」になります。シャーシへの侵入状態の記録を消去したい場合は、Reset Case Open Status を Enabled にして、設定を CMOS に保存してからシステムを再起動します。

- ☞ **CPU Vcore/Dram Voltage/+3.3V/+12V**
現在のシステム電圧を表示します。
- ☞ **CPU/PCH/System Temperature**
現在の CPU/チップセット/システム温度を表示します。
- ☞ **CPU/System FAN Speed**
現在の CPU/システムのファン速度を表示します。
- ☞ **CPU Warning Temperature**
CPU 温度警告のしきい値を設定します。CPU の温度がしきい値を超えた場合、BIOS が警報音を発します。オプション: Disabled (既定値)、60°C/140°F、70°C/158°F、80°C/176°F、90°C/194°F。
- ☞ **CPU/System Fan Fail Warning**
CPU ファンまたはシステム ファンが接続されているか障害がある場合、システムは警告を発します。これが発生した場合、ファンの状態またはファンの接続を確認してください。
(既定値: Disabled)
- ☞ **CPU Fan Control mode**
 - » Auto BIOSは取り付けられたCPUファンのタイプを自動的に検出し、最適のCPUファン制御モードを設定します。(既定値)
 - » Voltage 3 ピン CPU ファンに対して電圧モードを設定します。
 - » PWM 4 ピン CPU ファンに対して PWM モードを設定します。
注: 電圧モードは、3 ピン CPU ファンまたは 4 ピン CPU ファン用に設定可能です。ただし、Intel PWM ファン仕様にしたがった設計になっていない 4 ピン CPU ファンについては、PWM モードを選択しても、ファン速度が効果的に減速しないことがあります。
- ☞ **CPU Fan Speed Control**
CPUファン速度コントロール機能を有効にして、ファン速度を調整するかどうかを決定します。
 - » Normal CPU 温度に従って異なる速度で CPU ファンを動作します。システム要件に基づいて、EasyTune でファン速度を調整します。(既定値)
 - » Silent CPU ファンを低速度で作動します。
 - » Manual **Slope PWM** 項目の下で、CPU ファンの速度をコントロールします。
 - » Disabled CPU ファンを全速度で作動します。
- ☞ **Slope PWM**
システム ファン速度をコントロールします。 **CPU Fan Speed Control** が **Manual** に設定されている場合のみ、この項目を構成できます。オプション: 0.75 PWM value /°C ~ 2.50 PWM value /°C..
- ☞ **1st/2nd/3rd System Fan Speed Control**
システムのファン速度コントロール機能を有効にして、ファン速度を調整するかどうかを決定します。
 - » Normal システムは、システム温度に従って異なる速度でシステム ファンを動作できるようになります。システム要件に基づいて、EasyTune でファン速度を調整します。(既定値)
 - » Silent システムファンを低速度で作動します。
 - » Manual **Slope PWM** 項目の下で、システムファン速度をコントロールします。
 - » Disabled システムファンを全速度で作動します。
- ☞ **Slope PWM**
システム ファン速度をコントロールします。 **1st/2nd/3rd System FAN Speed Control** が **Manual** に設定されている場合のみ、この項目を構成できます。オプション: 0.75 PWM value /°C ~ 2.50 PWM value /°C..

2-4 System (システム)



このセクションでは、CPU、メモリ、マザーボード モデル、および BIOS バージョンの情報について記載します。また、BIOS が使用する既定の言語を選択して手動でシステム時間を設定することもできます。

☞ System Language

BIOS が使用する既定の言語を選択します。

☞ System Date

システムの日付を設定します。日付の形式は週(読み取り専用)、月、日、および年です。

<Enter> で Month(月)、Date(日)、および Year(年) フィールドを切り替え、<Page Up> キーと <Page Down> キーで希望する値を設定します。

☞ System Time

システムの時間を設定します。時間の形式は時、分、および秒です。例えば、1 p.m. は 13:0:0 です。<Enter> で Hour(時間)、Minute(分)、および Second(秒) フィールドを切り替え、<Page Up> キーと <Page Down> キーで希望する値を設定します。

☞ Access Level

使用するパスワード保護のタイプによって現在のアクセス レベルを表示します。(パスワードが設定されていない場合、既定では Administrator として表示されます。) 管理者レベルでは、すべての BIOS 設定を変更することができます。ユーザー レベルでは、すべてではなく特定の BIOS 設定のみが変更できます。

▶ ATA Port Information (ATA ポート情報)

このセクションでは、Intel Z77 チップセットで制御された各 SATA ポートに接続されたデバイスの情報について記載します。各SATAポートを有効/無効にするか、またはホットプラグ機能を有効/無効にすることができます。

2-5 BIOS Features (BIOS の機能)



Boot Option Priorities

使用可能なデバイスから全体の起動順序を指定します。例えば、ハードドライブを優先度 1 (Boot Option #1) に設定し、DVD ROM ドライブを優先度 2 (Boot Option #2) に設定します。

リストは、特定のタイプに対して最高の優先度が付いたデバイスのみを表示します。例えば、Hard Drive BBS Priorities サブメニューで優先度 1 と設定されたハードドライブのみがここに表示されます。

起動デバイスリストでは、GPT 形式をサポートするリムーバブルストレージデバイスの前に「UEFI:」が付きます。GPT パーティショニングをサポートするオペレーティングシステムから起動するには、前に「UEFI:」が付いたデバイスを選択します。

また、Windows 7 64 ビットなど GPT パーティショニングをサポートするオペレーティングシステムをインストールする場合は、Windows 7 64 ビットインストールディスクを含み前に「UEFI:」が付いた光ドライブを選択します。

Hard Drive/CD/DVD ROM Drive/Floppy Drive/Network Device BBS Priorities

ハードドライブ、光ドライブ、フロッピーディスクドライブ、LAN 機能からの起動をサポートするデバイスなど特定のデバイスタイプの起動順序を指定します。このアイテムで <Enter> を押すと、接続された同タイプのデバイスを表すサブメニューに入ります。少なくともこのタイプのデバイスが 1 個インストールされている場合のみ、この項目が表示されます。

Bootup NumLock State

POST 後にキーボードの数字キーパッドにある NumLock 機能の有効/無効を切り替えます。(既定値: Enabled)

Full Screen LOGO Show

システム起動時に、GIGABYTE ロゴを表示するかどうかを決定します。Disabled にすると、システム起動時に GIGABYTE ロゴをスキップします。(既定値: Enabled)

PCI ROM Priority

どのオプション ROM を起動するかを決定します。選択肢は、Legacy ROM と EFI Compatible ROM です。(既定値: EFI Compatible ROM)

- ☞ **Limit CPUID Maximum** (注)
CPUID 最大値を制限するかどうかを決定します。Windows XP ではこのアイテムを **Disabled** に設定し、Windows NT4.0 など従来のオペレーティングシステムでは **Enabled** に設定します。(既定値: **Disabled**)
 - ☞ **Execute Disable Bit** (注)
Intel Execute Disable Bit (Intel 無効ビット実行) 機能の有効/無効を切り替えます。この機能は、コンピュータの保護を拡張して、サポートするソフトウェアおよびシステムと協働する際にウィルスの放出および悪意のあるバッファのオーバーフロー攻撃を減少させることができます。(既定値: **Enabled**)
 - ☞ **Intel Virtualization Technology** (注)
Intel Virtualization テクノロジーの有効/無効を切り替えます。Intel仮想化技術によって強化された仮想化では、プラットフォームが独立したパーティションで複数のオペレーティングシステムとアプリケーションを実行できます。仮想化では、1つのコンピュータシステムが複数の仮想化システムとして機能できます。(既定値: **Disabled**)
-
- ☞ **Administrator Password**
管理者パスワードの設定が可能になります。このアイテムで <Enter> を押し、パスワードをタイプし、続いて <Enter> を押します。パスワードを確認するよう求められます。再度パスワードをタイプして、<Enter> を押します。システム起動時およびBIOS セットアップに入るときは、管理者パスワード (またはユーザー パスワード) を入力する必要があります。ユーザー パスワードと異なり、管理者パスワードではすべての BIOS 設定を変更することができます。
 - ☞ **User Password**
ユーザー パスワードの設定が可能になります。このアイテムで <Enter> を押し、パスワードをタイプし、続いて <Enter> を押します。パスワードを確認するよう求められます。再度パスワードをタイプして、<Enter> を押します。システム起動時およびBIOS セットアップに入るときは、管理者パスワード (またはユーザー パスワード) を入力する必要があります。しかし、ユーザー パスワードでは、変更できるのはすべてではなく特定の BIOS 設定のみです。

パスワードをキャンセルするには、パスワード項目で <Enter> を押します。パスワードを求められたら、まず正しいパスワードを入力します。新しいパスワードの入力を求められたら、パスワードに何も入力しないで <Enter> を押します。確認を求められたら、再度 <Enter> を押します。

(注) この機能をサポートするCPUを取り付けている場合のみ、この項目が表示されます。Intel CPU の固有機能の詳細については、Intel の Web サイトにアクセスしてください。

2-6 Peripherals (周辺機器)

GIGABYTE - UEFI DualBIOS

Peripherals

LAN PXE Boot Option ROM [Disabled]

SATA Controller(s) [Enabled]
SATA Mode Selection [AHCI]
xHCI Pre-Boot Driver [Enabled]
xHCI Mode [Smart Auto]
HS Port #1 Switchable [Enabled]
HS Port #2 Switchable [Enabled]
HS Port #3 Switchable [Enabled]
HS Port #4 Switchable [Enabled]
xHCI Streams [Enabled]
USB2.0 Controller [Enabled]
Audio Controller [Enabled]
PCH LAN Controller [Enabled]
Init Display First [Auto]
Internal Graphics [Auto]
Internal Graphics Memory Size [64M]
DWMT Total Memory Size [MAX]
Intel(R) Rapid Start Technology [Disabled]

Enable or Disable Boot Option for Legacy Network Devices.

++: Select Screen T1/Click: Select Item
Enter/DBL Click: Select
-/+/F1/F2: Change Opt.
F1 : 3D Mode
F5 : Previous Values
F7 : Optimized Defaults
F8 : Q-Flash
F9 : System Information
F10 : Save & Exit
F12 : Print Screen
ESC/Right Click: Exit

Copyright (C) 2011 American Megatrends, Inc.

GIGABYTE - UEFI DualBIOS

Peripherals

Legacy USB Support [Enabled]

HS Port #3 Switchable [Enabled]
HS Port #4 Switchable [Enabled]
xHCI Streams [Enabled]
USB2.0 Controller [Enabled]
Audio Controller [Enabled]
PCH LAN Controller [Enabled]
Init Display First [Auto]
Internal Graphics [Auto]
Internal Graphics Memory Size [64M]
DWMT Total Memory Size [MAX]
Intel(R) Rapid Start Technology [Disabled]

Enables Legacy USB support. AUTO option disables legacy support if no USB devices are connected. DISABLE option will keep USB devices available only for EFI applications.

++: Select Screen T1/Click: Select Item
Enter/DBL Click: Select
-/+/F1/F2: Change Opt.
F1 : 3D Mode
F5 : Previous Values
F7 : Optimized Defaults
F8 : Q-Flash
F9 : System Information
F10 : Save & Exit
F12 : Print Screen
ESC/Right Click: Exit

Copyright (C) 2011 American Megatrends, Inc.

LAN PXE Boot Option ROM

オンボード LAN チップに統合されたブート ROM を有効にするかどうかを判断します。
(既定値: Disabled)

SATA Controller(s)

統合されたSATAコントローラの有効/無効を切り替えます。(既定値: Enabled)

SATA Mode Selection

Intel Z77 チップセットに統合された SATA コントローラ用の RAID の有効/無効を切り替えるか、SATA コントローラを AHCI モードに構成します。

► IDE SATAコントローラをIDEモードに構成します。

- » RAID SATAコントローラに対してRAIDを有効にします。
- » AHCI SATA コントローラを AHCI モードに構成します。Advanced Host Controller Interface (AHCI)は、ストレージドライバがネーティブコマンド待ち行列およびホットプラグなどのアドバンストシリアル ATA 機能を有効にできるインターフェイス仕様です。(既定値)
- « **xHCI Pre-Boot Driver**
 - » Enabled USB 3.0ポートは、OSの起動前に xHCI コントローラーにルーティングします。(既定値)
 - » Disabled USB 3.0ポートは、OSの起動前に EHCI コントローラーにルーティングします。この項目を Enabled にすると、下記 **xHCI Mode** が自動的に Smart Auto に設定されます。この項目を Disabled にすると、下記 **xHCI Mode** が自動的に Auto に設定されます。
- « **xHCI Mode**

OSのxHCIコントローラーのオペレーティングモードを決定できます。

 - » Smart Auto BIOS がブート前環境で xHCI コントローラーをサポートしている場合のみこのモードが使用可能です。このモードは Auto に類似していますが、ブート前環境で(非 G3 ブートの場合)前回ブート時に使用した設定に従って xHCI または EHCI にポートをルーティングする機能を追加します。OSの起動前に USB 3.0 デバイスの使用が可能になります。前回のブートでポートを EHCI にルーティングした場合、xHCI コントローラーの有効化とリルーティングは、Auto のステップに従って行います。注: BIOS が xHCI の起動前サポートに対応している場合に推奨するモードです。(既定値)
 - » Auto BIOS は、共有ポートを EHCI コントローラーにルーティングします。続いて、ACPI プロトコルを用いて xHCI コントローラーの有効化と共有ポートのリルーティングを可能にするオプションを提供します。注: BIOS が xHCI のブート前サポートに対応していない場合に推奨するモードです。
 - » Enabled 結果として、すべての共有ポートが BIOS の起動プロセス中に xHCI コントローラーにルーティングされます。BIOS が xHCI コントローラーの起動前サポートに対応していない場合、最初は共有ポートを EHCI コントローラーにルーティングし、その後 OS ブートの前にポートを xHCI コントローラーにルーティングする必要があります。注: このモードでは OS が xHCI コントローラーにサポートしている必要があります。OS がサポートしていない場合、すべての共有ポートが動作しません。
 - » Disabled USB 3.0 ポートは EHCI コントローラーにルーティングし、xHCI コントローラーをオフにします。すべての USB 3.0 デバイスは、xHCI ソフトウェアのサポートが使用可能かに関係なく高速デバイスとして機能します。この項目を Disabled に設定すると、下記項目 **HS Port #1/2/3/4 Switchable** と **xHCI Streams** は構成不能になります。
- « **HS Port #1 Switchable-HS Port #4 Switchable**
 - » Enabled 関連する USB 3.0 ポートは xHCI にルーティングされます。超高速機能付きポートにアタッチされた USB 3.0 デバイスが xHCI コントローラーに表示できます。(既定値)
 - » Disabled 関連する USB 3.0 ポートは EHCI にルーティングされます。この超高速機能付きポートにアタッチされたUSB 3.0デバイスは高速として機能します。
- « **xHCI Streams**

マルチストリームデータ転送を有効または無効にします。注: Windows 7 USB 3.0 ストリームサポートでは、Intel USB 3.0 ストリームサポートと完全に互換性があるようにするために、デバイスは UASP ドライバのベンダーから UASP クラスドライバを更新する必要があることがあります。(既定値: Enabled)
- « **USB 2.0 Controller**

統合されたUSB 2.0 コントローラの有効/無効を切り替えます。(既定値: Enabled)
- « **Audio Controller**

オンボードオーディオ機能の有効/無効を切り替えます。(既定値: Enabled)

オンボードオーディオを使用する代わりに、サードパーティ製アドインオーディオカードをインストールする場合、この項目を **Disabled** に設定します。

- ☞ **PCH LAN Controller**
オンボードLAN機能の有効/無効を切り替えます。(既定値: Enabled)
オンボードLANを使用する代わりに、サードパーティ製アドインネットワークカードをインストールする場合、この項目を **Disabled** に設定します。
- ☞ **Init Display First**
取り付けたPCIグラフィックスカード、PCI Expressグラフィックスカード、またはオンボーデングラフィックスから、最初に呼び出すモニタディスプレイを指定します。
 - ▶ Auto BIOS でこの設定を自動的に構成します。(既定値)
 - ▶ IGFX 最初のディスプレイとしてオンボーデングラフィックスを設定します。
 - ▶ PEG 最初のディスプレイとして、PCIEX16 スロットで PCI Express グラフィックカードを設定します。
- ☞ **Internal Graphics**
オンボードグラフィックス機能の有効/無効を切り替えます。(既定値: Auto)
- ☞ **Internal Graphics Memory Size**
オンボードグラフィックスクメモリサイズを設定できます。オプション:32M~1024M。(既定値: 64M)
- ☞ **DVMT Total Memory Size**
オンボードグラフィックスの DVMT メモリサイズを割り当てることができます。オプション: 128M, 256M, MAX。(既定値: MAX)
- ☞ **Intel(R) Rapid Start Technology**
Intel Rapid Start テクノロジーを有効または無効にします。SSD が取り付けられている場合のみ、この項目を構成できます。(既定値: Disabled)
- ☞ **Legacy USB Support**
USB キーボード/マウスを MS-DOS で使用できるようにします。(既定値: Enabled)
- ☞ **XHCI Hand-off**
XHCI ハンドオフのサポートなしでオペレーティングシステムの XHCI ハンドオフ機能を有効にするかを決定します。(既定値: Enabled)
- ☞ **EHCI Hand-off**
EHCI ハンドオフのサポートなしでオペレーティングシステムの EHCI ハンドオフ機能を有効にするかを決定します。(既定値: Disabled)
- ☞ **Port 60/64 Emulation**
I/Oポート 64h および 60h についてエミュレーションの有効/無効を切り替えます。
MS-DOS または USB デバイスをネイティブでサポートしていないオペレーティングシステムで USB キーボード/マウスをフルレガシサポートするにはこれを有効にします。
(既定値: Disabled)
- ☞ **USB Storage Devices**
接続された USB 大容量デバイスのリストを表示します。この項目は、USBストレージデバイスがインストールされた場合のみ表示されます。
- ▶ **Trusted Computing**
- ☞ **TPM SUPPORT**
Trusted Platform Module (TPM) を有効または無効にします。TPMデバイスが取り付けられている場合はこの項目を **Enable** に設定します。(既定値: Disable)
- ▶ **Intel(R) Smart Connect Technology**
- ☞ **ISCT Configuration**
Intel Smart Connect Technologyの有効/無効を切り替えます。(既定値: Disabled)

2-7 Power Management (電力管理)



⌚ AC BACK

AC 電源損失から電源を戻した後のシステム状態を決定します。

▶ Always Off AC 電源が戻ってもシステムの電源はオフのままで。(既定値)

▶ Always On AC 電源が戻るとシステムの電源はオンになります。

▶ Memory AC 電源が戻ると、システムは既知の最後の稼働状態に戻ります。

⌚ Power On By Keyboard

PS/2 キーボードの呼び起こしイベントによりシステムの電源をオンにすることが可能です。

注: この機能を使用するには、+5VSBリードで1A以上を提供するATX 電源装置が必要です。

▶ Disabled この機能を無効にします。(既定値)

▶ Any Key キーボードのいずれかのキーを押してシステムの電源をオンにします。

▶ Keyboard 98 Windows 98 キーボードの POWER ボタンを押してシステムの電源をオンにします。

⌚ Resume by Alarm

希望の時間に、システムの電源をオンにするかどうかを決定します。(既定値: Disabled)

有効になっている場合、以下のように日時を設定してください:

▶ Wake up day: ある月の毎日または特定日の特定の時間にシステムをオンにします。

▶ Wake up hour/minute/second: 自動的にシステムの電源がオンになる時間を設定します。

注: この機能を使う際は、オペレーティングシステムからの不適切なシャットダウンまたは AC 電源の取り外しを避けます。そうしない場合設定が有効にならないことがあります。

⌚ Wake On LAN

呼び起こしLAN機能の有効/無効を切り替えます。(既定値: Enabled)

⌚ ErP

S5(シャットダウン)状態の場合、システムで使用する電力を 1W 未満に抑えるかどうかを決定します。(既定値: Disabled)

注: このアイテムを Enabled に設定すると、次の機能が使用できなくなります。PME イベント呼び起こし、マウスによる電源オン、キーボードによる電源オン、LAN 上での呼び起こし。

☞ **High Precision Event Timer** (注)

Windows7 の High Precision Event Timer (HPET) の有効/無効を切り替えます。(既定値: Enabled)

☞ **Soft-Off by PWR-BTTN**

電源ボタンで MS-DOS モードのコンピュータの電源をオフにする方法を設定します。

▶▶ Instant-Off 電源ボタンを押すと、システムの電源は即時にオフになります。(既定値)

▶▶ Delay 4 Sec 電源ボタンを 4 秒間長押しすると、システムの電源がオフになります。電源ボタンを押す時間が 4 秒より短いと、システムは停止モードに入ります。

☞ **Internal Graphics Standby Mode**

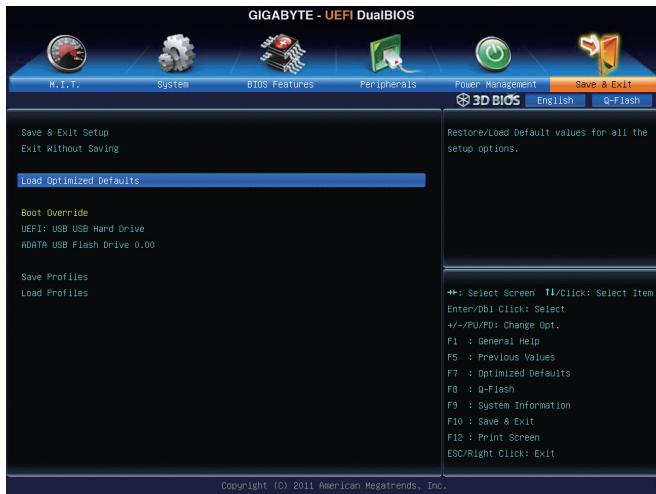
オンボードグラフィックスをスタンバイモードに入れて消費電力を削減するかどうかを決定できます。(既定値: Enabled)

☞ **Internal Graphics Deep Standby Mode**

オンボードグラフィックスをより深いスタンバイモードに入れるかどうかを決定できます。(既定値: Enabled)

(注) Windows 7 オペレーティングシステムでのみサポートされます。

2-8 Save & Exit (保存して終了)



☞ Save & Exit Setup

このアイテムで **<Enter>** を押し、**Yes** を選択します。CMOS に変更を保存し、BIOS セットアッププログラムを終了します。**No** を選択するかまたは **<Esc>** を押すと、BIOS セットアップのメインメニューに戻ります。

☞ Exit Without Saving

このアイテムで **<Enter>** を押し、**Yes** を選択します。これにより、BIOS セットアップで行われた変更を CMOS に保存することなく BIOS セットアップを終了します。**No** を選択するかまたは **<Esc>** を押すと、BIOS セットアップのメインメニューに戻ります。

☞ Load Optimized Defaults

このアイテムで **<Enter>** を押し、**Yes** を選択して BIOS の最適な初期設定を読み込みます。BIOS の初期設定は、システムが最適な状態で稼働する手助けをします。BIOS のアップデート後または CMOS 値の消去後には必ず最適な初期設定を読み込みます。

☞ Boot Override

直ちに起動するデバイスを選択できます。選択したデバイスで **<Enter>** を押し、**Yes** を選択して確定します。システムは自動で再起動してそのデバイスから起動します。

☞ Save Profiles

この機能により、現在の BIOS 設定をプロファイルに保存できるようになります。最大4つのプロファイルを作成し、セットアッププロファイル1～セットアッププロファイル4として保存することができます。**<Enter>** を押して終了します。

☞ Load Profiles

システムが不安定になり BIOS の初期設定を読み込んだ場合、この機能を使用して前に作成したプロファイルから BIOS 設定を読み込むことができ、BIOS 設定を再構成する手間をかけずに済みます。まず読み込むプロファイルを選択し、**<Enter>** を押して完了します。

第3章 ドライバのインストール

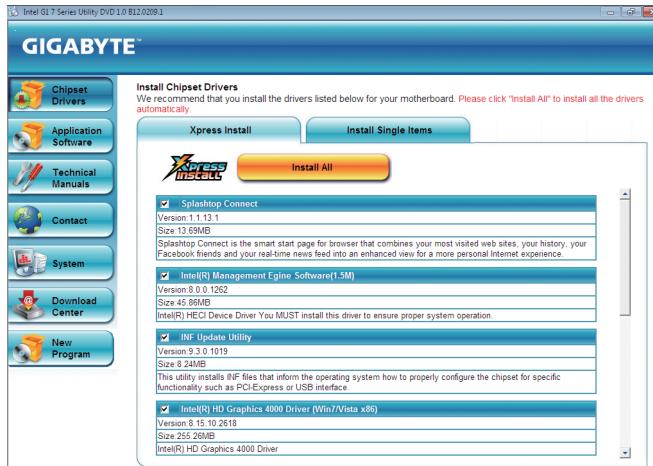


- ドライバをインストールする前に、まずオペレーティングシステムをインストールします。
- オペレーティングシステムをインストールした後、マザーボードのドライバディスクを挿入します。ドライバの自動実行スクリーンは、以下のスクリーンショットで示されたように、自動的に表示されます。(ドライバの自動実行スクリーンが自動的に表示されない場合、マイコンピュータに移動し、光ドライブをダブルクリックし、Run.exe プログラムを実行します。)

3-1 Installing Chipset Drivers (チップセットドライバのインストール)



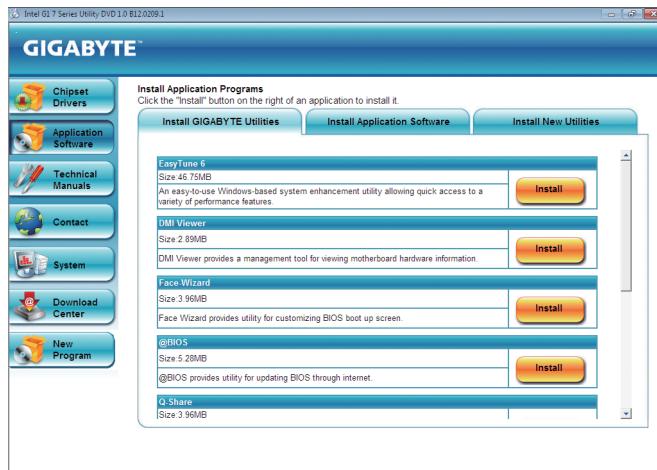
ドライバディスクを挿入すると、「Xpress Install」がシステムを自動的にスキャンして、インストールするように推奨されたすべてのドライバを一覧表示します。**Install All** ボタンをクリックすると、「Xpress Install」が推奨されたすべてのドライバをインストールします。または **Install Single Items** をクリックして、インストールするドライバを手動でインストールします。



- 「Xpress Install」がドライバをインストールしているときに表示されるポップアップダイアログボックス(たとえば、**Found New Hardware Wizard**)を無視してください。そうでないと、ドライバのインストールに影響を及ぼす可能性があります。
- デバイスドライバには、ドライバのインストールの間にシステムを自動的に再起動するものもあります。その場合は、システムを再起動した後、「Xpress Install」がその他のドライバを引き続きインストールします。
- 「Xpress Install」ですべてのドライバのインストールが完了すると、新しいGIGABYTE ユーティリティをインストールするかどうかを尋ねるダイアログボックスが表示されます。**Yes** をクリックするとユーティリティが自動的にインストールされます。または、ユーティリティを手動で選択して **Application Software** ページで、後でインストールする場合は、**No** をクリックします。

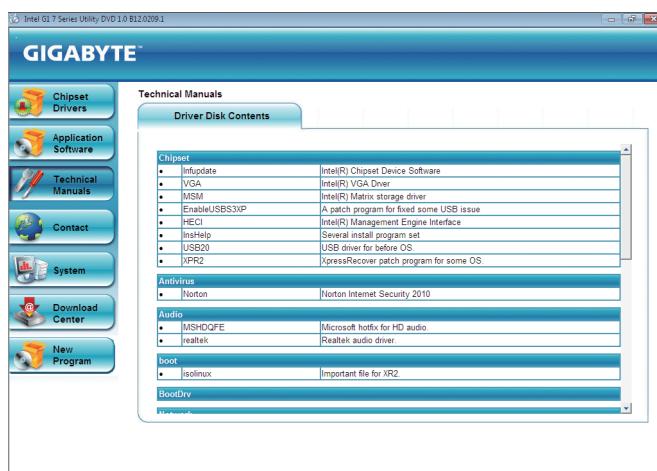
3-2 Application Software (アプリケーションソフトウェア)

このページでは、GIGABYTEが開発したすべてのユーティリティとアプリケーション、および一部の無償ソフトウェアが表示されます。アイテムの右にある **Install** ボタンをクリックして、そのアイテムをインストールできます。



3-3 Technical Manuals (技術マニュアル)

このページでは、ドライバディスクの内容について説明します。



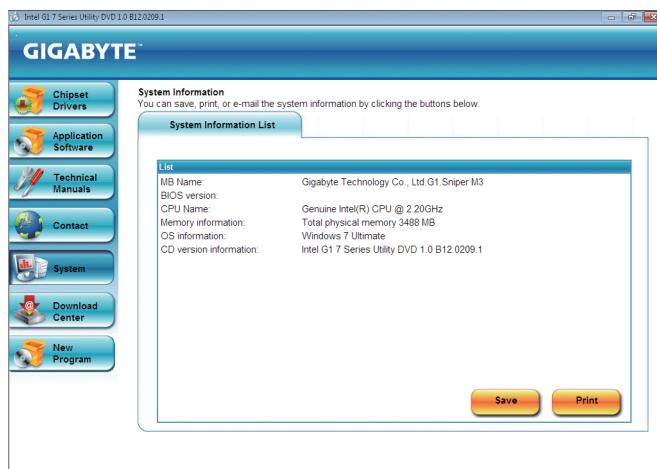
3-4 Contact (連絡先)

GIGABYTE Taiwan 本社または全世界の支社の連絡先情報の詳細については、このページの URLをクリックしGIGABYTE Webサイトにリンクしてください。



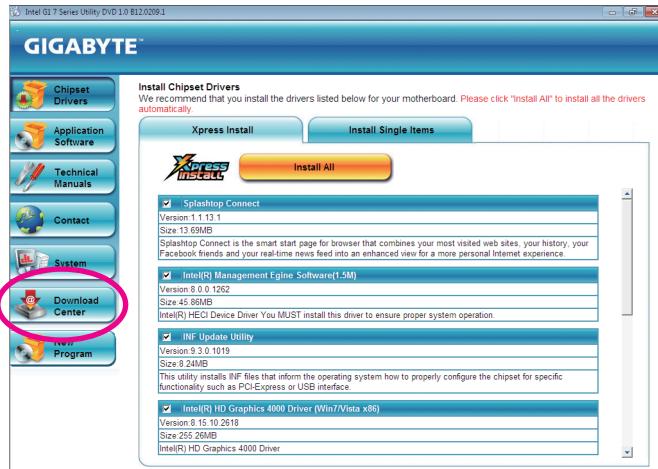
3-5 System (システム)

このページには、システムの基本情報が記載されています。



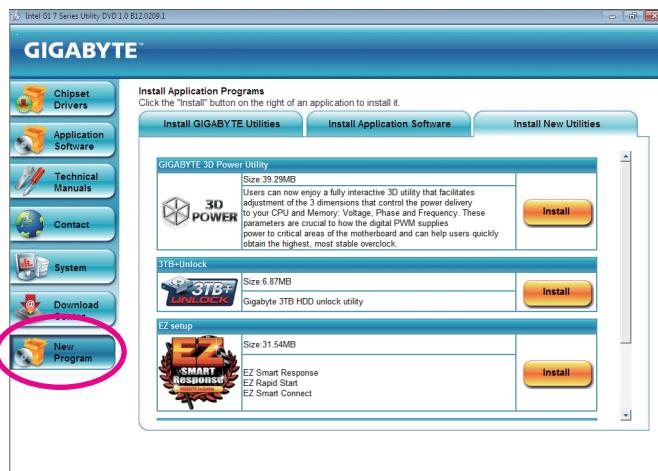
3-6 Download Center (ダウンロードセンター)

BIOS、ドライバ、またはアプリケーションを更新するには、Download Center ボタンをクリックして GIGABYTE の Web サイトにリンクします。BIOS、ドライバ、またはアプリケーションの最新バージョンが表示されます。



3-7 New Program (新プログラム)

このページでは、ユーザーのインストール向けに GIGABYTE が最近開発したユーティリティに素早くリンクできます。アイテムの右にある Install ボタンをクリックして、インストールすることができます。



第4章 固有の機能

4-1 Xpress Recovery2



Xpress Recovery2 はシステムデータを素早く圧縮してバックアップしたり、復元を実行したりするユーティリティです。NTFS、FAT32、および FAT16 ファイルシステムをサポートしているため、Xpress Recovery2 では PATA および SATA ハードドライブ上のデータをバックアップして、それを復元することができます。

始める前に：

- Xpress Recovery2 は、オペレーティングシステムの最初の物理ハードドライブ^(注)をチェックします。Xpress Recovery2 はオペレーティングシステムをインストールした最初の物理ハードドライブのみをバックアップ/復元することができます。
- Xpress Recovery2 はハードドライブの最後のバックアップファイルを保存し、あらかじめ割り当てられた容量が十分に残っていることを確認します（10 GB 以上を推奨します。実際のサイズ要件は、データ量によって異なります）。
- オペレーティングシステムとドライバをインストールした後、直ちにシステムをバックアップすることをお勧めします。
- データ量とハードドライブのアクセス速度は、データをバックアップ/復元する速度に影響を与えます。
- ハードドライブの復元よりバックアップする方が、長く時間がかかります。

システム要件：

- 512 MB 以上のシステムメモリ
- VESA 互換のグラフィックスカード
- Windows 7

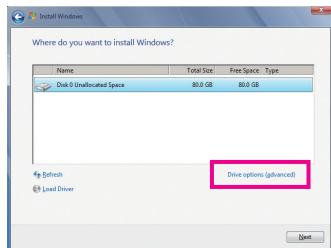


- Xpress Recovery および Xpress Recovery2 は異なるユーティリティです。たとえば、Xpress Recovery で作成されたバックアップファイルは Xpress Recovery2 を使用して復元することはできません。
- USB ハードドライブはサポートされません。
- RAID ドライブはサポートされていません。
- GPT/パーティションはサポートされていません。
- 2.2 TB より大容量のハードドライブはサポートされていません。

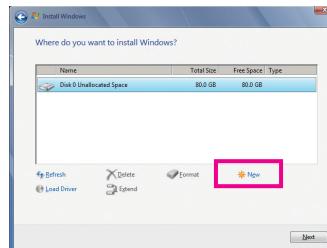
インストールと設定：

システムの電源をオンにして Windows 7 セットアップディスクからブートします。

A. Windows 7 のインストールとハードドライブの分割

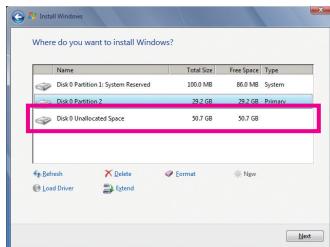


ステップ 1:
Drive options をクリックします。



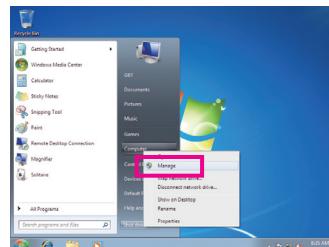
ステップ 2:
New をクリックします。

(注) Xpress Recovery2 は次の順序で最初の物理ハードドライブをチェックします：最初の SATA コネクタ、2番目の SATA コネクタなど。例えば、ハードドライブを最初および 3 番目の SATA コネクタに接続すると、最初の SATA コネクタのハードドライブが最初の物理ドライブになります。



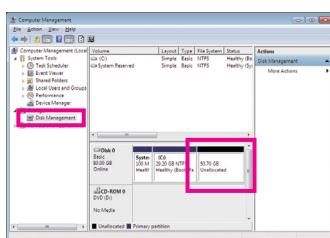
ステップ3:

ハードドライブをパーティションで区切っているとき、空き領域(10 GB以上を推奨します。実際のサイズ要件は、データの量によって異なります)が残っていることを確認し、オペレーティングシステムのインストールを開始します。



ステップ4:

オペレーティングシステムをインストールしたら、Start をクリックし、Computer を右クリックし、Manage を選択します。Disk Management をポイントし、ディスク割り当てをチェックします。



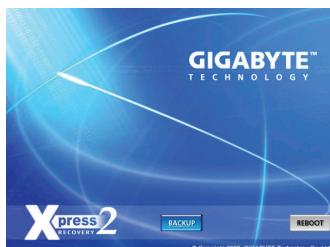
ステップ5:

Xpress Recovery2 はバックアップファイルを空き領域(上部の黒いストライプ)に保存します。十分な空き領域がない場合、Xpress Recovery2 はバックアップファイルを保存できません。

B. Xpress Recovery2 へのアクセス

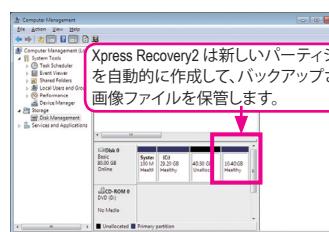
マザーボードドライブディスクから起動して、初めて Xpress Recovery2 にアクセスします。
Press any key to startup Xpress Recovery2、というメッセージが表示されたら、どれかのキーを押して Xpress Recovery2 に入ります。

C. Xpress Recovery2 でのバックアップ機能の使用



ステップ1:

BACKUP を選択して、ハードドライブデータのバックアップを開始します。



ステップ2:

終了したら、Disk Management に移動してディスク割り当てをチェックします。

D. Xpress Recovery2 での復元機能の使用

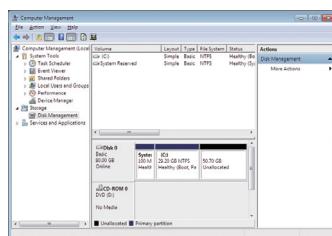


システムが故障した場合、**RESTORE** を選択してハード ドライブへのバックアップを復元します。それまでバックアップが作成されていない場合、**RESTORE** オプションは表示されません。

E. バックアップの削除



ステップ 1:
バックアップファイルを削除する場合、**REMOVE** を選択します。



ステップ 2:
バックアップファイルを削除すると、
バックアップされた画像ファイルは **Disk Management** からなくなり、ハードドライブの
スペースが開放されます。

F. Xpress Recovery2 を終了する



REBOOT を選択して Xpress Recovery2 を終了します。

4-2 BIOS 更新ユーティリティ

GIGABYTE マザーボードには、Q-Flash™ と @BIOS™ の 2 つの固有 BIOS 更新が含まれています。GIGABYTE Q-Flash と @BIOS は使いやすく、MSDOS モードに入らずに BIOS を更新することができます。さらに、このマザーボードは DualBIOS™ 設計を採用して、物理 BIOS チップをさらに 1 つ追加することによって保護を強化しコンピュータの安全と安定性を高めています。



DualBIOS™ とは？

デュアル BIOS をサポートするマザーボードには、メイン BIOS とバックアップ BIOS の 2 つの BIOS が搭載されています。通常、システムはメイン BIOS で作動します。ただし、メイン BIOS が破損または損傷すると、バックアップ BIOS が次のシステム起動を引き継ぎ、BIOS ファイルをメイン BIOS にコピーし、通常にシステム操作を確保します。システムの安全のために、ユーザーはバックアップ BIOS を手動で更新できないようになっています。



Q-Flash™ とは？

Q-Flashがあれば、MS-DOS や Windows のようなオペレーティングシステムに入らずに BIOS システムを更新できます。BIOS に組み込まれた Q-Flash ツールにより、複雑な BIOS フラッシングプロセスを踏むといった煩わしさから開放されます。



@BIOS™ とは？

@BIOS により、Windows 環境に入っている間にシステム BIOS を更新することができます。@BIOS は一番近い BIOS サーバーサイトから最新の @BIOS ファイルをダウンロードし、BIOS を更新します。

4-2-1 Q-Flash ユーティリティで BIOS を更新する

A. 始める前に

1. GIGABYTE の Web サイトから、マザーボードモデルに一致する最新の圧縮された BIOS 更新ファイルをダウンロードします。
2. ファイルを抽出し、新しい BIOS (SNIPERM3.F1 など) をお使いの USB フラッシュドライブまたは USB ハードドライブに保存します。注: USB フラッシュドライブまたはハードドライブは、FAT32/16/12 ファイルシステムを使用する必要があります。
3. システムを再起動します。POST の間、<End> キーを押して Q-Flash に入ります。注: POST 中に <End> キーを押すことによって、または BIOS セットアップで <F8> キーを押すことによって、Q-Flash にアクセスすることができます。ただし、BIOS 更新ファイルが RAID/AHCI モードのハードドライブまたは独立した SATA コントローラに接続されたハードドライブに保存された場合、POST の間に <End> キーを使用して Q-Flash にアクセスします。



BIOS フラッシングは危険性を含んでいるため、注意して行ってください。BIOS の不適切なフラッシュは、システムの誤動作の原因となります。

B. BIOS を更新する

Q-Flashのメインメニューで、キーボードまたはマウスを使用して実行するアイテムを選択します。BIOS を更新しているとき、BIOS ファイルを保存する場所を選択します。次の手順では、BIOS ファイルをフロッピーディスクに保存していると仮定しています。

ステップ 1:

1. BIOS ファイルを含むフロッピーディスクをフロッピーディスクドライブに挿入します。



- **Save BIOS to Drive** オプションにより、現在の BIOS ファイルを保存することができます。
- Q-Flash は FAT32/16/12 ファイルシステムを使用して、USB フラッシュドライブまたはハードドライブのみをサポートします。
- BIOS 更新ファイルが RAID/AHCI モードのハードドライブ、または独立した SATA コントローラに接続されたハードドライブに保存されている場合、POST 中に <End> キーを使用して Q-Flash にアクセスします。

2. **Flash Disk** を選択します。



3. BIOS 更新ファイルを選択します。



BIOS 更新ファイルが、お使いのマザーボードモデルに一致していることを確認します。

ステップ 2:

USB フラッシュドライブから BIOS ファイルを読み込むシステムのプロセスが、画面に表示されます。「BIOSを更新しますか?」というメッセージが表示されたら、**Yes** を選択して BIOS 更新を開始します。モニタには、更新プロセスが表示されます。



- システムが BIOS を読み込み/更新を行っているとき、システムをオフにしたり再起動したりしないでください。
- システムが BIOS を更新しているとき、USB フラッシュドライブまたはハードドライブを取り外さないでください。

ステップ 3:

更新プロセスが完了したら **Reboot** を選択してシステムを再起動します。



ステップ 4:

POST中に、<Delete>キーを押してBIOSセットアップに入ります。Save & Exit画面でLoad Optimized Defaultsを選択し、<Enter>を押してBIOSデフォルトをロードします。BIOSが更新されるとシステムはすべての周辺装置を再検出するため、BIOSデフォルトを再ロードすることをお勧めします。



Yesを選択してBIOSデフォルトをロードします

ステップ 5:

Save & Exit Setupを選択し、<Enter>を押します。Yesを選択してCMOSに設定を保存し、BIOSセットアップを終了します。システムの再起動後に手順が完了します。

4-2-2 @BIOS ユーティリティで BIOS を更新する

A. 始める前に

1. Windows で、すべてのアプリケーションと TSR (メモリ常駐型) プログラムを閉じます。これにより、BIOS 更新を実行しているとき、予期せぬエラーを防ぐのに役立ちます。
2. BIOS 更新プロセスの間、インターネット接続が安定しており、インターネット接続が中断されないことを確認してください (たとえば、停電やインターネットのスイッチオフを避ける)。そうしないと、BIOS が破損したり、システムが起動できないといった結果を招きます。
3. @BIOS を使用しているとき、G.O.M. (GIGABYTE オンライン管理) 機能を使用しないでください。
4. 不適切な BIOS フラッシングに起因する BIOS 損傷またはシステム障害は GIGABYTE 製品の保証の対象外です。

B. @BIOSを使用する



1. **Update BIOS from GIGABYTE Server** インターネット更新機能を使用して BIOS を更新する:
Update BIOS from GIGABYTE Server をクリックし、一番近い @BIOS サーバーを選択し、お使いのマザーボードモデルに一致する BIOS ファイルをダウンロードします。オンスクリーンの指示に従って完了してください。
マザーボードの BIOS 更新ファイルが @BIOS サーバーサイトに存在しない場合、GIGABYTE の Web サイトから BIOS 更新ファイルを手動でダウンロードし、以下の「インターネット更新機能を使用して BIOS を更新する」の指示に従ってください。
2. **Update BIOS from File** インターネット更新機能を使用せずに BIOS を更新する:
Update BIOS from File をクリックし、インターネットからまたは他のソースを通して取得した BIOS 更新ファイルの保存場所を選択します。オンスクリーンの指示に従って、完了してください。
3. **Save Current BIOS to File** 現在の BIOS をファイルに保存:
Save Current BIOS to File をクリックして、BIOS ファイルを保存します。
4. **Load CMOS default after BIOS update** BIOS 更新後に BIOS 既定値のロード:
Load CMOS default after BIOS update チェックボックスを選択すると、BIOS が更新されシステムが再起動した後、システムは BIOS デフォルトを自動的にロードします。

C. BIOS を更新した後

BIOS を更新した後、システムを再起動してください。



フラッシュする BIOS ファイルがお使いのマザーボードモデルに一致していることを確認します。間違った BIOS ファイルで BIOS を更新すると、システムは起動しません。

4-3 EasyTune 6

GIGABYTE の EasyTune 6 は使いやすいインターフェイスで、ユーザーが Windows 環境でシステム設定を微調整したりオーバークロック/過電圧を行ったりできます。使いやすい EasyTune 6 インターフェイスには CPU とメモリ情報のタブ付きページも含まれ、ユーザーは追加ソフトウェアをインストールする必要なしに、システム関連の情報を読み取れるようになります。

EasyTune 6 のインターフェイス



タブ情報

タブ	機能
CPU	CPU タブでは、取り付けた CPU とマザーボードに関する情報が得られます。
Memory	Memory タブでは、取り付けたメモリモジュールに関する情報が得られます。特定スロットのメモリモジュールを選択してその情報を見ることができます。
Tuner	Tuner タブでは、メモリ設定と電圧を変更します。 <ul style="list-style-type: none">Quick Boost mode は、ユーザーが目的のシステムパフォーマンスを達成できるように、3 レベルの CPU 周波数/ベースクロックを提供します。Quick Boost mode を変更した後、または Default をクリックしてデフォルト値に戻った後、システムを再起動してこれらの変更を有効にするのを忘れないでください。Easy mode は、CPU/メモリに情報を提供します。Advanced mode では、スライダを使用してシステムのクロック設定と電圧設定を個別に変更します。Save では、現在の設定を新しいプロファイル(.txtファイル)で保存します。Load では、プロファイルから以前の設定をロードします。 Easy mode/Advanced mode で変更を行った後、Setをクリックしてこれらの変更を有効にするか、Default をクリックして既定値に戻してください。 Auto Tuning ボタンは、システムパフォーマンスを強化するために、もっとも高速で信頼できる周波数を提供します。
Graphics	Graphics タブでは、ATIまたはNVIDIAグラフィックスカード用のコアクロックとメモリクロックを変更します。
Smart	Smart タブでは、スマートファンモードを指定します。Smart Fan Advance Mode では、設定したCPU温度しきい値に基づいてCPUファン速度を直線的に変更することができます。
HW Monitor	HW Monitor タブでは、ハードウェアの温度、電圧およびファン速度を監視離、温度/ファン速度アラームを設定します。ユーザーからアラートサウンドを選択したり、独自のサウンドファイル(.wavファイル)を使用できます。

EasyTune 6 の使用可能な機能は、マザーボードのモデルによって異なります。淡色表示になったエリアは、アイテムが設定できないか、機能がサポートされていないことを示しています。

オーバークロック/過電圧を間違って実行すると CPU、チップセット、またはメモリなどのハードウェアコンポーネントが損傷し、これらのコンポーネントの耐用年数が短くなる原因となります。オーバークロック/過電圧を実行する前に、EasyTune 6 の各機能を完全に理解していることを確認してください。そうでないと、システムが不安定になったり、その他の予期せぬ結果が発生する可能性があります。

4-4 Q-Share

Q-Share は簡単で便利なデータ共有ツールです。LAN 接続設定と Q-Share を構成した後、データを同じネットワークのコンピュータと共有し、インターネットリソースの最大限に活用することができます。



Q-Shareの使用法

マザーボードドライブディスクから Q-Shareをインストールしたら、Start>All Programs>GIGABYTE>Q-Share.exe を順にポイントして、Q-Share ツールを起動します。通知領域のアイコンを探し、このアイコンを右クリックしてデータ共有設定を構成します。



図 1. 無効になったデータ共有



図 2. 有効になったデータ共有

オプションの説明

オプション	説明
Connect ...	データ共有を有効にしたコンピュータを表示します
Enable Incoming Folder ...	データ共有を有効にする
Disable Incoming Folder ...	データ共有を無効にする
Open Incoming Folder : C:\Q-ShareFolder	共有されたデータフォルダへのアクセス
Change Incoming Folder : C:\Q-ShareFolder	共有するデータフォルダを変更 <small>(注)</small>
Update Q-Share ...	Q-Share のオンライン更新
About Q-Share ...	現在の Q-Share バージョンを表示する
Exit...	Q-Share の終了

(注) データ共有が無効のときのみ、このオプションを使用できます。

4-5 eXtreme Hard Drive (X.H.D)



GIGABYTE eXtreme Hard Drive (X.H.D)^(注1)があると、新しいSATAドライブが追加されるときに、RAID 0に対してRAID対応システムを素早く構成することができます。すでに存在するRAID 0アレイの場合、X.H.Dを使ってハードドライブをアレイに追加して容量を簡単に拡張することもできます。ボタンを1回クリックするだけで、X.H.Dは複雑で時間がかかる構成をせずにハードドライブの読み込み/書き込みパフォーマンスを強化することができます。次の手順は、RAID対応のシステムをセットアップし、それをRAID 0に対して構成することができます。

A. RAID対応システムをセットアップする

ステップ1: システム BIOS の構成

システムBIOSセットアッププログラムに入り、Intel SATAコントローラのRAIDを有効にします。

ステップ2: RAID ドライバとオペレーティングシステムのインストール

X.H.DユーティリティはWindows 7をサポートします。オペレーティングシステムをインストールする前に、まずSATAコントローラドライバをロードする必要があります。ドライバがなければ、Windowsセットアッププロセスの間ハードドライブは認識されません。(詳細については、第5章「SATA RAID/AHCI ドライバとオペレーティングシステムをインストールする」を参照してください。)

ステップ3: マザーボードドライバとX.H.Dユーティリティのインストール

オペレーティングシステムをインストールした後、マザーボードドライバディスクを挿入します。Xpress Install Allボタンをクリックして、X.H.Dユーティリティを含め、マザーボードドライバをすべて自動的にインストールします。または、Application Software画面に移動してX.H.Dユーティリティを後で個別にインストールすることもできます。

B. GIGABYTE eXtreme Hard Drive (X.H.D) を使用する



指示^(注2):

X.H.Dを起動する前に、新しく追加したハードドライブがRAID対応のシステムドライブより大きな容量であることを確認します。(新しいハードドライブを以前作成されたRAID 0アレイに追加するには、新しいドライブがアレイで最大のドライブより大きいことを確認します。)

- Auto RAID 0 アレイを自動的にセットアップする:**
Auto(自動)をクリックすると、RAID 0アレイを自動的に素早くセットアップします
- Manual RAID アレイを手動でセットアップする^(注3):**
Manual(手動)をクリックしてIntel Matrixストレージコンソールにアクセスすると、ニーズとハードウェアコンポーネントに応じて、RAID 0、RAID 1、またはその他のサポートされるRAIDアレイを構築することができます。
- Cancel X.H.D ユーティリティを終了する:**
Cancel(キャンセル)をクリックしてX.H.Dユーティリティを終了します。

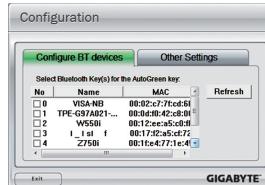
(注 1) X.H.Dユーティリティは、Intelチップセットに統合されたSATAコントローラのみをサポートします。

(注 2) X.H.Dユーティリティを実行する前に、ハードウェアが損傷したりデータが失われたりすることがないように、すべてのデータのバックアップを取るようお勧めします。

(注 3) 非RAID 0アレイを手動で構築すると、Auto機能を使用して後でRAID 0アレイ自動的にセットアップすることはできなくなります。

4-6 Auto Green

Auto Green はユーザーに単純なオプションを提供する使いやすいツールで、Bluetooth 携帯電話を通してシステムの省電力を有効にします。電話がコンピュータの Bluetooth レシーバーの範囲外にあるとき、指定された省電力モードに入ります。



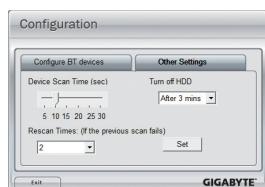
構成ダイアログボックス:

まず、Bluetooth 携帯電話をポータブルキーとして設定する必要があります。Auto Green メインメニューで、**Configure**、**Configure BT devices**を順にクリックします。ポータブルキーとして使用するBluetooth 携帯電話を選択します^(注1)。(画面に Bluetooth 携帯電話が表示されない場合、**Refresh**をクリックして Auto Green でデバイスを再検出します。)

 Bluetooth 携帯電話キーを作成する前に、マザーボードに Bluetooth レシーバーが組み込まれており、電話の検索と Bluetooth 機能をオンにしていることを確認します。

Bluetooth 携帯電話キーの構成:

携帯電話を選択すると、左に示すような **Add device** が表示されます。携帯電話のペアとして使用するパスキー(8~16 桁を推奨)を入力します。お使いの携帯電話に同じパスキーを入力します。



他の Bluetooth 設定を構成する:

Other Settings タブでは、Bluetooth 携帯電話キーのスキャンに要する時間、コンピュータの範囲に入っていることを確認するためにキーを再スキャンする回数、システムの省エネ状態が事前定義された時間経過した場合ハードドライブをオフにするときを設定できます。設定を完了した後、**Set** をクリックして設定を有効にし、**Exit** をクリックして終了します。

- **デバイスのスキャン時間(秒):**
Auto Green が Bluetooth 携帯電話キーをスキャンする時間を、5~30 秒まで 5 秒刻みで設定します。Auto Green は設定した時間に基づいてキーを検索します。
- **再スキャン回数:**
Auto Green が Bluetooth 携帯電話キーが検出されない場合、キーを再スキャンする回数を 2~5 回まで設定します。Auto Green は、設定した回数に基づいて再スキャンを続けます。制限時間に達しても Bluetooth 携帯電話キーが検出されない場合、選択した省エネモードに入ります。
- **HDをオフにする:**
ハードドライブをオフにするときを設定します。システムの非活動時間が指定された制限時間を越えると、ハードドライブはオフになります。



システムの省エネモードを選択する:

ニーズに応じて、[Auto Green] メインメニューでシステムの省エネモードを選択し、**Save** をクリックして設定を保存します。

ボタン	説明
Standby	パワーオンサスペンドモードに入ります
Suspend	サスペンドトゥ RAM モードに入ります
Disable	この機能を無効にします

 マザーボードパッケージ^(注2)に付属する Bluetooth ドングルにより、また電源ボタンを押す必要なしに、サスペンドトゥ RAM モードからシステムを呼び起すことができます。

(注1) お使いの携帯電話が「オートグリーン」キーとして構成されている場合、オートグリーンが有効になっていれば携帯電話を他のBluetoothデバイスに接続することはできません。

(注2) Bluetoothドングルが含まれているかどうかは、マザーボードのモデルによって異なります。Bluetoothドングルを取り付ける前に、コンピュータの他のBluetooth受信器をオフにしていることを確認してください。

4-7 Intel Rapid Start Technology

A. システム要件

1. Windows 7 SP1
2. システムメモリの合計よりサイズが大きい SSD
3. BIOS 設定における Intel Rapid Start Technology の有効化
4. AHCI/RAID モードに対応 (RAIDアレイのメンバーとして SSD が割り当てられている場合は Intel Rapid Start 格納パーティションのセットアップに使用することができませんのでご注意ください。) IDE モードは非対応
5. すべてのマザーボードドライバが正しくインストールされている

B. 1次格納パーティションの作成

以下は、SATA/ハードドライブに Windows 7 がインストール済みであることが前提です。

オープンディスクマネジメントツール

ステップ1 コントロールパネル > システムとセキュリティ > 管理ツール > コンピューターの管理 > ストレージ > ディスク管理。

ステップ2 格納パーティションを作成する SSD を選択します (SSD が割り当てられていない場合はまず新しいパーティションを作成します)。続いて選択したパーティション上で右クリックして **Shrink Volume** を選択します。(図1)

ステップ3 必要なパーティションのサイズを入力します(サイズは現在システムにインストールされているメモリのサイズと同じである必要があります。(1 GB=1024 MB。例えば 8 GB の場合は 8192 MB と入力します)。今後のメモリアップグレードのシナリオに備えて、システムがサポートする最大メモリ容量と等しいパーティションを作成することを推奨します。)

ステップ4 完了したら、縮小を **Shrink**。(図2)

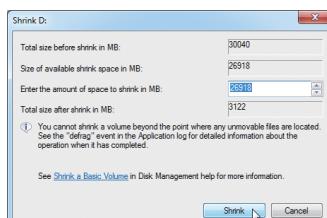
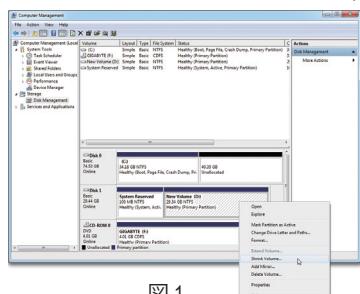


図2

C. DiskPartディスクパーティショニングツールを起動して、Intel Rapid Start Store Partitionをセットアップします。

コマンドプロンプト画面を開き、diskpart.exe (C:\> command prompt で「diskpart」と入力し、<Enter>を押します) を起動します。diskpartプロンプトで、順番に次のコマンドをタイプします。注: MBR 形式および GPT 形式でコマンドが異なります。以下のコマンドを参照してください。すべてのコマンドを入力したら、必ずコンピューターを再起動してください。

MBR 形式:

```
DISKPART>list disk  
DISKPART>select disk X
```

(ディスクとその情報をリストします。
(ディスクを選択します。「X」が格納パーティションを作成する場合のディスク番号になります。正確なディスク番号については「list disk」の結果を参照してください。)

```
DISKPART>create partition primary
```

(1次格納パーティションを作成します。)

```

DISKPART>detail disk
DISKPART>select volume X
DISKPART>set id=84 override

```

(選択されたディスクのプロパティおよびディスク容量を表示します。)
(指定されたボリュームを選択します。「X」は格納パーティションのボリュームです。正確なディスク番号については「detail disk」の結果を参照してください。
(パーティションのタイプを変更します。)(図3)

GPT 形式:

MBR 形式では次のコマンドに従ってください。パーティションタイプ (set id = 「XXX」) を変更する場合に最後のコマンドを実行する場合は、代わりに次のコマンドを入力します(図4):

```
DISKPART>set id=D3BFE2DE-3DAF-11DF-BA40-E3A556D89593
```

上記のコマンドを終了すると、Intel Rapid Start Technology 格納パーティションが作成されます。コンピュータを再起動します。

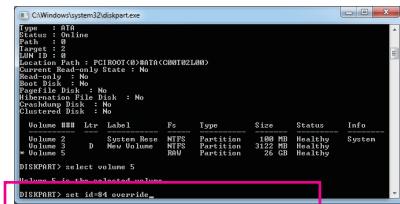


図3

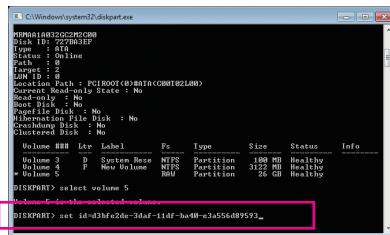


図4

D. BIOS設定におけるIntel Rapid Start Technologyの有効化

- システムが再起動したら、<削除>を押してBIOSセットアッププログラムに入ります。
Peripheralsメニューに移動し、Intel Rapid Start Technology を Enabled にします。
- 設定を保存し、BIOSセットアップを終了します。

E. Intel Rapid Start アプリケーションのインストールと構成

- オペレーティングシステムにいる時、マザーボードのドライブディスクを挿入し、Application Software\Install Application Software に移動し、Intel Rapid Start Technology を選択してインストールします。インストールが終了したら、システムを再起動することをお勧めします。
- Start>All Programs\Intel から Intel Rapid Start Technology Manager アプリケーションを起動するか、または通知エリアで アイコンをクリックします。



指示:

Intel Rapid Start アプリケーションは、Intel Rapid Start Technology を有効または無効にすることができます。Advanced Settings の Timer スライダーは、S3 モードに入った後いつメモリからSSDにデータをコピーおよび移動するかを設定します。

4-8 Intel Smart Connect Technology

Intel Smart Connect Technology^(注)により、システムが一時停止(スリープ状態)の時にそのデータを取得するためインターネットと協働するよう設計されたプログラムをお使いのコンピューターが自動的にアップデートできるようになります。コンピューターがウェイクアップすると、最新のデータが取得できます。

A. システム要件

1. BIOS設定におけるIntel Smart Connect Technologyの有効化
2. Windows 7 SP1
3. 通常のネットワーク接続

B. Intel Smart Connect Technologyの構成

ステップ1:

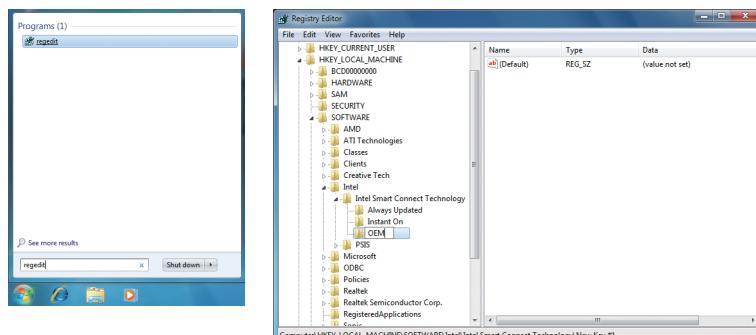
オペレーティングシステムとマザーボードドライバをインストール後、Intel Smart Connect Technologyアプリケーションをインストールします。完了したら、コンピューターを再起動します。

ステップ2:

次の左のスクリーンショットに示すように、Startボタンをクリックしてから、検索フィールドに「regedit」とタイプしてレジストリエディタを開きます。レジストリエディタで次のディレクトリを探します。

Computer\HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Intel\Intel Smart Connect Technology

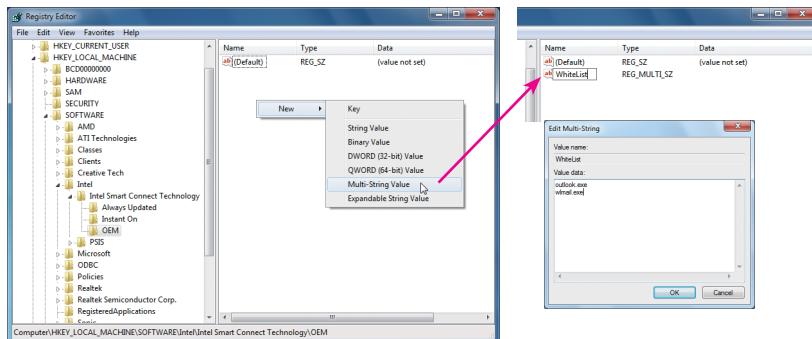
Intel Smart Connect Technology 上で右クリックして New > Keyを選択します。「OEM」とタイプします。



(注) Intel Smart Connect Technology は S3 モードのみです。アップデート処理中、モニターは点灯せずスピーカーから音が出力されなくなります。この機能は、Microsoft Outlook®、Microsoft Windows Live™ Mail、およびSeesmic®などのデータを取得するため自動的にインターネットと協働するよう設計されたプログラムに最適です。

ステップ 3:

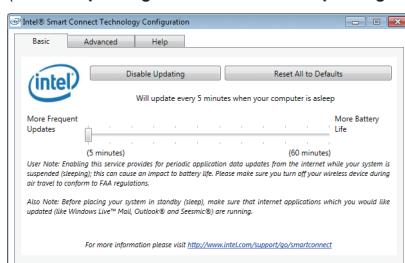
以下の左のスクリーンショットに示すように、OEM を右クリックして New > Multi-String Value を選択してから、「WhiteList」とタイプします。WhiteList をダブルクリックし、Edit Multi-String に追加するアプリケーション名をタイプします。例えば、Microsoft Outlookを追加するには「outlook.exe」とタイプします。Microsoft Windows Live を追加するには「wlmail.exe」とタイプします。完了したら、コンピューターを再起動します。



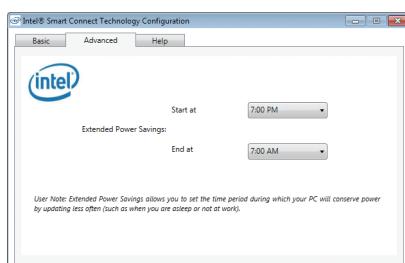
ステップ 4:

上記ステップの完了後、Start>All Programs\Intel に移動し、Intel(R) Smart Connect Technology を起動します。Intel® Smart Connect Technology Configuration メニューで Basic タブの Enable Updating をクリックします。

(Enable Updating ボタンが Disable Updating に変わります。)



このメニューで、ユーザーはアップデート周波数を5分～60分に設定できます。(既定値: 15分)



Advanced タブでは、2時間ごとのみにアップデートが行われる期間(寝ている時など)を設定できます。

4-9 Intel Smart Response

A. システム要件

1. Intel チップセットベースのマザーボード
2. Intel コアシリーズプロセッサ
3. BIOS の設定で、SATA コントローラに対して RAID を有効にする
4. 従来の SATA ディスクおよび SSD^(注1)
5. Windows 7 SP1^(注2)
6. すべてのマザーボードドライバが正しくインストールされている

 Smart Response Technology を設定する前にオペレーティングシステムをすでにインストールしている場合、RAID モードを有効にすると、ハードディスクの元のデータがすべて失われます。Smart Response Technology を有効にする前に、ハードディスクのバックアップを取るようにお勧めします。

B. Intel Smart Response Technology の構成

ステップ 1:

オペレーティングシステムにいる時、マザーボードドライバディスクの「Xpress Install」機能を使用して Intel Rapid Storage Technology ドライバを含め、すべてのマザーボードドライバをインストールします。完了したら、コンピューターを再起動します。

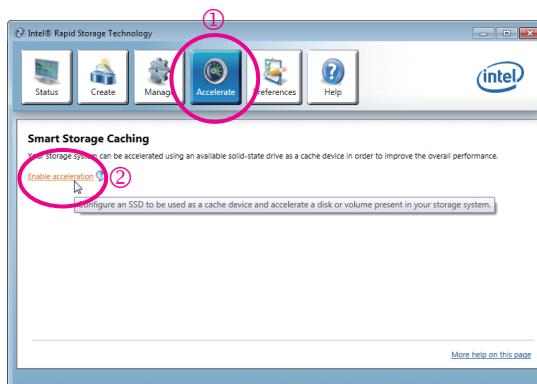
 Intel Rapid Storage Technology ドライババージョンが 11.0 以上であることを確認してください。

ステップ 2:

通知エリアで IRST アイコン  を探し、ダブルクリックして Intel Rapid Storage Technology ユーティリティを開きます。

ステップ 3:

メイン画面で、Accelerate ボタンをクリックし、Enable acceleration をクリックします。



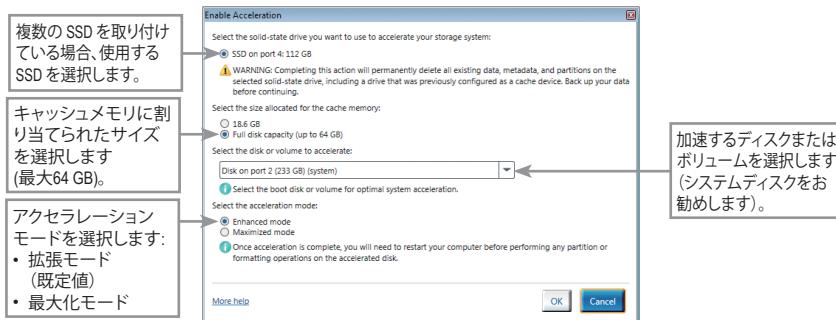
(注1) SSD は、ハードディスクのキャッシュとして動作します。最大のキャッシュメモリサイズは 64 GB です。64 GB より大きな容量の SSD を使用する場合、64 GB を超えるスペースはデータの保存用に使用することができます。

(注2) オペレーティングシステムは SATA ディスクにインストールする必要があります。

ステップ 4:

使用する SSD、キャッシュメモリに対して割り当てた SSD のサイズ、加速するハードディスク / ボリューム、アクセラレーションモードを選択した後、OK をクリックして Intel Smart Response Technology の設定を完了します。

「アクセラレーションの有効化」ダイアログボックス:



・拡張モード（既定値）

このモードで、データはキャッシュメモリとディスクに同時に書き込まれます。 加速されたディスクまたはボリュームが切断された場合、ディスクのデータは常にキャッシュメモリのデータと同期化されるためデータ損失の危険はありません。

・最大化モード

このモードで、キャッシュされたデータはパフォーマンスを強化するために周期的に加速されたディスクまたはボリュームに書き込まれます。キャッシュデバイスが不明または障害ありと報告された場合、加速されたディスクまたはボリュームにまだ書き込まれていなければ、そのデータは失われます。

第5章 付録

5-1 SATA ハードドライブの設定

RAIDレベル

	RAID 0	RAID 1	RAID 5	RAID 10
ハードドライブの最小数	≥2	2	≥3	≥4
アレイ容量	ハードドライブの数*最小ドライブのサイズ	最小ドライブのサイズ	(ハードドライブの数-1)*最小ドライブのサイズ	(ハードドライブの数/2)*最小ドライブのサイズ
耐故障性	いいえ	はい	はい	はい

SATA ハードドライブを設定するには、以下のステップに従ってください：

- コンピュータにSATA ハードドライブを取り付ける。
- BIOS セットアップで SATA コントローラモードを設定します。
- RAID BIOS で RAID アレイを設定します。^(注1)
- SATA RAID/AHCI ドライバとオペレーティングシステムをインストールします。^(注2)

始める前に

以下を準備してください：

- 少なくとも 2 台の SATA ハードドライブ(最適のパフォーマンスを発揮するために、同じモデルと容量のハードドライブを 2 台使用することをお勧めします)。RAID を作成したくない場合、準備するハードドライブは 1 台のみで結構です。
- Windows 7 セットアップディスク。
- マザーボードドライバディスク。

5-1-1 SATA コントローラを構成する

A. コンピュータに SATA ハードドライブをインストールする

SATA 信号ケーブルの一方の端を SATA ハードドライブの背面に、もう一方の端をマザーボードの空いている SATA ^(注3) ポートに接続します。次に電源装置から電源コネクタをハードドライブに接続します。

(注1) SATA コントローラで RAID を作成しない場合、このステップをスキップしてください。

(注2) SATA コントローラが AHCI または RAID モードに設定されているときに要求されます。

(注3) RAID セットが SATA 6Gb/s と SATA 3Gb/s チャンネルにまたがって構築されるとき、RAID セットのシステムパフォーマンスは接続されているデバイスによって変わります。

B. BIOS セットアップで SATA コントローラモードを設定する

SATA コントローラコードがシステム BIOS セットアップで正しく設定されていることを確認してください。

ステップ 1:

コンピュータの電源をオンにし、POST(パワーオンセルフテスト)中に <Delete> を押して BIOS セットアップに入ります。RAIDを作成するには、**SATA Mode Selection** メニューの下で **Peripherals** を RAID 設定します(図 1)。RAIDを作成しない場合、この項目をIDEまたはAHCIに設定します。



図 1

ステップ 2:

変更を保存し BIOS セットアップを終了します。



このセクションで説明した BIOS セットアップメニューは、マザーボードの正確な設定によって異なることがあります。
表示される実際の BIOS セットアップオプションは、お使いのマザーボードおよび BIOS バージョンによって異なります。

C. RAID BIOS で RAID アレイを設定する

RAID BIOS セットアップユーティリティに入つて、RAID アレイを設定します。非 RAID 構成の場合、このステップをスキップし、Windows オペレーティングシステムのインストールに進んでください。

ステップ 1:

POST メモリテストが開始された後でオペレーティングシステムがブートを開始する前に、「Press <Ctrl-I> to enter Configuration Utility」(図 2)。<Ctrl> + <I>を押して RAID 設定ユーティリティに入ります。

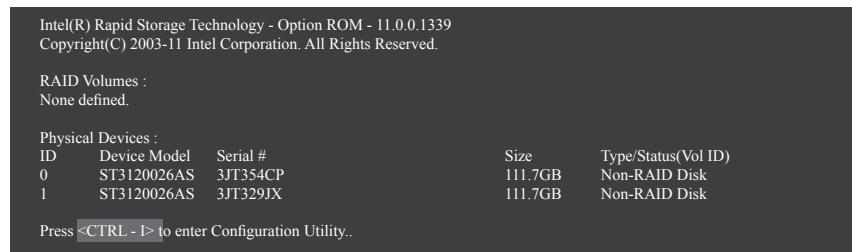


図 2

ステップ 2:

<Ctrl> + <I> を押すと、MAIN MENU スクリーンが表示されます (図 3)。

RAIDボリュームを作成する

RAID アレイを作成する場合、MAIN MENU で Create RAID Volume を選択し <Enter> を押します。

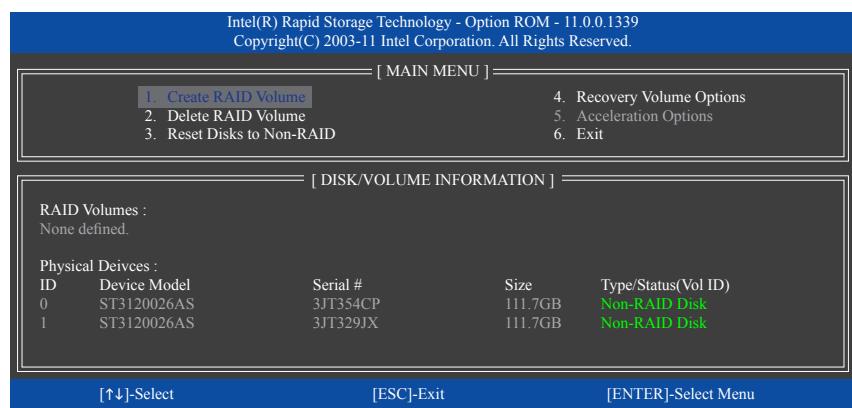


図 3

ステップ 3:

CREATE VOLUME MENU スクリーンに入った後、**Name** アイテムの下で 1~16 文字 (文字に特殊文字を含めることはできません) のボリューム名を入力し、<Enter> を押します。次に、RAID レベルを選択します (図 4)。サポートされる RAID レベルには RAID 0、RAID 1、RAID 10、と RAID 5 が含まれています (使用可能な選択は取り付けられているハードドライブの数によって異なります)。<Enter> を押して続行します。

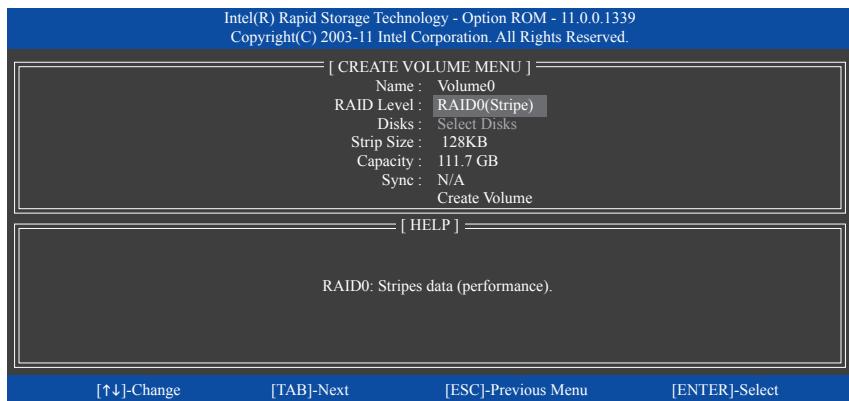


図 4

ステップ 4:

Disks アイテムの下で、RAID アレイに含めるハードドライブを選択します。取り付けたドライブが 2 しかない場合、ドライブはアレイに自動的に割り当てられます。必要に応じて、ストライプブロックサイズ (図 5) を設定します。ストライプブロックサイズは 4 KB~128 KB まで設定できます。ストライプブロックサイズを選択してから、<Enter> を押します。

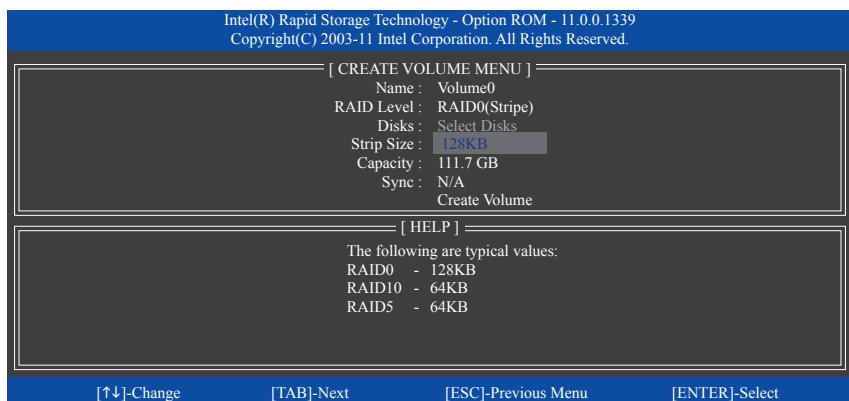


図 5

ステップ5:
アレイの容量を入力し、<Enter>を押します。最後に、**Create Volume**で<Enter>を押し、RAIDアレイの作成を開始します。ボリュームを作成するかどうかの確認を求められたら、<Y>を押して確認するか<N>を押してキャンセルします(図6)。

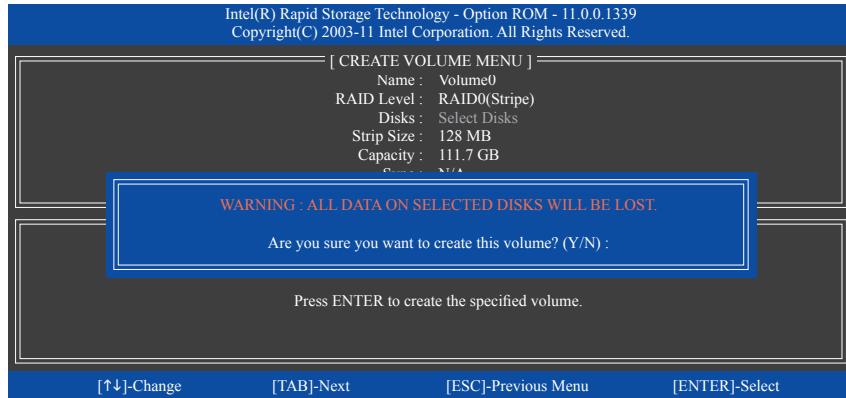


図6

完了したら、**DISK/VOLUME INFORMATION**セクションに、RAIDレベル、ストライブブロックサイズ、アレイ名、およびアレイ容量などを含め、RAIDアレイに関する詳細な情報が表示されます(図7)。

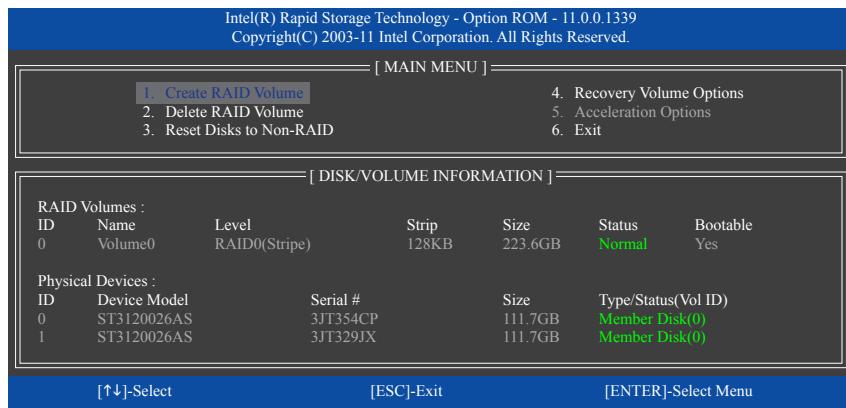


図7

RAID BIOS ユーティリティを終了するには、<Esc>を押すか **MAIN MENU**で**6. Exit**を選択します。
これで、SATA RAID/AHCIドライバとオペレーティングシステムのインストールを続けることができます。

リカバリボリュームオプション

Intel Rapid Recover Technologyでは指定されたリカバリドライブを使用してデータとシステム操作を容易に復元できるようにすることで、データを保護しています。Rapid Recovery Technologyでは、RAID 1機能を採用しているため、マスタードライブからリカバリドライブにデータをコピーすることができます。必要に応じて、リカバリドライブのデータをマスタードライブに復元することができます。

始める前に:

- リカバリドライブは、マスタードライブより大きな容量にする必要があります。
- リカバリボリュームは、2台のハードドライブがある場合のみ作成できます。リカバリボリュームと RAID アレイはシステムに同時に共存することはできません。つまり、リカバリボリュームがすでに作成されている場合、RAID アレイを作成できません。
- デフォルトで、オペレーティングシステムにはマスタードライブのみが表示されます。リカバリドライブは非表示にされています。

ステップ1:

MAIN MENU で Create RAID Volume を選択し、<Enter>を押します(図8)。

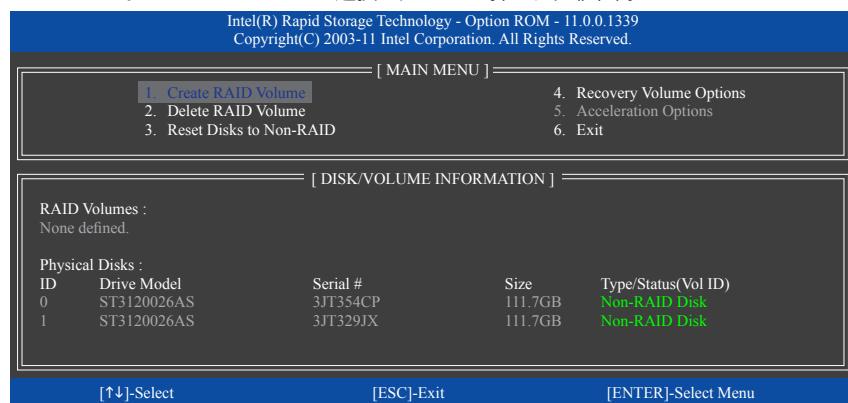


図8

ステップ2:

ボリューム名を入力した後、RAID Level アイテムの下で Recovery を選択し<Enter>を押します(図9)。

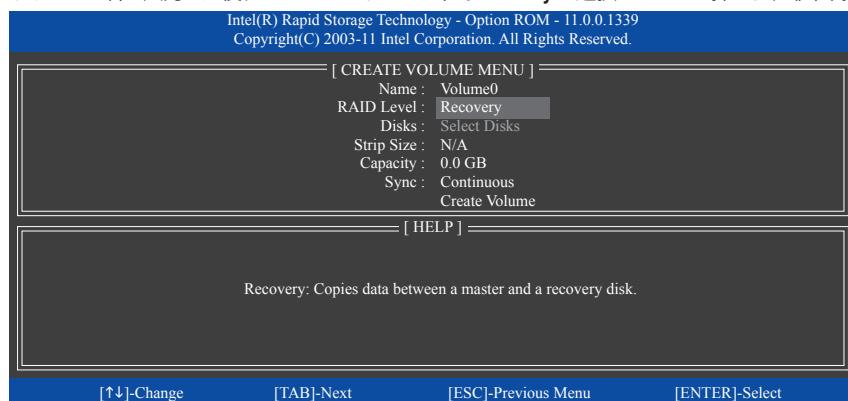


図9

ステップ 3:

Select Disksアイテムの下で、<Enter>を押します。**SELECT DISKS** ボックスで、マスタードライブに対して使用するハードドライブには<Tab>を押し、リカバリドライブに対して使用するハードドライブには<Space>を押します。(リカバリドライブの容量がマスタードライブの容量より大きいことを確認してください)。<Enter>を押して確認します(図 10)。

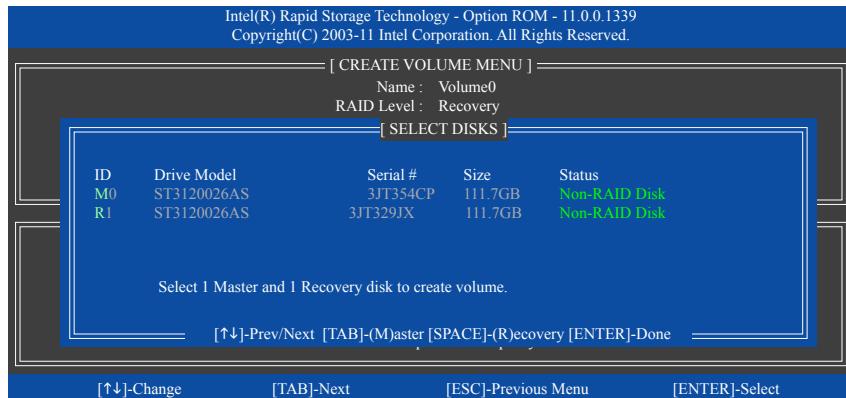


図 10

ステップ 4:

Sync の下で、**Continuous** または **On Request** を選択します(図 11)。**Continuous** に設定されているとき、両方のハードドライブがシステムの取り付けられていれば、マスタードライブのデータを変更するとその変更はリカバリドライブに自動的かつ連続してコピーされます。**On Request** では、オペレーティングシステムのIntel Rapid Storage Technologyユーティリティを使用してマスタードライブからリカバリドライブに手動でデータを更新できます。**On Request** では、マスタードライブを以前の状態に復元することもできます。

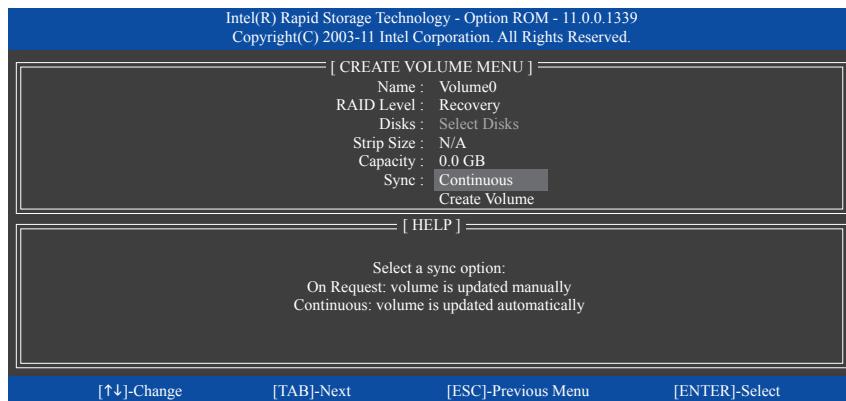


図 11

ステップ 5:

最後に、**Create Volume** アイテムで <Enter> を押してリカバリボリュームの作成を開始し、オンスクリーンの指示に従って完了します。

RAIDボリュームを削除する

RAID アレイを削除するには、**MAIN MENU** で **Delete RAID Volume** を選択し、<Enter> を押します。 **DELETE VOLUME MENU** セクションで、上または下矢印キーを使用して削除するアレイを選択し、<Delete> を押します。選択を確認するように求められたら (図 12)、<Y> を押して確認するか <N> を押して中断します。

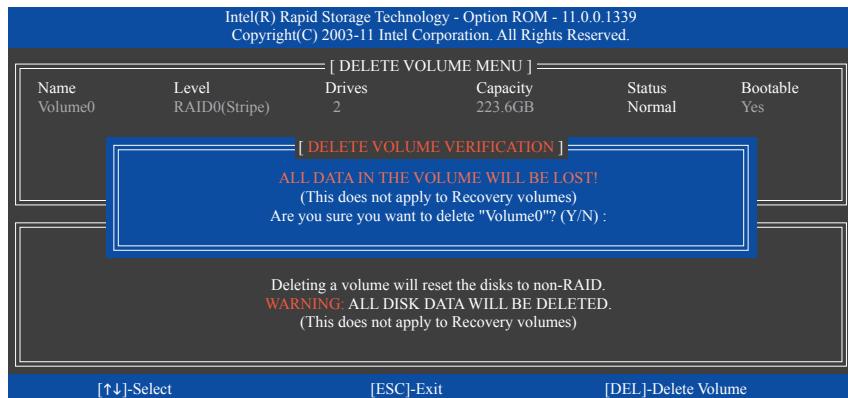


図 12

高速化オプション

このオプションにより、インテルIRSTユーティリティを使用して作成された高速化ドライブ / ボリューム (図 13) の状態を表示できるようになります。アプリケーションエラーまたはオペレーティングシステムの問題によりインテルIRSTユーティリティを動作させることができなくなつた場合は、RAID ROMユーティリティにあるこのオプションを使用して、高速化をなくすかまたは手動で同期を有効にする必要があります (最大化モードのみ)。

ステップ:

Acceleration Options で **MAIN MENU** を選択し、<Enter>を押します。

高速化をなくすために、高速化するドライブ/ボリュームを選択してから <R> を押し、<Y> で確定します。

キャッシュデバイスと高速化ドライブ/ボリュームのデータを同期するには、<S> を押してから <Y> を押して確定します。

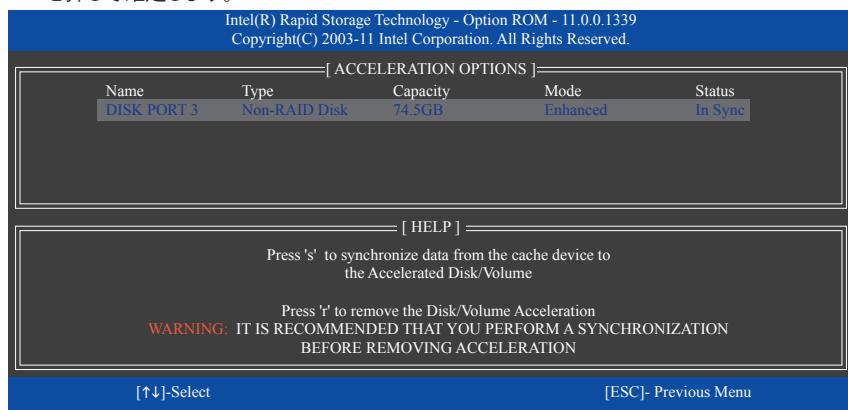


図 13

5-1-2 SATA RAID/AHCI ライバとオペレーティングシステムのインストール
BIOS設定が正しく行われていれば、Windows 7をいつでもインストールできます。

A. Windows 7 のインストール

Windows 7 にはすでに Intel SATA RAID/AHCI ドライバが含まれているため、Windows のインストールプロセスの間、RAID/AHCIを個別にインストールする必要はありません。オペレーティングシステムのインストール後、「Xpress Install」を使用してマザーボードドライバディスクから必要なドライバをすべてインストールして、システムパフォーマンスと互換性を確認するようお勧めします。

B. アレイを再構築する

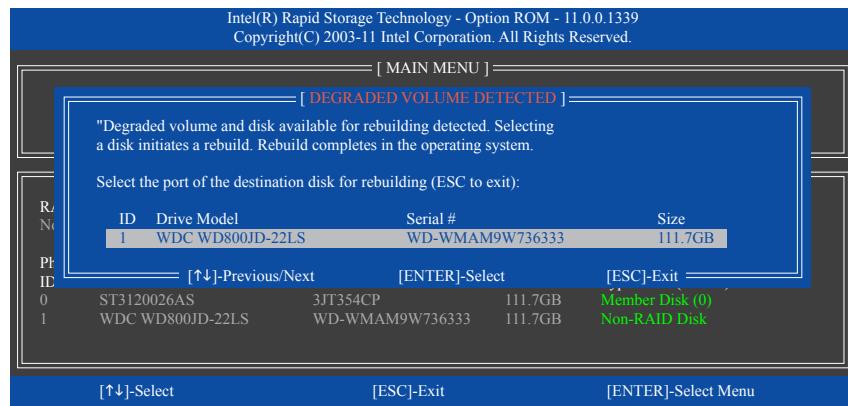
再構築は、アレイの他のドライブからハードドライブにデータを復元するプロセスです。再構築は、RAID 1、RAID 5 または RAID 10 アレイなど耐故障性アレイに対してのみ、適用されます。以下の手順では、新しいドライブを追加して故障したドライブを交換し RAID 1 アレイに再構築するものとします。(注: 新しいドライブは古いドライブより大きな容量にする必要があります。)

コンピュータの電源をオフにし、故障したハードドライブを新しいものと交換します。コンピュータを再起動します。

・自動再構築を有効にする

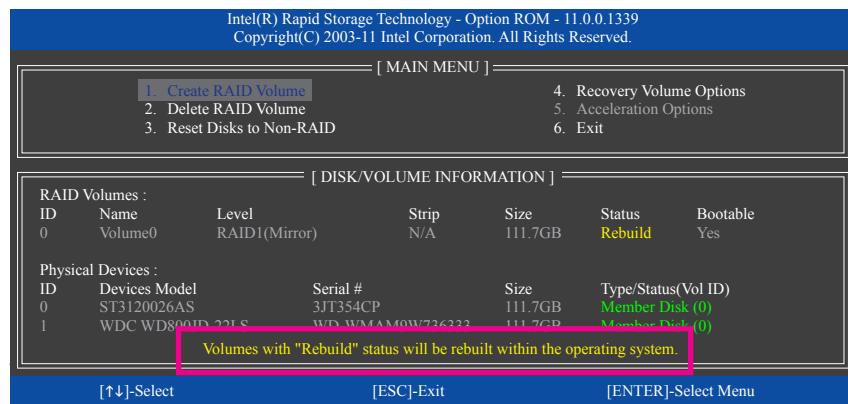
ステップ 1:

「Press <Ctrl-I> to enter Configuration Utility」というメッセージが表示されたら、<Ctrl> + <I> を押して RAID 構成ユーティリティに入ります。RAID 構成ユーティリティに入ると、次の画面が表示されます。



ステップ 2:

新しいハードドライブを選択して再構築するアレイに追加し、<Enter>を押します。次の画面が表示され、オペレーティングシステムに入った後で自動再構築が自動的に実行されます（RAID ボリュームが再構築されることを示す通知領域で Intel Rapid Storage Technology アイコンを確認します）。この段階で自動再構築を有効にしないと、オペレーティングシステムでアレイを手動で再構築する必要があります（詳細については、次のページを参照してください）。



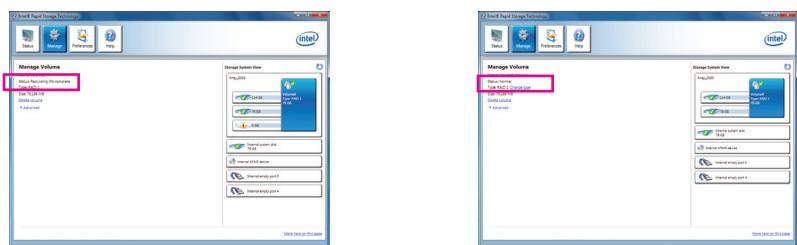
・オペレーティングシステムで再構築を実行する

オペレーティングシステムに入っている間に、チップセットドライバがマザーボードドライバディスクからインストールされていることを確認します。Start メニューで All Programs から Intel Rapid Storage Technology ユーティリティを起動します。



ステップ 1:

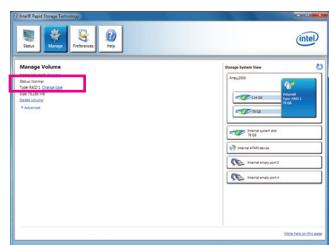
Manage メニューに移動し、Manage Volume で Rebuild to another disk をクリックします。



画面左の Status 項目にリビルド進捗状況が表示されます。

ステップ 2:

新しいドライブを選択して RAID をリビルドし、Rebuild をクリックします。



ステップ 3:

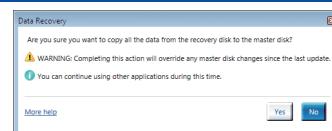
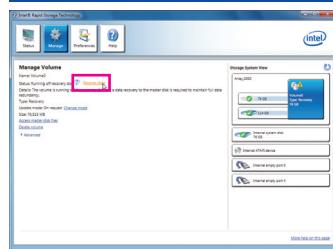
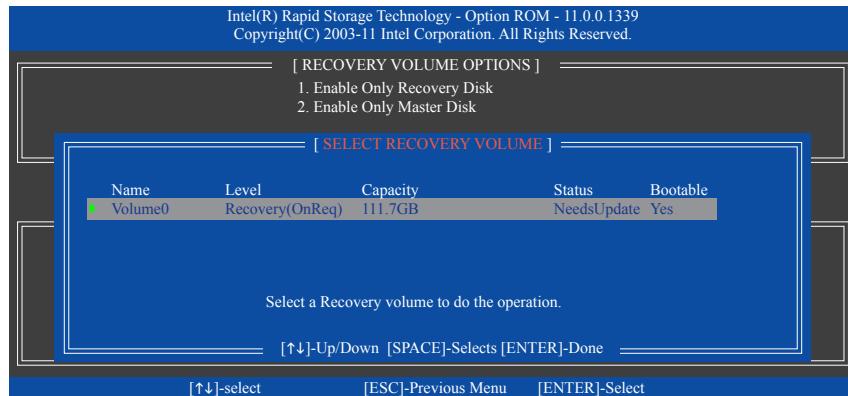
RAID 1 ボリュームを再構築した後、Status に Normal として表示されます。

・マスタードライブを以前の状態に復元する(リカバリボリュームの場合のみ)

要件に応じて更新するモードで2台のハードドライブをリカバリボリュームに設定すると、必要に応じてマスタードライブのデータを最後のバックアップ状態に復元できます。たとえば、マスタードライブがウイルスを検出すると、リカバリドライブのデータをマスタードライブに復元することができます。

ステップ1:

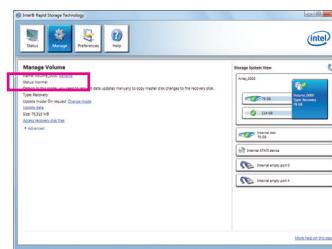
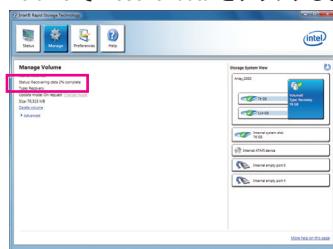
RAID構成ユーティリティの **MAIN MENU** で **4. Recovery Volume Option** を選択します。**RECOVERY VOLUMES OPTIONS** メニューで、**Enable Only Recovery Disk** を選択してオペレーティングシステムのリカバリドライブを表示します。オンスクリーンの指示に従って完了し、RAID構成ユーティリティを終了します。



ステップ3:
Yes をクリックして、データの復元を開始します。

ステップ2:

Intel Rapid Storage Technologyユーティリティの **Manage** メニューに移動し、**Manage Volume** で **Recover data** をクリックします。



画面左の**Status** 項目にリビルド進捗状況が表示されます。

ステップ4:
リカバリボリュームが完了した後、**Status** に **Normal** として表示されます。

5-2 オーディオ入力および出力を設定

5-2-1 2/5.1-チャンネルオーディオの設定

マザーボードは、2/5.1チャンネルオーディオをサポートします。スピーカー設定について
は、次の参照してください。

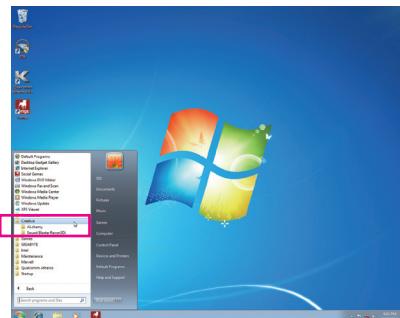
- 2 チャンネルオーディオ: ヘッドフォンまたはラインアウト。
- 5.1 チャンネルオーディオ: フロントスピーカーアウト、リアスピーカーアウトとセンタ-/サブウーファスピーカーアウト。



5-2-2 Creative Software Suite

オーディオドライバをインストールした後、Start\All Programs\Creativeの順にポイントしてCreative Software Suiteを検索できます。

Creative Software Suiteには、Creative AlchemyとSound Blaster Recon3Diが含まれています。

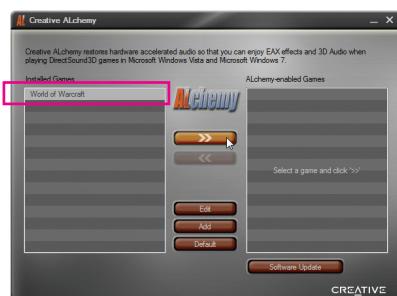


Creative Alchemy

Creative Alchemyを通してゲームのEAX効果を有効にすると、もっともリアルなゲーム体験を体感できます。

ステップ:

Start\All Programs\Creative\Alchemy の順にポイントしてCreative Alchemyを起動します。左パネルで、EAX効果を有効にしたいゲームを選択し、右のパネルに追加します。ゲームが起動するとき、EAX効果が有効になっていることが分かります。



Sound Blaster Recon3Di

Sound Blaster Recon3Diコントロールパネルを起動するには、Start>All Programs\Creativeで **Sound Blaster Recon3Di** を選ぶか、または通知エリアで  アイコンをクリックして **Open** を選択します。

THX TRUSTUDIO PRO:

THX TruStudio アイコンをクリックして有効または無効にします。右側のスライドにより、各機能の拡張レベルを調整することができます。

- Surround:
仮想サラウンドサウンドチャンネルを生成することで、音の奥行きと広がりの自然な感覚を広げるイマージョンコントロールを提供します。
- Crystalizer:
音楽をアーティストが本来意図するのと同じくらい良い音にし、映画やゲームのリアル感レベルをより向上させます。
- Bass:
この機能は、ステレオスピーカーまたはヘッドホンがインストールされている場合のみ使用可能です。欠けている低周波音を埋めることで、より良いエンターテインメント体験にさらにインパクトを与えます。クロスオーバー周波数機能は、2.0チャンネルステレオスピーカーシステムが設置されている場合のみ使用可能です。
- Smart Volume:
自動的かつ継続的に音量を測定し、変更を補うため利得と減衰を知的に適用することで、再生中や曲間に起こる突然の音量レベル変化問題に対処します。
- Dialog Plus:
映画の音声を拡張して会話をよりクリアにすることにより、リスニング環境でリスナーはサウンドトラックの残りや周囲騒音より大きい音で会話が聞こえるようになります。



CRYSTALVOICE (クリスタルボイス):

このページでは、録音機器の選択、マイク音量/ブースト調整、および関連設定が行えます。また、クリスタルボイス機能を設定することもできます。

- FX:
音声を異なるキャラクターやアクセントに変形させます。
- Smart Volume:
スピーカーの音声の大きさを自動調整して一定の音量レベルを維持します。
- Noise Reduction:
会話中の不要な背景ノイズを削除します。
- Acoustic Echo Cancellation:
会話に干渉する残響を削減します。



SCOUT MODE (スカウトモード):

このページでは、スカウトモードを有効または無効にすることができます。この機能により、FPSゲームで対戦者の音がずっと遠くから聞こえるようになり、対戦ではっきりと認識できる戦術的メリットを得ることができます。ゲーム中にこの機能を有効または無効にするよう使用できるホットキーを設定することができます。



SPEAKERS/HEADPHONES (スピーカー/ヘッドホン):

このページでは、出力デバイスのスピーカーまたはヘッドホン設定およびスピーカーまたはヘッドホンのセットアップを行うことができます。(注: スピーカーとヘッドホンを同時に使用することはできません。ヘッドホン機能が選択されると、音が前面のライン出力または背面のヘッドホンジャックのみから出るようになります。)

スピーカー/ヘッドホン設定:

選択したデバイスによって **5.1 Surround**, **Stereo** または **Headphones** を選択できます。5.1 チャンネル設定を行うと、特定のスピーカーの解除または開始を手動で行うことができます。



MIXER (ミキサー):

このページでは、入力/出力デバイスの再生音量と録音音量を上下させることができます。



EQUALIZER (イコライザー):

このパネルでは、オーディオ信号にある特定の周波数の強さを調整できます。



ADVANCED FEATURES (詳細機能):

このページでは、ステレオミックスをデジタル出力で再生することができます。ミックスしたオーディオ信号をスピーカーやS/PDIF出力に同時に出して、2チャンネルサウンドを得ることができます。

(注: この機能を使用する際、Windowsのコントロールパネルで既定の再生デバイスを **SPDIF Out** ではなく **Speaker** に設定する必要があります。



その他の機能:

Profile ボタンにより、SPEAKERS/HEADPHONES、MIXER、または ADVANCED FEATURES ページの設定をプロファイルに保存することができます。お客様のカスタム設定をエクスポートして他人と共有したり、他人のカスタム設定をインポートすることができます。



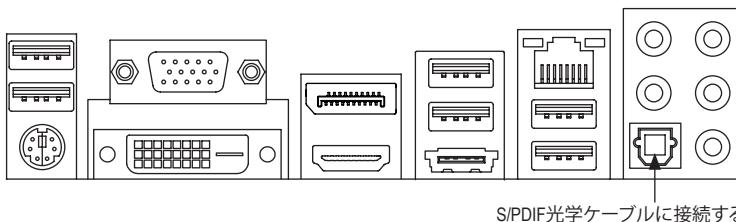
(注) Sound Blaster Recon3Diの詳細については、CREATIVEのWebサイトにアクセスしてください。

5-2-3 S/PDIF アウトを構成する

S/PDIF アウト ジャックはデコード用にオーディオ信号を外部デコーダに転送し、最高の音質を得ることができます。

1. S/PDIF アウトケーブルを接続する:

S/PDIF光学ケーブルを外部デコーダーに接続して、S/PDIFデジタルオーディオ信号を伝送します。



2. S/PDIF アウトを構成する:

ステップ 1:

オペレーティングシステムに入っている間、通知領域の アイコンを右クリックし、**Playback devices** を選択します。



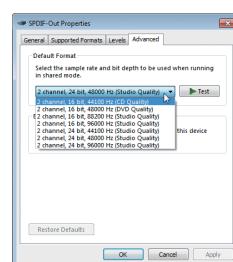
ステップ 2:

Playback タブで、**SPDIF Out** を右クリックし、**Set as Default Device** を選択してから、**Properties** ダイアログボックスを開きます。



ステップ 3:

Supported Formats タブに移動してサポートする形式を選択するか、**Advanced** タブに移動してサンプルレートとビットシンドを選択します。



5-2-4 オーディオ録音を設定する

マイクまたはライン入力デバイスからの音を録音したり、お使いのコンピューターから録音することができます。

1. マイクの設定:

ステップ 1:

マイクをバックパネルのマイクインジャック(ピンク)、またはフロントパネルのマイクインジャック(ピンク)に接続します。

注: フロントパネルとバックパネルのマイク機能は、同時に使用できません。

Sound Blaster Recon3Diコントロールパネルを開き、CRYSTALVOICE ページに移動します。マイクが正しく接続されていることをご確認ください。



ステップ 2:

録音処理中に録音されているサウンドを聞く場合は、Mic volume を中間レベルに設定することをお奨めします。録音ボリュームを消音にしないでください、サウンドの録音ができなくなります。マイク用の録音および再生ボリュームを上げるには、Mic Boost スライダーを用いてマイクのブーストレベルを設定します。



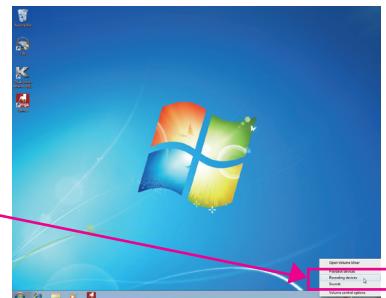
2. ライン入力デバイスの設定:

ステップ 1:

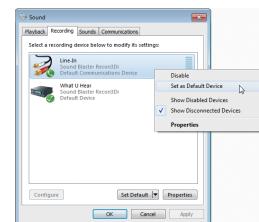
Sound Blaster Recon3Diコントロールパネルを開き、Mixer ページに移動します。RECセクションで、Input Deviceアイコンをクリックして Rear Line Inを選択します。後に、Line-Inスライダーを用いて音量を設定します。



ステップ 2:
通知領域で  アイコンを右クリックして、
Recording devices を選択します。

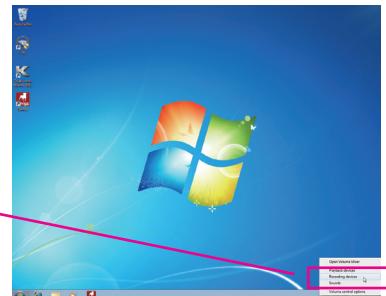


ステップ 3:
Recordingタブで、**Line-In**を右クリックして **Set as Default Device**を選択します。

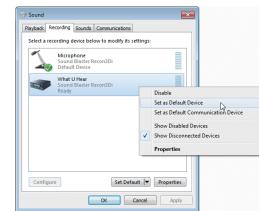


3. コンピューターからの録音:

ステップ 1:
オペレーティングシステムに入っている間、
通知領域の  アイコンを右クリックし、
Recording devicesを選択します。



ステップ 2:
Recordingタブで、**What U Hear** を右クリックして
Set as Default Deviceを選択します。

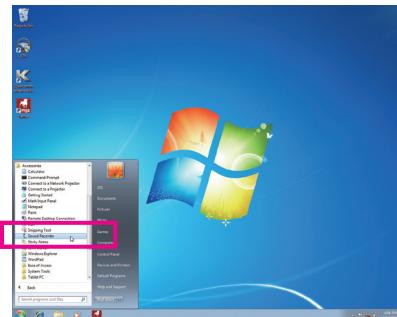


ステップ 3:

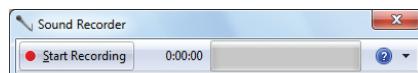
Sound Blaster Recon3Diコントロールパネルを開き、Mixer ページに移動します。REC セクションで、What U Hear スライダーを用いて音量を設定します。



録音デバイスを設定後、Start をクリックして All Programs - Accessories をポイントし、Sound Recorderをクリックして録音を開始します。



5-2-5 Sound Recorderを使用する



A. サウンドを録音する

1. コンピュータにサウンド入力デバイス(マイク、など)を接続していることを確認します。
2. オーディオを録音するには、Start Recording ボタン [Start Recording] をクリックします。
3. オーディオ録音を停止するには、Stop Recording ボタン [Stop Recording] をクリックします。
完了したら、録音したオーディオファイルを必ず保存してください。

B. 録音したサウンドを再生する

オーディオファイル形式をサポートするデジタルメディアプレーヤープログラムで録音を再生することができます。

5-3 ラブルシューティング

5-3-1 良くある質問

マザーボードに関するFAQの詳細をお読みになるには、GIGABYTEのWebサイトの **Support & Downloads\FAQ** ページにアクセスしてください。

Q: なぜコンピュータのパワーを切った後でも、キーボードと光学マウスのライトが点灯しているのですか?
A: いくつかのマザーボードでは、コンピュータのパワーを切った後でも少量の電気でスタンバイ状態を保持しているので、点灯したままになっています。

Q: CMOSのクリアをするには?

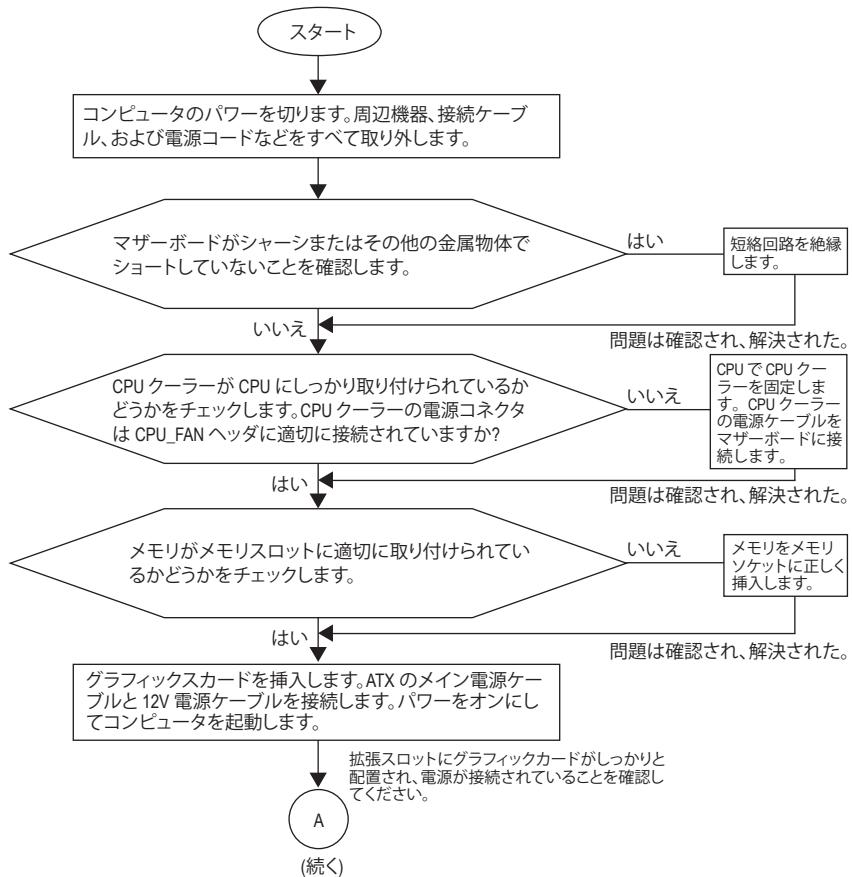
A: クリアCMOSボタンの付いたマザーボードの場合、このボタンを押してCMOS値をクリアします(これを実行する前に、コンピュータの電源をオフにし電源コードを抜いてください)。クリアCMOSジャンパの付いたマザーボードの場合、第1章の指示を参照してジャンパをショートしCMOS値をクリアします。ボードにこのジャンパ/ボタンが付いてない場合、第1章のマザーボードバッテリに関する説明を参照してください。バッテリホルダからバッテリを一時的に取り外してCMOSへの電力供給を止めると、約1分後にCMOS値がクリアされます。

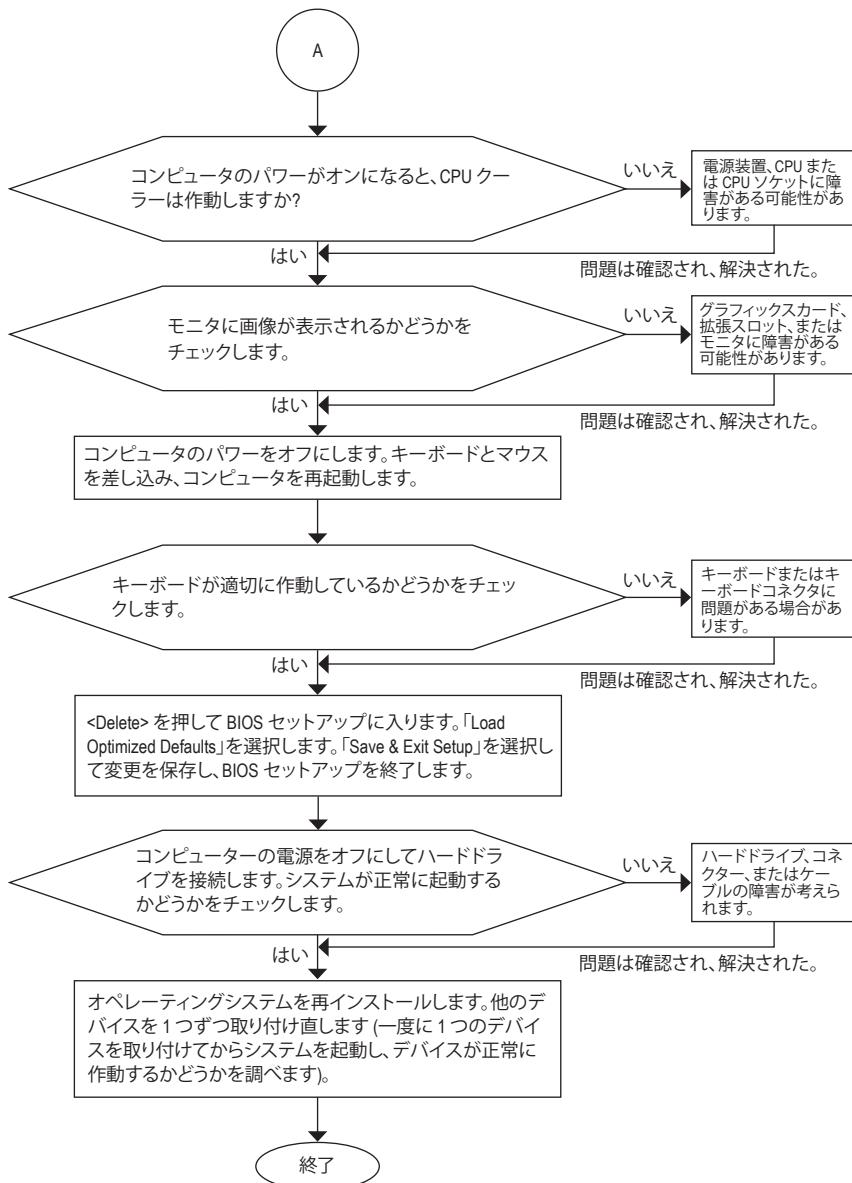
Q: なぜスピーカーの音量を最大にしても弱い音しか聞こえてこないのでしょうか?

A: スピーカーにアンプが内蔵されていることを確認してください。内蔵されていない場合、電源アンプでスピーカーを試してください。

5-3-2 トラブルシューティング手順

システム起動時に問題が発生した場合、以下のトラブルシューティング手順に従って問題を解決してください。





上の手順でも問題が解決しない場合、ご購入店または販売代理店に相談してください。または、[Support & Downloads](#)[Technical Support](#) ページに移動し、質問を送信してください。当社の顧客サービス担当者が、できるだけ速やかにご返答いたします。

5-4 規制声明

規制に関する注意

本文書は当社の書面による事前の許可なしにはコピーすることができます、そのコンテンツはサードパーティに開示したり、不正目的で使用することはできません。違反すると起訴されることになります。当社は、ここに含まれる情報が印刷時点ではすべての点で正確であったと信じます。しかしながら、GIGABYTEはこのテキストの誤りや脱落に責任を持ちません。また、本文書の情報は通知なしに変更されることがあります、変更することをGIGABYTEの約束と解釈すべきではありません。

環境を守ることに対する当社の約束

高効率/パフォーマンスだけでなく、すべてのGIGABYTEマザーボードはRoHS(電気電子機器に関する特定有害物質の制限)とWEEE(廃電気電子機器)環境指令、およびほとんどの主な世界的安全要件を満たしています。環境中に有害物質が解放されることを防ぎ、私たちの天然資源を最大限に活用するために、GIGABYTEではあなたの「耐用年数を経た」製品のほとんどの素材を責任を持ってリサイクルまたは再使用するための情報を次のように提供します。

RoHS(危険物質の制限)指令声明

GIGABYTE製品は有害物質(Cd, Pb, Hg, Cr+6, PBDE, PBB)を追加する意図はなく、そのような物質を避けています。部分とコンポーネントRoHS要件を満たすように慎重に選択されています。さらに、GIGABYTEは国際的に禁止された有毒化学薬品を使用しない製品を開発するための努力を続けています。

WEEE(廃電気電子機器)指令声明

GIGABYTEは2002/96/EC WEEE(廃電気電子機器)の指令から解釈されるように国の法律を満たしています。WEEE指令は電気電子デバイスとそのコンポーネントの取り扱い、回収、リサイクル、廃棄を指定します。指令に基づき、中古機器はマークされ、分別回収され、適切に廃棄される必要があります。

WEEE記号声明



以下に示した記号が製品にある場合は梱包に記載されている場合、この製品を他の廃棄物と一緒に廃棄してはいけません。代わりに、デバイスを処理、回収、リサイクル、廃棄手続きを行うために廃棄物回収センターに持ち込む必要があります。廃棄時に廃機器を分別回収またはリサイクルすることにより、天然資源が保全され、人間の健康と環境を保護するやり方でリサイクルされることが保証されます。リサイクルのために廃機器を持ち込むことのできる場所の詳細については、最寄りの地方自治体事務所、家庭ごみ廃棄サービス、また製品の購入店に環境に優しい安全なリサイクルの詳細をお尋ねください。

- ◆ 電気電子機器の耐用年数が過ぎたら、最寄りのまたは地域の回収管理事務所に「戻し」リサイクルしてください。
- ◆ リサイクル、「耐用年数の過ぎた」製品の犀利超生命的「終わり」製品についてさらに詳しいことをお知りになりたい場合、製品のユーザーマニュアルに一覧した顧客ケアにお問い合わせください。できる限りお客様のお力になれるように努めさせていただきます。

最後に、本製品の省エネ機能を理解して使用し、また他の環境に優しい習慣を身につけて、本製品を納品したときの梱包の内装と外装(運送用コンテナを含む)をリサイクルし、使用済みバッテリを適切に廃棄またはリサイクルすることをお勧めします。お客様のご支援により、当社は電気電子機器を製造するために必要な天然資源の量を減らし、「耐用年数の過ぎた」製品の廃棄のための埋め立てごみ処理地の使用を最小限に抑え、潜在的な有害物質を環境に解放せず適切に廃棄することで、生活の質を向上することができます。



連絡先

- **GIGA-BYTE TECHNOLOGY CO., LTD.**
アドレス: No.6, Bao Chiang Road, Hsin-Tien Dist.,
New Taipei City 231,Taiwan
TEL: +886-2-8912-4000
FAX: +886-2-8912-4003
技術および非技術。サポート(販売/マーケティング):
<http://ggts.gigabyte.com.tw>
WEBアドレス(英語): <http://www.gigabyte.com>
WEBアドレス(中国語): <http://www.gigabyte.tw>
- **G.B.T. INC. - U.S.A.**
TEL: +1-626-854-9338
FAX: +1-626-854-9326
技術サポート: <http://ggts.gigabyte.com.tw>
保証情報: <http://rma.gigabyte.us>
Webアドレス: <http://www.gigabyte.us>
- **G.B.T. INC (USA) - メキシコ**
Tel: +1-626-854-9338 x 215 (Soporte de habla hispano)
FAX: +1-626-854-9326
Correo: soporte@gigabyte-usa.com
技術サポート: <http://rma.gigabyte.us>
Webアドレス: <http://latam.giga-byte.com>
- **Giga-Byte SINGAPORE PTE. LTD. - シンガポール**
WEBアドレス: <http://www.gigabyte.sg>
- **タイ**
WEBアドレス: <http://th.giga-byte.com>
- **ベトナム**
WEBアドレス: <http://www.gigabyte.vn>

- **NINGBO G.B.T. TECH. TRADING CO., LTD. - 中国上海**
WEBアドレス: <http://www.gigabyte.cn>
TEL: +86-21-63410999
FAX: +86-21-63410100
北京
TEL: +86-10-62102838
FAX: +86-10-62102848
武漢
TEL: +86-27-87851061
FAX: +86-27-87851330
広州
TEL: +86-20-87540700
FAX: +86-20-87544306
成都
TEL: +86-28-85236930
FAX: +86-28-85256822
西安
TEL: +86-29-85531943
FAX: +86-29-85510930
瀋陽
TEL: +86-24-83992901
FAX: +86-24-83992909
- **GIGABYTE TECHNOLOGY (INDIA) LIMITED - インド**
WEBアドレス: <http://www.gigabyte.in>
- **サウジアラビア**
WEBアドレス: <http://www.gigabyte.com.sa>
- **Gigabyte Technology Pty. Ltd. - オーストラリア**
WEBアドレス: <http://www.gigabyte.com.au>

- G.B.T. TECHNOLOGY TRADING GMBH - ドイツ
WEBアドレス: <http://www.gigabyte.de>
- G.B.T. TECH. CO., LTD. - U.K.
WEBアドレス: <http://www.giga-byte.co.uk>
- Giga-Byte Technology B.V. - オランダ
WEBアドレス: <http://www.giga-byte.nl>
- GIGABYTE TECHNOLOGY FRANCE - フランス
WEBアドレス: <http://www.gigabyte.fr>
- スウェーデン
WEBアドレス: <http://www.gigabyte.se>
- イタリア
WEBアドレス: <http://www.giga-byte.it>
- スペイン
WEBアドレス: <http://www.giga-byte.es>
- ギリシャ
WEBアドレス: <http://www.gigabyte.com.gr>
- チェコ共和国
WEBアドレス: <http://www.gigabyte.cz>

- ハンガリー
WEBアドレス: <http://www.giga-byte.hu>
 - トルコ
WEBアドレス: <http://www.gigabyte.com.tr>
 - ロシア
WEBアドレス: <http://www.gigabyte.ru>
 - ポーランド
WEBアドレス: <http://www.gigabyte.pl>
 - ウクライナ
WEBアドレス: <http://www.gigabyte.ua>
 - ルーマニア
WEBアドレス: <http://www.gigabyte.com.ro>
 - セルビア
WEBアドレス: <http://www.gigabyte.co.rs>
 - カザフスタン
WEBアドレス: <http://www.giga-byte.kz>
- GIGABYTE Webサイトにアクセスし、Webサイトの右上にある言語リストで言語を選択することができます。

• GIGABYTEグローバルサービスシステム



技術的または技術的でない(販売/マーケティング)質問を送信するには:
<http://ggts.gigabyte.com.tw>
にリンクしてから、言語を選択し、システムに入ります。